
スマブラ@逃走中 ―謎解きサバイバル!?!―

桜坂電波塔

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スマブラ@逃走中 ―謎解きサバイバル!?!―

【Nコード】

N6485N

【作者名】

桜坂電波塔

【あらすじ】

マスターの暇潰し(?)で逃走中をやることになったスマブラメンバー。

逃走者のxメンバーの他にdxメンバー、オリキャラなどが実行委員として登場する中、逃走者の運命を左右する怪しい集団がやってくる…。

彼らの目的とその正体に気づくものはいるのか…?

37人の逃走者のなか300分を逃げ切る者は現れるのか。

スマブラと逃走中のコラボ的な小説です。
オリキャラ&ゲスト的な人が出るのでご注意を。

登場人物紹介（前書き）

スマブラ逃走中書いてみました。

新学期始まったのでゆったり更新でいつてみたいと思います。
今回はキャラ紹介です。

登場人物紹介

逃走者紹介

マリオ

自称ミスター任天堂。通称赤い髭。

一番最初に書いてあるから主人公ということもなく、この小説では嫌われ者（笑）

持てない癖にやたらナンパする癖があるため毎回ピーチにぼこられる。

足の速さはそこそこ。（おっさんなんで）

ルイージ

マリオの双子の弟。

永遠の二番手とか呼ばれるのも納得なほど影が薄い。

そして貧乏くじを毎回のように引いてしまうある意味可哀そうな人。

足は、まあまあ。（マリオと似たくらい）

ピーチ

キノコの国のお姫様。

基本おっとりだがマリオに対してやたら厳しい。

裏表がすごいはげしい。怒らせると怖い。

普段はスカートのため遅いが今回は走りやすく改良したらしい。（詳細不明）

クッパ

毎回ピーチをさらってマリオにぼこされる有名な亀。

巨体のため足が遅く、おまけに見つかりやすいことだろう。

期待はしないでおう（ry

ドンキーコング

ネクタイをつけたサル。

バナナが好きで常に持ち歩いてるとか。

足は微妙に速いが足音が大きいのでかなり不利なことだろう。

ディディーコング

ドンキーの弟分のようなサル。

こちらもバナナが大好きで常に持ち歩いているとか。

しかし逃走中では当たり前だがハンターへの妨害を禁止するために皮を投げることはできない

ヨッシー

食いしん坊な緑の恐竜。

よく食べてよく卵を産む（♀!？

それでも足は結構早く、本人も逃げ足には自信があるとか。

ワリオ

メタボな社長。

足はかなり遅くて逃げ足には全く期待できない。
本人もそれは認めているらしく、隠れて過ごすことにしようと思っ
ているらしい。

リンク

ハイラルの勇者。

マスターソードはもちろん持ち込み不可。

泣く泣く置いてきた。(笑)

ゼルダが好きだがヘタレなんでなかなか進展しない。

おまけにかなりの不幸体質。

足は速いが逃げ切れるかは微妙なところ。

ゼルダ

姫さん。今回はシークと別れて参加。

リンクが好きだけど恥ずかしくてなかなか進展させることができな
い。

足は少し早い。

シーク

ゼルダとある意味同一人物。

しかし性格は違って、ゼルダが大人しいのに対し、シークはクール
で少しいたずら好き。

足はゼルダより速くて、逃走者の中で5位以内くらいには入るだろう。

ガノンドロフ

リンクの永遠のライバル（!?!）

悪知恵がよくはたらく。

足はまあ遅いが本人に自覚なし。

トゥーンリンク

小さな勇者。

リンクとは違ってしっかりしてて運が悪くもない。

小さな割には足が速い。しかし常人なみ。

サムス

女性バウディングハンター。（賞金稼ぎ）

逃走中はゼロスーツで参加。

しっかりしてて皆に慕われる人。

パワードスーツがない分速く走れるのかも。

ピット

パルテナ親衛隊隊長の底抜けポジティブ天使。

明るくて非常にわかりやすい性格をしている。

もちろん飛ぶのは禁止だが今回は羽根すらもついてない。

足の速さは常人より微妙に速いかもと言ったところ。

マルス

アリティアの王子様。

ちなみにどSでナルシという問題ばかりの人。

自分で俊足というだけあって足の速さは逃走者のなかで5位以内に入る。

アイク

グレイル傭兵団の団長さん。

無口でそっけないけど根はやさしい人。

ラグネル（重い）がないため普段よりだいぶ足は速いだろう。

ポポ

アイスクライマーの1人。

元気なちびっこ。

今回はナナとは別行動。

足はあんまり速くない。

ナナ

アイスクライマーの1人。

こちらも元気なちびっこ。

もちろんポポとは別行動。

足の速さはそこそこ。

いつも一緒の2人がバラバラで大丈夫なのか…。

カービィ

食いしん坊のピンク玉。

食いっぷりはヨッシーと競うほど。

ピンク玉なんで走るのは遅い。

メタナイト

世界一かつこいい（自称）の一頭身の仮面の人

仮面をとった素顔はなかなか可愛いらしい。

カービィをライバル視している。

足の速さなどはまあそこそこくらい。

デデデ

ププランドの大王。

ぞいが口癖。

足はガノンと同じくらい遅い。

まあ、こいつあたりはすぐつかまるだろう。

オリマー

ピクミンを引っこ抜くおなじみの人。

今回ピクミンはオリマーに同行しない。

牢獄のあたりでつかまった人たちと牢獄DEトークをする。

ロボット

ロボット。ふつーにロボット。

片言で喋る。正直読みづらい。
足はこれでかなり速い。
と、いうかウィーンてやってるだけなのだが。

フォックス

スターフォックスのリーダー。
性格的にはやんちゃな感じ？
ミッションに積極的に参加しそうな奴。
足もなかなか速い。

ファルコ

クールなエースパイロット。
よくかっこつけるが、やるときはちゃんとやるので問題なし。
こちらも足がなかなか速く、ミッションに積極的に参加しそうな人。

ウルフ

フォックスやファルコのライバル。
荒い性格で、乱暴な人。
ミッションなどには興味なさそうだ。
足は上2人と似たようなもの。

キャプテン・ファルコン

レーサーだから速いかも。
いつものノリでファルコン・パンチはやっちゃだめだぞ☆

陽気で感じのいい人なのでミッションをやってくれることに期待。

ピカチュウ

今回は♂

電撃等は禁止なので出しません。

逃走中なのでちゃんと言葉を喋れるようになってる。

足はネズミ並み。しかし隠れやすそう。

レッド（ポケモントレーナー）

ポケモンを使って戦う少年。

ポケモンを使うからって自分が楽するわけでもなくちゃんと彼なりにがんばっている。

落ち着いて正論を言うのでポケモンたちからの信頼は厚い。

ゼニガメ、フシギソウ、リザードン

今回は参加しない。ちなみに全員♂

こちらも牢獄近くで待機していて牢獄DEトークとかしてる。

あ、喋れる。

ルカリオ

とりあえず♂

波動の使い手なわけだけど波動でハンターの気配を読むのとか禁止。冷静沈着で深く考えて行動するタイプ。

こちらもちゃんと喋れる。

プリン

ポケモンの中でプリンだけは♀
足は遅いが小さいのでいろんなところにかくれられる。
もちろん喋れるがよく語尾に「〜プリ」がつく。

ネス

超能力（PSI）を使う帽子をかぶったちびっこ。
気が強くて仲間思い。しっかりしている。
今回マスターによってPSIが使えないようになってる。
足の速さは通常の子供並み。

リュカ

ネスと同じく超能力（PSI）を使うちびっこ。
ネスより若干年下。
気が弱いけどやると決めた時はちゃんとやる。
足の速さはネスと同じくらいだけどよく転ぶ…。

Mr. ゲーム&ウォッチ

長いので小説内では「ウォッチ」と表示する。
カタカナのみで喋る黒い二次元。
ほぼロボットと似たようなものだと思ってくれればいい。
足はそんなに速くないが二次元、つまりペラペラなので捕まりにく

いかも。

スネーク

段ボールで有名な人。

逃走中でも持参の段ボールに隠れることが許可されている。

（しかしハンターは段ボールを見つけると必ずなかをのぞく）

普段はほふくなので速く走ることはあまりなれていないのだとか。

ソニック

全身青のハリネズミ。

逃走者の中で一番足が速い。

足が速いからといっていい気になったりせず警戒を緩めない彼は一番逃げ切りに近いとされている。

実行委員

（逃走者じゃないけどミッションの時にいたり裏方の仕事をしたたりする人）

マスターハンド

今回逃走中をやることを決めて、ミッションなども考えた企画者。わかってるだろうが人ではなく宙に浮く右手。手袋つき。そして2大神の1人、所謂創世者。皆に楽しんでもらうためとか言ってるが本当はただの暇潰しだろうという噂が立っている。

クレイジーハンド

マスターに手伝えと言われて仕方なく実行委員になった左手。こちらも二大神の一人で破壊者。マスターの弟だが、マスターが紳士的なのに対しこちらは荒っぽい。ちなみに人化することができる。

ロイ

赤髪青サークレットの剣士。元気のいいイタズラっ子。とりあえず出れるならいいということで実行委員になったとか。

ドクターマリオ

すべてのメンバーの中でもっとも頭がいいとされる人。見た目はマリオと大して変わらないが医者格好をしている。マスターにさそわれて実行委員になった。

ミュウツー

伝説のポケモン。

クールな奴。

実行委員は最初は嫌がっていたが他のd xメンバーにさそわれて（無理やりともいう）参加した。

子供リンク

小さな勇者。

元気っ子でしっかり者。

面白そうということで実行委員を作ることをマスターに提案した人。

ピチュー

おなじみのネズミっぽいポケモン。

戦闘能力は最弱だけど役に立てるなら…。と思い子供リンクと一緒に実行委員の作成をマスターに呼び掛けた。少しドジだけど頑張りや。

実行委員（オリキャラ）

水無神 玲羅

みなかみれいらと読む。

接続者^{リンク}という、世界をつなぐ力を持っていて、その力は二大神同様計り知れない（かも）

FEの世界での接続者事件^{リンク}（前作参照☆）以来記憶を失っているらしい。と、クレイジーが言っていた。
どこかぼけっとしててのほーんとした人。

ゲスト（実行委員に似たようなもの）

ユナ

作者の友達。

天然でまったりしている。

パルウエン

作者の友達。

通称ぼるる

男っぽい性格でまあ、クールな感じ。

しかし女の子です、ご注意を

そのほか

ハンター

驚異的なスピードと持久力をあわせ持つ。まさにアスリート。
人間離れした走りで逃走者を追う。

作者

この話の作者。

基本どこにでも現れる。（作者だしww）

しかし今回は牢獄の近くで牢獄DEトークでもいたしましょうか。
となっている。

登場人物紹介（後書き）

登場人物多いですネ。

ゲストは作者の学校の友達です（・ω・）

次はエリア紹介、ルール説明等です。

ルール&エリア説明（前書き）

ルールとエリアの説明だけなんでこれ以上ないくらい短くなってしまいました…。

おおよそこんなんです。

ルール&エリア説明

ルール

制限時間300分間をハンターから逃げる。しかし飛んだりなどは禁止。あくまで走って逃げる。

武器は倉庫にて保管。PSIを持つものやポケモンは技を出せなくなるリストバンドをつけられている。

賞金は1秒200円。

逃げ切った場合は賞金360万円

エリア紹介

西洋風の国「メーゼルローゼン」が舞台。

エリアは都市エリア、城エリア、森エリア、海岸エリア、住宅街エリアの5つ。

位置関係としては一番北に城エリア、西に森エリア、東に住宅街エリア、南に海岸エリア、中央に都市エリアがある。

都市エリアの中央の広場からゲームがスタートする。

自首は各エリアに1つずつある警察署に出頭すればいい。

建物の中などに入って隠れるのも認められている。

ルール&エリア説明（後書き）

かなり適当ですね。

意味不明だったら文句言ってもいいですよ（笑）

次はプロログになります。

開始前の様子みたいなのです。

プロローグ（前書き）

始まると思いきやプロローグです。
逃走中が始まる前の話です。
ピット出現率が多いです。

プロローグ

ここは逃走中の舞台となるメーゼルローゼンの一角にあるいわゆる
控室のようなところ。

逃走者たちはもうそろそろここに集まり始めるだろう。

ロイ「それにしてもマスターもひどいよな。何のためか教えずに集
めるなんてさ。」

子供リンク「だよな。知った時あいつらがどんな反応をするか楽し
みだよ。」

赤毛剣士と小さな勇者が2人そろって楽しそうに歩いている。

ロイ「と、俺っちの持ち場こっちだから。じゃ、また後で会おうぜ。
」

子供リンク「おう！」

2人は分かれ道を2つに分かれていった。

マリオ「へー、ここがメーゼルローゼンかぁ。なんかいいところだな。な、ルイージ。」

ルイージ「でも兄さん、マスターがこんなところに呼び出すなんてどうしてだろう。」

マリオ「んー何故だろうな。」

西洋風の国、メーゼルローゼンの入り口でミスター任天堂ことマリオと、その弟の永遠の2番手ことルイージが突っ立って素直な感想を漏らしていた。

マリオ「まあ、悩んでいても仕方ないし行く…ぐはっ」

国の中に入ろうとしたマリオの後頭部に向かって剣がすっ飛んできた。

クリーンヒットのためダメージはかなり大きいようだ。

ルイージ「大丈夫、兄さん。誰がこんなこと…。（予想はつくけど）」

？「あー、悪い悪い、つまずいてマスターソードが手からすっぽ抜けちゃった。取ってくれ。」

マリオ「やっぱリテメエか！リンク。」

2人の後ろから全く反省の色がなさそうなハイラルの勇者、リンクがやってきた。となりにはゼルダがいる。ちなみにこの二人は犬猿の仲で会うたびにこういったことをする。

ゼルダ「喧嘩はよくないです。行きましょう。」

リンク「あ、ああわかったよ。」

ゼルダに言われてリンクはマリオたちを追い越して先を行く。マリオは先ほどまでと変わってだいぶいらついているらしい。

シーク「君には悪いけどあの二人だいぶいい感じになってるね。いきっかけにでもなったかな。」

トウーんリンク「リンクさん、ヘタレですしねー。」

さらにその後ろからシークとトウーんリンクが2人を追い抜く。

マリオ「シーク？ゼルダと別になれるのか？」

シークとゼルダは同一人物。変身的なものをすると思わるんだけど
どうやら今回は別になっているようだ。

シーク「ああ、マスターが別々になってこいつて言ってたからね。」
トゥーンリンク「シークさん、早く行きましようよ。」

シーク「そうだな。じゃ、僕たちはいくよ。」

そう言つて2人もリンクとゼルダの後を追つて行つてしまった。

マリオ「じゃあそろそろ俺たちも行く…のへえ！ぐはっ…て、また
かよ、しかも2つ！今度は誰だ！？」

またもやマリオの後頭部に何かが直撃し、もう1つは頭のとっぺん
に刺さっている。

？「あー、すっぱ抜けて変なところ行っちゃったよ。僕つてこういう
ことあんましないんだけどなー。疲れてるのかな？」

？「僕だつて大切な神弓しんきゆうをあんな風に吹っ飛ばすことなんて滅多に
ないよー。今日は運勢悪いのかなー。でも刺さったおかげで傷つか
なかったからいいや。」

マリオに当てた（刺した）2人が後ろからやつてきて、そのうちの

1人がマリオの頭に刺さった物を引っ抜いた。しかしまったく反省の色などない。

マリオなどいなかったように先に進もうとする。

マリオ「おい、待て！俺に当てたんだから謝るくらいしろ！」

2人「なにが？」

意味がわからないと言ったように振り向く2人。アリエティアの王子のマルスと、パルテナ親衛隊隊長のピットだ。

アイク「…お前らそれぶつけたんだろ。謝るくらいしてやるよ。」

ピット「…ゴメン。」

マルス「…ゴメンナサイ。」

2人の後ろからグレイル傭兵団団長ことアイクがやってきて、2人に言うと2人はマリオではなくアイクに謝った。

マリオ「ちょっ、普通俺に謝るだろ！」

ルイージ「兄さん。もう3人いっちゃったよ。」

マルス「あれ、ロイ？」

ロイ「おっ、マルス。久しぶり。」

マルス「どうして君がこんなところに？いきなり呼び出されたからわかんないんだけどなにか大切なこともあるのかい？」

ロイ「へへっ、まあ、聞いてからのお楽しみさ。俺っちはまあ、マスターの手伝いみたいなやつしてんだ。」

ピット「へー、で、こっちいけがいいの？」

ロイ「あ、マルスとアイクはそっちでいいけどピットはこっちだぜ。あと武器はそこおいてな。」

ピット「なんで僕こっちななの？」

ロイ「そのうちわかるぜ。」

アイク「…じゃあ後でな。」

マルス「先言ってるよー。」

マルスとアイクはロイに言われて方へ行った。そこには他のメンバーたちがすでに集まっていた。

マルス「みんないるのにどうしてピット君だけあっちなんだろ。」

アイク「…なにか用でもあるんじゃないか？」

マルス「そうかもね。…あれ、リュカとネスとポケモンたちはまだいないね。」

アイク「…そのうち来るんじゃないか？」

2人が暇潰しをかねて話をしているとそこに赤い帽子の少年がやってきた。ポケモントレーナー、つまりはレッド。

レッド「リュカとネスはあっちの部屋に連れてかれたんだよ。」

マルス「レッド？あ、リュカたちと一緒に来たのか。」

レッド「うん。俺、ポケモンたちも連れてきたんだけどポケモンたちもあっちで…。」

アイク「…なにかの基準でもあるのか？」

なにげにあちら側のことが気になる3人。

で、噂のそっち側。

ピット「アレ？リュカにネス。それにポケモンたちも。どしたの？」

ネス「あ、ピット。やっと来た。」

リュカ「クレイジーさんー。ピット来ましたよー。」

何故か、この時ピットは嫌な予感がしたとかしてないとか…。

クレイジー「よっ、そろそろくると思ってたぜ。」

ピット「で、なんで僕はこっちに来たの？」

クレイジー「ヒヤハハハ。しばらく動くなよ、っと。」

薄く笑いながら言った後ピットを担ぎあげた。

ピット「ちょ…な、おろしてよー！」

クレイジー「よし、思いっきりやっちゃまえ！」

ネス&リュカ「PKファイヤー!!」

クレイズの合図を受けてネスとリュカがPKファイヤーを出す。勿論2人に向けて。

ピット「ちょ、クレイズよけて…って熱い！ちょ、焼けるって溶けるって！」

クレイジー「ヒヤハハハ、じっとしてろって言ってんだろーがよ！子供リンク、やれ。」

子供リンク「行っくぜー!!」

子供リンクがPKファイヤーで焦げたピットの羽根の付け根部分に向かって行って…

バキッ

嫌な音がして羽根がもげた。

ピット「あああああ！羽根があ！てか、痛っ！なにしてんの。何してんのあんたら！」

クレイジー「まあ、落ち着けて。」

ピット「天使の命でもある羽根をもがれて落ち着いてられるか！」

2時間後

リンク「ど、どうしたピット。…すごい、負のオーラでてるぞ。」

ピット「僕なんて…僕なんて…。」

マルス「自己嫌悪、だね。」

アイク「…言われなくてもわかるが。」

泣きはらしたような顔をしてリュカ、ネス、ポケモンたちとともに戻ってきたピットを見て皆何があったのかかなり気になっているが当のピットが負のオーラを出しまくっているので誰も聞けない。しかし羽根がなくなり寂しくなった背中が全てを物語っている。

マスター「じゃ、皆そろったし今回皆を集めた理由を言うぞー。」

ピット「うう…羽根をもがれたからにはそれ相応の理由じゃないと納得が…。」

シーク「みんな武器も預けさせられたしね。」

皆がマスターが何を言うのか無言で見つめていると…

マスター「えー、今回は皆で逃走中をやる。」

全員「……」

ピット「ふっざけんなああ！」

マスター「逃走中のルールは皆知ってるな？で、武器を使ったりするのは禁止だから預けてもらったんだ。」

ピット「んじゃこれはなんのため…。」

マスター「勿論飛ばれないように。」

ピット「じゃあメタナイトは！？あれだって羽根あるじゃん！」

リュカ「すでに同じ方法でもぎましたよ。」

全員「ご愁傷さま…。」

サマス「じゃあ、リユカやポケモンたちはどうするのよ。PKとか技とか。」

マスター「それは出せないように特殊なリングをつけさせてあるから大丈夫だ。」

マスターが説明し、誰かが質問するというやりとりが続く中、ピットが認めたくないといった様子でつぶやく。

ピット「なら僕もリングみたいなので飛べないようにすればいいのに。」

クレイジー「それもちゃんと考えてやったんだぜ？でもいいのかよ。水あめで羽根ねとねとにされても。」

ピット「え…水あめって…他に案無かったの？」

クレイジー「これがよー、他にもいろいろ出たんだがしょーもねーもんばっかでよ、水あめなんか甘いぜ？一番ひどいやつなんか○○を○○とかな！ヒヤハハ！」

ピット「うう…それだけは嫌だ。」

これは本当のことなのだがでた案というのはほとんど彼が出したものであるなんてピットはしることもなかった。

マスター「じゃ、次回から始めるから準備をしておくように。」

プロローグ（後書き）

ピットが悲惨なことに…w

いまだに一言も発してない奴がいますね。

すいません。羽もげるとこ書いたら長くなっただんであきらめました。
全員をちゃんと喋らせることができるか心配だけど頑張ります。

1話 ゲーム開始（前書き）

やっと逃走中がスタートします。

まずはおなじみの鎖からです。

外れを引く人は…想像してから読んでみてください。

9／13 修正致しました。

ご迷惑かけてすいませんb y 奏音

1話 ゲーム開始

マスター「じゃあ皆そろったことだし逃走中を始めようか。」

全員「ちょ…ちよつと休憩させて…」

マスターが逃走中をやると言いだしてから10分後、もうダッシュでこの国のはしっこから中心の都市エリアまできたのだから当然だ。

マスター「仕方ないな。なら10分休憩。」

全員「短っ！」

10分後

マスター「じゃあ今度こそ始めるぞー。休憩の間にくじをひいてもらったからその順番にあの箱の前行って一人ずつ鎖を抜いてもらう。そのうちの1つがハンターボックスにつながっている。ハンターはみでの通り3体だ。」

ルイージ「序盤で出たらきついなー。」

ファルコ「お前何番だ？」

ルイージ「え…11番だけ。」

ガノン「嘘だろ！？俺は12番だ…。ルイージの前がよかったんだけどな。」

ルイージ「え、どういう意味…。」

サムス「確実にあなたがハズレをひくからよ。」

どうやらルイージがハズレを引くことはすでに皆の中で決まってるらしい。まあ、現にそういう役回りなのも確かだけど。

マスター「じゃあ皆はハンターボックスから20m離れた位置で待機だ。鎖を引くものだけ前に出る。じゃあまずは1番から。」

ピット「はい！一番ピット。白引きまーす！」

ナナ「どうしてー？」

ピット「一番はハズレを引かないって暗黙の了解で決まってるから！あともがれた羽根の色だから！」

オリマ「暗黙の了解ですか…。」

ピット「じゃあいつきまーす！」

ガシャア

ハイテンションのままいつきに引っ張ったピットの鎖は箱から抜けた。セーフだ。

ピット「やほー！じゃ、あとがんばってねー♪」

ルカリオ「心の準備が…。」

Cファルコン「なにもあんまいきなり引っ張らなくても…。」

あたりを引いたものはスタート地点の広場から離れた位置からスタートできる。

彼の言った通りなのかは分からないがとりあえずセーフ。しかし残された者たちのダメージは大きかった。

ドンキー「次は俺だ。」

デデデ「天使の次はサルかゾイ。」

ドンキー「じゃあバナナ色の黄色を引くぜ。」

マルス「単細胞なだけあって理由も単純だね。ピットもだけど。」

ガシヤア

…セーフ。

ドンキー「じゃーな。がんばれよー。」

ドンキーも離れた位置からスタートできるため遠くへ去って行った。

ピカチュウ「び・・・ビックリした。」

ネス「また予告なしかよ。ハンターでたらどうするんだよ。」

スネーク「次のやつは予告しろよな。」

次、まだまだ安全地帯と思われる3番目。

ファルコ「次は俺だ。青を引くぜ。理由は…」

カービー「はいカット。引いてー。」

ファルコ「ちよっ、まだ理由言って無いぞ。」

ウルフ「どーせ自分の体の色とおなじだからとかだろ。単細胞。」

ファルコ「くっ、じゃあ引くぜ。」

全員「（その通りだったんだ…）」

ガシヤア

…セーフ

ファルコも残るものに一言を残してさっさといったがつまりなので省略。

ファルコ「つまらなくねえ！」

続く4, 5, 6, 7, 8番目はロボット、プリン、スネーク、クツパ、カービィがグレー、ピンク、カーキ、赤、オレンジを引いてセーフだった。

さらに9のポポもセーフ。

上の6人「省略すんな!!」

ソニック「Hi, 次は俺だぜ！」

マリオ「ソニックがセーフで次のルイージが引くだろうな」

ルイージ「だからひどいって!」

ソニック「じゃあ俺はこの青と白の引くぜ。まさに俺のために用意されたようなものだしな。」

ゼルダ「じゃあいっちゃってください。どうせセーフですし。」

マルス「逃げる準備一応しとく?」

オリマー「念のためしときますか。」

みんなは一応逃げる準備を始めた。しかしルイージは

ルイージ「ちょ、なに一応って!!」

いまだにぐだぐだと文句を言っている。

ソニック「行くぜー!」

ガシャア…

…がたっ

ハンターボックスを固定していた板が外れ、3体のハンターが放出された。

狙いは鎖を引いたソニック。他の者は予想外の展開に驚きながらも

逃げ出した。

ソニック「こんなところで捕まってたまるか！」

さすがは逃走者の中で一番早いソニック。あっという間に先に逃げた者たちに追いついた。

そして3体のハンターは直前まで皆に文句をぶつけていて逃げ遅れたルイージに目標を移した。

ルイージ「ちょ、なんで僕なの！」

3体のハンターがルイージに迫り…

ポッ

ルイージ確保。残り36人。

ピルルルル、ピッ

ロボット「メールデス。ナニナニ、確保情報。」

サムス「都市エリアの広場にてソニックが鎖を引きハンター放出。
直後にルイージ確保。」

オリマー「残り36人…。やっぱりソニックさんは速いですからね。」

ピット「あははは！鎖引いてないのに一番に捕まるとか！いつそ鎖ひけばよかったのに。つまんなーい。」

いきなりの確保情報に驚いた後その内容を見て笑い転げる天使。彼はすでにスタート地点から遠くの森エリアまで来ている。

マリオ「やったぜー。ルイージより長く生き述べられたぜ！」

すでに目標達成のマリオ。しかしゲームはまだ始まったばかりだ。

都市エリア管理棟

マスター「もうすぐ最初のミッションが始まるな。準備はいいか？」

？「もちろんです。」

マスターの声に答えたのは青い髪の少女、水無神玲羅^{みなかみれいら}。彼女についての詳しいことが知りたければ前作の接続者^{リンカー}（略称）の話を見てください。いや、やっぱ気にするな。

マスター「…ん？おかしいな。システムが応答しない…。と、戻った。一体どういうことだ？」

マスターの言うとおり、数秒の間だけ逃走中のシステムを動かすコンピュータが応答しなかった。しかし数秒後に画面がぶれた後戻った。

都市エリア????

? A 「第一段階まずクリアってとこだろかな。」

? B 「まあ、上出来だな。」

? C 「でも皆慎重にね。マスターにこの計画がばれないようにしないと。」

? D 「確かに。マスターはかなり注意深いからな。」

? E 「まあ、大丈夫だな。ばれないように作戦は立ててあるだろうが。」

? F 「この様子を見ると普通に騙されてるみたいだぜ。いい仕事してるよなー。」

都市エリアのどこかにある建物の一室で、黒い服を着た6人が話合っていた。
背の大きさ、声の高さなどもバラバラのこの6人はマスターにばれないように何かの計画を実行しているらしい。

? B 「逃走者たちの戸惑う姿が目には浮かぶぜ。」

? D 「楽しいゲームになりそうだな。」

そして彼らはそれぞれの役割を実行するために部屋に設置されているコンピュータをいじる者と、壁のモニター（マスターのところのモニターと似ていて、エリア内を見ることができる。）をチェックする者、外に出ていく者と別れて行った。

1話 ゲーム開始（後書き）

牢獄DEトーク

ルイージ「最悪…もう捕まったよ。誰もいない牢獄ってさみしい…。」

作者「や、もう捕まったか類似君。」

ルイージ「作者！？しかも字間違ってるから！」

作者「ちっちゃいことは気にするな、それわかちこわかちこー♪」

ゼニガメ「いや、古いよ。」

ルイージ「わっ、ゼニガメ。」

作者「いい忘れてたけど牢獄付近にはゼニガメ、リザードン、フシギソウ、ピクミン達がいるから暇潰しでもしてな。じゃ。」

ルイージ「行っちゃった…。てゆーか人間一人もない状況でどう暇潰しをしろと…。」

作者の言葉

読んでくださりありがとうございます！

前作の「リンク接続者」の時より1日のアクセス数をはるかに多いです。

前作はスマブラのほかにFEも原作登録したからかな？

まあいいや。謎の6人登場しましたけどこいつらこれからよくるのでわかりやすくA〜Fで区別してみました。

明日は体育祭ですが気力を振り絞って今に至る作者でした。

次も是非みていってくださいな。

2話 mission1開始(前書き)

体育祭疲れた…。

でも小説はちゃんと出します(´ω´)ノ

みたらいつの間にか評価ポイントが…。

一体誰がこんな始まったばかりの小説にポイントをつけてくれたんでしょうか。

嬉しいです。嬉しすぎてヤバいです。

どうヤバいのかは自分でもよくわかりません(笑)

調子に乗ったついでに言っちゃいます。

レビュー&感想書いてくれたら嬉しいです><

…わ、言っちゃった。

2話 mission1開始

ポポ「残り290分…。ルイージが捕まったから残り36人でハンターは3体かあ。」

ピーチ「あの緑すぐ捕まっちゃって…まったく、使えないわね。」

ゲーム開始から10分が経った。賞金は12万円。

デイディー「そろそろミッションが来るころかな？」

どんなミッションがくるのか内心ドキドキしてるサル。

住民A「つたく、王もひどいよな。こんなに税金を高くしてよー。」

住民B「だよな。せっかく年に4回の大休暇前なのにさ、税金を全部納めないと罰を受けることになるらしいし。」

住民A「なんだよそれ。最近の王の政治はめっちゃくだよな。と、仕事に戻るか。」

住民C「おーい、馬が病気で荷物を運びきれなくなっちゃった。」

住民A「なんだって…。それじゃあ期限までに間に合わないじゃないか…。どうすれば…。」

――

ピルルルル

メタナイト「電話か。もしかしたらミッションか？」

ゼルダ「えーと、この国の住民は年に4度の大休暇に向けて税金を全て納める作業をしている。」

フォックス「しかし国では病気になってしまった馬が多く荷物を運ぶ人出が足りない。」

リュカ「残り270分までに各エリアで荷物を受け取り王のところに持っていけば、」

プリン「逃走に役立つアイテムと交換してもらえる…って難しそうプリね…。」

ミッション1

「便利アイテムを入手せよ」

城エリア以外のすべてのエリアに倉庫があり、そこで荷物がもらえる。その荷物を持って城エリアの王のところに持っていけば逃走に役立つアイテムと交換できる。

倉庫の場所は地図にて確認できる。

リンク「これはやるしかないな。ちょうど近いし。」

リンクはちょうど都市エリアの倉庫の近くにいるリンク。幸い都市エリアの倉庫から城エリアまではだいぶ近いのでミッションに参加するらしい。

マリオ「海エリアから城エリアまではだいぶ遠いしあきらめるか。」

ファルコ「森エリアからならなんとか行けそうだな。」

ミッションに行かない海エリアのマリオと行くつもり森エリアのファルコ。

ファルコ「できるだけ慎重に行かないとな…。」

森の木々の間に隠れながら慎重に進むファルコ。その後ろに人影が…

カービィ「あつ、ファルコ。ファルコもミッションに行くの？」

ファルコ「なんだカービィか。いきなり声かけるからビックリしたぜ。お前もミッション行くのか。」

カービィ「うん。でも気をつけて、さっき近くにハンターいたから。」

ファルコ「ああ、お前も気をつけろよ。」

短い会話を交わして2人は別れた。
その時ハンターがその近くを通りかかり、逃走者を発見した。
ハンターに見つかったのは…

ファルコ「な、ハンター！嘘だろ！！」

ファルコだ。

運悪くハンターとの距離は近く、振り切れそうにない。

ファルコ「甘いぜ。森の中に紛れれば逃げられる！」

ファルコは木が生い茂る方へ走っていつて何度かいろいろな方へ曲がってハンターをまこうとしたが距離が近いたためハンターの視界からファルコが消えることはない。

ポンツ

ファルコ確保 残り35人

ファルコ「チクショー逃げ切れると思ったのに！」

ピルルルルー

ネス「メールだ。なににー、確保情報。つてもう誰か捕まったの！？」

カービィ「ファルコ、見つかったかー。」

ウルフ「残り287分森エリアにてファルコ確保。残り35人か。あとフォックスが捕まれば目標は達成だな。」

フォックス「よっしゃ。ファルコより多く逃げ切ったぜ。あとはウルフだけだ。」

目標の半分を早くも達成した狼と狐。

レッド「ファルコ確保かー。と、それより自分のことを考えないと。あ、倉庫あった！荷物くださーい。」

住宅街エリアにいるレッドは倉庫で荷物を受け取り城エリアへと向かう。

リンク「あ、倉庫ってここか。よつと…結構重いな。ハンターに見つかったらおいてかないとな。」

都市エリアで同じく荷物を貰ったリンク。ここからは近いのでハンターに見つかりさえしなければ楽だろう。

サムス「やっぱりここから城エリアまではきついわね。あきらめましょう。」

デデデ「ただでさえ走りたくないのにそんなものやりたくないゾイ。」

ウォッチ「ペラペラノ私が荷物ナンテ運べソウニナイノデコノミツシヨンはヤメトキマス。」

プリン「いい隠れ場所を見つけたのに動きたくないでプリ。」

ミッションに参加する気がない海エリアの4人。このエリアには現在5人がいるが誰もミッションに向かわないらしい。

ルカリオ「森の中にある倉庫というのは見つけずらいものだな。波動を使えば…。」

ピカチュウ「倉庫はあったけどあんな大きい荷物持てないよ…。」

ミッションに参加しようとするルカリオと体が小さいためあきらめたピカチュウ。2人は森エリアにいる。そして、

ズベツ

ピット「うわあ!…うう。これで転ぶの6回目…。羽根がないの忘れてつい飛ぼうとしちゃうんだよね…。」

飛ぶ癖が抜けずゲーム開始から6回も転んでいるピットと、

オリマー「やっぱりピクミンがいないと力仕事は難しそうですね。」

ピクミンがいないため自信がいまひとつわかないオリマー。2人も森エリアにいるがミッションに行く気はないようだ。というか自分のことだけで手一杯だ。

ピカチュウ「うーん誰も持ってかないのかなー。」

誰が持っていくか気になって倉庫の近くの茂みにいるピカチュウ。

ピカチュウ「あ、あれって…アイくんー。」

アイク「ぬ？…ピカチュウか。一音余分だ。」

ピカチュウ「アイくんもミッションやるの？」

アイク「いや、そのつもりだったが道に迷ってな…ここはこの地図のどこら辺だ？」

ピカチュウ「ここはちょうど倉庫の前だよ。やるつもりだったならちようどいいし持ってきてきなよ。あっちにああいくと城エリアにつくよ。」

アイク「…なるほど。わかった。行ってくる。…しかないのか？」

ピカチュウ「…アイくんのいじわる。僕じゃあんな大きい荷物持てっこないじゃんか。」

アイク「…それもそうだな。」

ピカチュウと別れて倉庫に向かい荷物を貰ったアイクはピカチュウに教えてもらった方へ行く。

ミッション終了まで残り7分。

間にあうのか…。

現在荷物を持っているのはリンク、レッド、アイクの3人。海エリアの荷物だけがまだ残っている。

ロボット「アレ？モウ荷物ハナイノデシヨウカ？」

住宅街エリアの倉庫へやってきたロボット。しかしここの荷物はすでにレッドが持っている。

ロボット「仕方ナイデスネー。セツカクミッションニ参加シヨウト
思ッタノニ。」

ソニック「Hi, ロボット。やっぱりもう遅かったか。リュカも残念だったな。」

リュカ「やっぱり城エリアに近いですからね。残りはもう6分ですし、残ってる方がおかしいんですけどね。」

倉庫の前で合流した3人。しかし荷物はすでにない。

スネーク「いえてるな。」

3人「!!」

ロボット「アッ、リュカサン足元。」

リュカ「あ、この段ボール…。」

スネーク「よお、待たせたな。」

3人「……。」

リュカが台がわりにと乗っていた段ボールの中からスネークが出てきた。ロボットが来る前からこうしていたらしい。

冷たい空気の漂う4人にハンターが接近している。
そしてハンターは4人を見つけた。

リュカ「あ、ハンター!!」

ソニック「やばっ、じゃあな3人共!」

逃走者の中で一番足の速いソニックはリュカの言葉にいち早く反応して曲がり道の多い路地に逃げ込む。

そしてリュカ、ロボットはソニックと別の路地に2人一緒に逃げ込む。

ハンターが狙うのは…

スネーク「おい、3人共待ってくれよー！」

段ボールに入っていたためスタートが遅れたスネーク。

リュカ「アーメン。」

ロボット「私達ノ身代ワリトシテ捕マッタアナタノ事ハキツト忘レマセン…。」

スネークの声を聞こえないふりをして走り続ける2人。

スネーク「くそっ、もう逃げられない。こうなったら…段ボール。」

スネークは最後の抵抗として曲がり角を曲がった瞬間段ボールに入

った。

しかし道の真ん中…。ハンターは目の前にある段ボールをゆつくりと持ちあげた。

ポンッ

スネーク確保。残り34人。

スネーク「くっ、段ボールが通用しないとは…。」

誰だって気づく。

ロイ（門番役）「…ひ、ま、だー！くそっ、荷物持ってくるだけなのにこうも人がこないなんて思ってもなかったぜ。」

子供リンク（門番役）「あれじゃない？ハンターが増えるとかだと自分が降りにならないためにやろうとするけど、アイテムもらえるだけだからわざわざ危険を冒してまで来たくないとか。」

ロイ「でも便利アイテムだぜ！？こんなおいしい話乗らなくてどーするんだよー。」

子供リンク「まあ、言えてるけど。」

実行委員の2人は逃走者が持ってきた荷物を受け取る門番の役。実行委員であるdxメンバーはこういった仕事を何度かやることになる。

玲羅「持ってきてくれなくても後のミッションには響かないですけど、私の時に誰も来てくれないのだけはゴメンですよ。」

ロイ「だよな。折角こんな格好までしてんのに。俺っちたちなんか暑くてしょーがないぜー。」

2人の後ろから現れたのは管理棟から出て後のミッションのための準備（着替え）を終えた玲羅。今更だが、前作の『リンクカー接続者』の時に口調が違うところはあるというところを置いてください。前作知らない人は気にせずどうぞ。

玲羅「わざわざこんな動きにくい格好までさせられて全く出番がなかったってのも避けたいですね。」

子供リンク「まあ、いくらなんでも1人は来ると思うんだけどなー。」

玲羅「ミッション終了まで5分ですね。あゝあそこ、誰か来ましたよ。私、後ろの方で隠れてます。」

後のミッションで出るのでまだ逃走者と会わないほうが面白いと言って玲羅は城の扉の陰に隠れた。

リンク「はぁ…はぁ…荷物…持ってきたぞ。」

やってきたのはリンク。息を切らして下を向いているので門番の格好をした2人に気づかない。

ロイ「おっ、やっと一人目。さすが勇者だけあるぜ。」

子供リンク「リンクさんなら来てくれると思ってた!」

リンク「えっ、あ、あれ!? ロイに子供リンク。どうして…。」

やっと気づいたようだ。

子供リンク「言わなかったっけ。実行委員はこういう風にミッションの時に役やったりするって。」

リンク「聞いてないぞ。」

ロイ「まあ、気にするなよ。これ、便利アイテムな。どれにする?」

子供リンク「リンクさん、これが一番得だよ!どうしても捕まりそ

うな時に一度だけ身代わりになってくれるよ！その代わり発動するのは自動だからぎりぎりまでは自分で頑張らないとダメだけど。」

ロイ「教えちゃだめだろー。まあ、いいけど。」

リンク「じゃあ、それもうよ。他のミッションでまた会えたらいいな。じゃ！」

子供リンク「リンクさんこそミッション参加してよー。」

リンクは2人と別れて元来た道から戻って行った。
リンクが来る前と比べて2人はだいぶ元気になったようだ。

玲羅「彼、なかなか勇敢ですね。ヘタレだと聞いていましたが…。さすが勇者ってところですね。」

子供リンク「リンクさんがヘタレなのはゼルダ姫関係の事だけだから。」

ミッション終了まで残り3分。

住宅街エリアから向かうレッドと森エリアから向かうアイクは間に合うのか…。

都市エリア????

? G 「ただいまー。」

? A 「あれ、遅かったじゃないか。」

? G 「交代の時間に2人が遅れて…なんか道に迷ったとか言ってたけど。」

? E 「それならいいけどあまり目立つようなことはするんじゃないぞ。」

? G 「その辺は皆わかってるから安心しなよ。」

? A 「で、後の2人のほうはどうだ？」

? G 「帰る途中に会ったけど順調みたいだよ。」

少し前に外に出て行った4人の代わりに戻ってきたのは同じく黒い服を着た1人。
外で何かをしていたが出て行った4人のうちの2人と変わって戻ってきたらしい。

? E 「ならもう少ししたら始めちまおーぜ。」

? A 「ああ、問題はないだろう。」

? G 「どうなるか、楽しみだね。」

黒い3人は最初の計画の実行の最後の準備を始めた。

2話 mission1開始（後書き）

牢獄DEトーク

ルイージ「おっ、新入りさんだ。いらっしやーい。」

ファルコ「ちっ、まさかこんな早くにつかまるとは…しかもこんな緑と2人で過ごさないとならないなんて…。」

赤ピクミン「2人じゃないよ。僕たちもいるよ。」

青ピクミン「そんな緑の近くよりこっち側においでよ。」

ファルコは牢獄のルイージと反対の角に来た。

ゼニガメ「新入りきて嬉しいゼニー。こんな緑と話すことなんて全くないし…。」

リザードン「そうそう。あんな緑放っておこう。」

ルイージ「ひ、ひどい。」

ファルコ「うわっ、ネガティブゾーンが…。」

少し後

スネーク「あー捕まっちゃったよー…ってなんだあ！」

ファルコ「悪いネガティブゾーン発動しちまった。気をつけてこの辺までこい。」

スネーク「人が増えるまでにおさまって欲しいな。」

黄ピクミン「だね。」

紫ピクミン「僕たち関係ないけど。」

作者です。

次で黒い人の計画が実行されます。

この時点で黒い人の正体わかったらすごいです。

わかるとしても1人だとは思いますが。

次でmission1は終わります。

残りの2人は間に会うのか…。

3話 裏通達!?(前書き)

タイトル変えましたが気にせず読んでいただきな。
今日からテスト週間のため更新するのが滞ると思いますが、暇を縫って少しずつ更新して行きたいと思ってます。

今回は?の人達に進展があります。

3話 裏通達!?

ロイ「残り3つか…。このままこないんじゃねーのか？」

城エリアで門番役のロイがつぶやく。

子供リンク「だね。来るとしたら誰だと思う？」

ロイ「シークとかフォックスとかやりそうだな。あとソニックも来るかも。」

子供リンク「あれ？マルスって言うと思ったんだけどな。」

ロイ「あのスターロードは来るわけないぜ。僕にはこんな重労働無理だとか言ってるに違いないだろうよ。」

子供リンク「確かに…。」

確かにマルスはミッションに参加していない。理由はほぼロイの言った通りだ。

シーク「うーん。住宅街エリアになかったけどここもやっぱりないか。まあ、一番近いから当然だろうけど。…ハンター！」

都市エリアの倉庫前にやってきたシーク。荷物がないと知って戻ろうとすると横の1本道からハンターが走ってきた。

シーク「くっ…間に合うか。」

急いで正面の路地裏に入り角を曲がってハンターの視界から逃れた。そして念のため遠くに移動する。

シーク「巻けたみたいだな。路地がなかったら危なかったな。…あれ？マルス？」

マルス「ん？あ、シーク。」

シーク「君もミッションに行くつもりなのかい？」

マルス「いや、行かないよ。王子の僕が荷物を運ぶなんて重労働するわけないじゃん。」

シーク「へー。ま、興味ないからいいけど。あっちハンター居たから気をつけて。」

相変わらずのマルスに呆れてシークを適当に会話を切ってすぐ近い海エリアへ行ってしまった。

ミッション終了まで残り3分。

子供リンク「あ、ロイ、来たよー。アイクだ。」

ロイ「へー、そっちの方の剣士が来たかー。」

アイク「…ロイに、お前は子供リンクか。」

リンクとは違い2人にすぐ気付いたアイク。

ロイ「よっ、久しぶりだな。荷物貰うぜー。」

アイク「…あ、ああ。」

ロイ「よっ…と、お、重っ！なんだコレ！」

子供リンク「おいおい、そんな大げさな。って重っ！！お前ホントにこんなの持ってきたの！？」

2人が驚くのも無理はない。アイクが持ってきたのはさっきリンクが持ってきた物よりだいぶ重い物だったのだから。

アイク「…最初からその重さだったぞ。森エリアだから重いんじゃないか？」

ロイ「関係あんのかよそれ…。でもよくこんなん持って…て、お前

なら余裕そうだな。」

アイク「？なんのことだ。」

子供リンク「気にしないどいて…。これ、好きなの持ってって。」

自分とアイクの力差がものすごい事を知ってしまった子供リンクはアイクに深く追求される前に荷物と交換のアイテムを差し出した。

アイク「…じゃあ、これを貰う。」

ロイ「おっ、いいもん選ぶじゃんかよ！ラジコンエンゼルだぜ。ラジコン式で操作できて、空を飛んでハンターを探すことができるんだ。それが見た映像は、この片眼鏡をつけてれば見えるぜ。」

アイク「…なるほど。ありがたく使わせてもらう。」

そう言っアイクは元来た方向、森エリアの方に戻って行った。と、それと入れ替わるようにま逆の住宅街エリアからレッドがやってきた。

レッド「はあ…。荷物、持ってきた。」

ロイ「おっ、ぎりぎりセーフ。ミッション残り時間1分だぜ。」

子供リンク「それにしても重そうだなー。」

レッド「え…ロイに子供リンク!？」

2人「よっ。」

こちらも疲れていて気付くのが遅くなった。まあ、これが通常だと思うのだが…。

子供リンク「残り2つだけど好きなを選んで。」

レッド「んじゃこれ。」

ロイ「…荷物の方はリンクと同じくらいだぜ。体力と筋力が弱いんだな。」

レッド「ん?どうしたんだ?」

ロイ「い、いやいや、何でもない! (言ったら後でポケモンに抹殺される…。)」

とっさにごまかすロイ。そんなロイを助けるべく子供リンクが助けを出す。

子供リンク「おーい、説明するよー。これは、1分だけ自分の姿を消すことができる。もちろん触れない。ちなみに使用回数は3回。」

ロイ「リンクのより便利だな…。」

レッド「へー、便利じゃん。じゃ、2人も実行委員がんばれよ。」

ロイ「お前もがんばれよー。」

レッドは都市エリアの方に走って行った。

残り時間170分。mission1終了。
賞金合計36万円。

ピルルルルー

クツパ「な、メールか。ビックリしたではないか。えー、ミツション結果か。」

フォックス「リンク、アイク、レッドにより、都市エリア、森エリア、住宅街エリアの荷物が城エリアまで届けられた。」

ネス「荷物を届けることのできなかった海エリアの住民は、王によって重い罰が科せられることになってしまった。ってうわー、最後の一文いらないよー。僕らが悪いみたいじゃん。」

オリマー「3人の方はどんなアイテムを貰ったんでしょうかねー。」

ミッションの結果に対する反応は人それぞれ。しかし海エリアの逃走者たちは…。

兵士「税を納めなかった者はみんな王から罰を受けろ！」

住民「ま、待って…。その子はまだ子供ですよ。」

兵士「黙れ、親の失敗は家族全ての責任だ。納められなかった者は家族も罰を受ける。」

住民「そんな…。」

サムス「な、なんて酷いの…。こんなことなら最初の時に書いておいてくれれば無理してでも行ったのに…。」

ウォッチ「アノ子供可哀ソウデスネー。」

マリオ「これじゃミッションやらなかった俺たちが悪者じゃないか。」

プリン「怖いプリ。外を見たくないでプリ。ずっとここにこうして隠れてるでプリ！」

デデデ「この王はなんて酷い奴ゾイ」

海エリアにしながらミッションをやらなかった4人は罪悪感を感じてすっかり意気消沈していた。
そして、

トゥーン「わー、海だけまだだったんですかー。」

メタナイト「森エリアよりこっちに来ていれば…。」

シーク「こんなことなら最初からこっちに来ていればよかった…。」

ミッションに参加していないがのんきなトゥーンリンクと、アイクが持っていた後、森エリアで道に迷いつつ倉庫を探しまわったメタナイト、さらに住宅街エリアから都市エリアまで荷物を探しまわったシーク。

3人共いまさつき海エリアにやってきたばかりだ。

マスター「おかしいな。最後にあんな文付け加えたつもりはないのだが…。」

マスターは演出のために海エリアの件ではそうさせたが、メールにあんな文を書いて逃走者たちに罪悪感を与えようとしたつもりはない。

玲羅「準備が終わったので戻ってきました…どうしました？」

ミッションのための着替えや打ち合わせを終えた玲羅がその服装のまま管理棟へ戻ってきた。

マスター「いや、実は…」

マスターは事情を説明した。

玲羅「システムになんらかの不都合でも起きたのではないでしょうか。前も一瞬だけ反応がなかったと言っていましたし。」

マスター「そうだな。調べてみるか。」

玲羅「私は次のミッションをもう一度確認してきます。」

ピルルルル―

ロボット「メールマスネ。」

ピット「ん？裏通達？なんだろこれ。なににー。」

裏通達

この逃走中のシステムの一部は私たち“謎”の集団がのっとった。
これより君たち逃走者が本来実行する予定のミッションに加え、私
たちが考案した“裏ミッション”も行ってもらおう。

第1のミッションは残り逃走者が25人以下になった時点から開始
とする。

私たちの正体はあくまで“謎”だが、私たちの半分は常にエリア内
にいる。

この“裏ミッション”は君たちが私たち全員の正体を見破るまで続
けさせてもらう。

謎の集団？1

全員「なんだこれー!!」

ウルフ「ふざけんなよ。普通のミッションに加えて…かなりハードじゃねーか。」

ルカリオ「というか、正体を見破るまでとあるがどうやってわかったら知らせるんだ？」

PS

正体がもしわかっても残り150分になる前、またはミッションが1つも開始されてないときは知らせることができないので注意

?6

レッド「PSかよ!」

ポポ「?6ってことは少なくとも6人はいるってことだね。」

リンク「その全員の正体を見破るのか…」

ゼルダ「半分はエリア内にあると言っても誰がそうなのかわかりませんし…。」

早くも弱気になるメンバー。

実際は7人なのだけど大して変わらないのでどうでもいい。

?7「どうでもよくない!」

ちなみにここから都市エリアの???にいた?Aから?Gはそれぞれ?1~7に表示が変わります。

マスター「謎の集団…。ふざけた名前だが逃走中のシステムを一部とはいえのつとるとは、何者だ?」

玲羅「それより、どうするのですか?彼らの正体がわからないとあ

ってはどうすることもできませんが。」

マスターと玲羅は携帯で連絡を取り合っている。なので玲羅は今城エリアで打ち合わせ的なものを再度やっている最中だ。

マスター「そうだな…。少し黙ってみてることにしよう。」

玲羅「わかりました。では。」

?2 「マスターはしばらく黙って見ているらしいぜ。」

?1 「情報が早いな。どこでそんなこと聞いた。」

こちら先ほどの2人と同様に携帯で連絡を取り合っている。
ちなみに?2もエリア内にいる半分の1人だ。

?2 「さっき連絡してるのを聞いたんだ。ちょうど今いる場所と近いから偶然聞こえて。」

? 1 「わかった。なら安心して進められるな。」

ピッ

? 6 「どうだった？」

? 2 「とりあえずは安心できるみたいだぜ。」

? 7 「それならしばらく外歩き回ってきたら？ その格好なら平気でしょ？」

彼らは今あの黒服ではなく、怪しまれないように普通の服を着ている。平たく言えば普段着だ。

? 2 「じゃあそうさせてもらおうかな。」

? 6 「じゃ、行こっか。」

2人は? 7と別れてエリア内を散歩しに行った。

? 7 「残りの皆はなにやってるかな。見に行くかー。」

2人が見えなくなると、? 7もその場を離れた。

3話 裏通達！？（後書き）

牢獄DEトーク

ルイージ「裏通達だってー。なんか面白そうだね。（ネガティブゾーン終了）」

スネーク「いや、確かにそうだが捕まった俺たちには関係ないな。」
ファルコ「確かにな。」

赤ピクミン「でもー、」

赤ピクミン2「25人まで、」

赤ピクミン3「まだだいぶあるよー。」

ルイージ「赤多っ！！」

虹ピクミン「ゲーム開始前にオリマーがたくさん抜いたんだけど（全色そろえるために）全部そろうまでに赤が10匹もでちゃったんだ。」

ルイージ「虹ピクミンなんているの！？」

作者も知らない。いたらいいなー…なんて。

茶ピクミン「でも暇潰しするには人数多くて好都合でしょ。」

ルイージ「だからいないよ、そんな色！」

茶ピクミン「ああ、僕はユナちゃんがお茶こぼしてこうなったの。」

ルイージ「ユナちゃんって誰！？」

ゼニガメ「作者の友達。」

フシギソウ「小説にだせよーとか言われたんで出すことにしたんだって。」

リザードン「もう1人のパルウェンと一緒に出るって。」

そんなわけで作者です。

ユナとぼるを早く出したくて頑張って書いてますがテスト週間な
んでなかなか進まないと思います。

土日に挽回したいと思いますのでそれまではつまっても仕方ないとい
うわけで><

4話 mission2開始(前書き)

テスト週間なのにやってきてしまった…。

今回はけっこういきました。意外と捕まらなくて人多いと書くの大変なんですよ！。

4話 mission2開始

ファルコン「裏通達なんて来たからビックリしたけど残り25人になるまで始まらないってことは意外と楽そうだな。」

余裕をかますファルコン。ちなみに現在地は城エリア。

ディディー「だよね。今のところ残り160分なのにまだ3人しか捕まってるもん。」

ファルコン「うおっ、ビックリした。いつからいたんだよ。」

ディディー「今来たばかりだけど。」

城の近くで合流した2人。しかし余裕を言ってられるのも今のうちだけだ。

ハンターがいた。ハンターは逃走者を探すべく歩き回っていた。

ハンターは見つけた。すぐ近くにいる逃走者を。

そのころ、別のところにいるハンターも逃走者の近くに迫っていた。

カービィ「ゲーム開始から全然ハンターに会わないし。このまま余裕なんじゃないかな♪」

森エリアを歩くピンク玉ことカービィ。その後ろからハンターが…。

ポンッ

カービィ確保 残り33人

カービィ「えっ、嘘いつの間に…。」

確保者が少なく油断してたカービィ。早くも捕まった。

ピルルル

ナナ「『確保情報。』これで4人目…。」

ピット「『森エリアにてカービィ確保、残り33人』で嘘！近いじ

やん。僕さつきから転んでばっかだし逃げ切れるかなあ。」

ヨッシー「裏ミSSIONの開始まで残り8人ですかー。」

ワリオ「こんな早くに捕まるなんてばかなやつだな。」

ハンターは逃走者の姿をとらえ、確保に向かう…。ハンターに見つかったのは、

ワリオ「ん？は、ハンター！！」

都市エリアのスタート地点近くのワリオ。周囲は見晴らしがよく、隠れられる場所が存在しない。

ポンッ

ワリオ確保。残り32人

ワリオ「くそっ、よりによってこんな早くに…。」

メタボのため鈍足のワリオもここで捕まった。

ピルルル

ピット「ま、また確保情報！？まさかまた森エリアじゃ…（ズベツ）」

心配になる転びまくりのピット。ちなみにこれで10回目。

クツパ「『都市エリアのスタート地点付近にてワリオ確保、残り3人。』まあ、あいつはすぐ捕まると思ってたからな。」

マルス「そうそう、あんなのが捕まったって大して驚かないよね。まあ、そんなメンバーの中に君も入ってるんだけどね。」

メールを読むクツパに通り過ぎざまに毒を吐いて行ったマルス。お前は何がしたい。

ルカリオ「しかしこうも連続して捕まるとはな。今まで少なかった分ということか？」

ロボット「マサカ、ココカラドンドン捕マツテイクノデハ…。」

嫌な予感が浮かぶメンバーたち。

しかし悪状況に陥った逃走者にさらなるミッションが与えられる。

住民A 「もうあの王には我慢出来ん！みんなで反乱をおこそう。」

住民B 「そうだ！海エリアの者たちの苦しみを無駄にするな！」

住民C 「あのつるっばげの王に目に物見せてやらあ！」

住民D 「手始めに王に味方する貴族の館を襲撃だあ！」

ピルルルル

アイク 「…残り時間は250分…。ここでミッション2か。」

ピカチュウ 「悪魔の着信音…。次のミッションは、たぶんヤバイ。」

ガノン 「『ミッション2。これより各エリアに…』」

ピーチ 「『ハンターボックスを3つずつ設置する』って嘘お！」

フォックス 「『阻止するにはハンターボックスについている鍵を閉

めろ』これはきつそうだな。」

ミッション2「ハンター放出を阻止せよ」

ミッション1の結果によって王の海エリアの住民への仕打ちに怒った住民たちは反乱を企て、手始めに各エリアに3つずつある貴族の館を襲撃することにした。

その中にはハンターボックスがあり、中にハンターが1体ずついて、残り220分になると館のドアと、ハンターボックスが開き、中にいるハンターが放出される。

阻止するにはハンターボックスのレバーを倒し、ハンターを封印しないとならない。

リンク「全部放出したら15体増えて18体かぁ。これはやらないと。」

レッド「俺は他の人よりつかまりにくいから絶対やる！」

ピーチ「やるわ。女だってやる所を見せてあげなくちゃ！」

マルス「これはやろっかなー。アイクにばっかいいところ見せられるのも嫌だし。」

都市エリアでミッションに参加するのはこの4人。
ちなみに、

ヨッシー「やりませんよ。誰かやってくれるでしょ。」

クッパ「わしは足が遅いからやるわけないだろう。」

ガノン「俺みたいな悪役がそんなことやるかよ。」

ミッションに参加しない同じく都市エリアの3人。

サムス「もちろんやるわよ。さっきのミッションではいいとこみせられなかったし。」

シーク「今度こそ海エリアを成功させてやらないとね。」

トウーン「はい！一緒にがんばりましょう。」

メタナイト「今度は私もクリアできるといいな。」

ウォッチ「コノミッションナラデキソウナノデヤリマス。」

海エリアでは5人が参加するらしい。そのうちのシークとトウーンリンクは今一緒に行動している。
しかしこちらも

デデデ「何があってもわしは動かんゾイ。」

プリン「怖いでプリ。動きたくないでプリ。」

ミッション1と同様参加しない2人。2人とも隠れているようだ。

ルカリオ「今度こそ参加する。」

ピカチュウ「これなら小さい僕でもできそう！」

前のミッションでは小さいため運ぶのを断念したピカチュウ。今度はちゃんとやるらしい。

他にも前のミッションで倉庫を探していた人達は今度もやるようだ。

ピット「やるう！でも、（ズベツ）転ぶ…。でも最初よりはだいぶ転ばないようになったから大丈夫！」

アイク「…これもあるしここはやらないとな。」

オリマー「やりますよ、もちろん！何もしないで捕まったらピクミン達に笑われますよ。」

ウルフ「俺はミッションはやらない。まだこんなに残ってるんだ、

どうせ誰かがやるだろ。」

やっと羽根がないのに慣れてきたピットとラジコンエンゼルを手に入れたアイク（結構使いこなしている。）それにオリマーも参加するがウルフはあくまで人任せだ。

森エリアは5人がミッションに向かう。

住宅街エリアの方は

ソニック「Yes. もちろんやるぜ。いいところ見せてやるぜ!」

リュカ「ハンターは怖いけど、やらないともっときつくなるしね!」

先ほどのミッションに参加しようとした2人は今回もがんばるらしい。

ポポ「ナナにいいところ見せたいし…がんばる!」

ポポも参加でこちらは3人がミッションに参加することになった。

ドンキー「そんなのやらなくても誰かがやってくれるだろ。」

ロボット「ヤリマセン。捕マルノ怖イデスシ。」

あくまで他人任せの2人。住宅街エリアは他のエリアに比べて参加者が少ない。

1人1つ担当となる。

ファルコン「やらねえ。近くにハンター居るし…」

近くにハンターがいるためミッションに参加しないファルコン。

ディディー「ハンターボックスって結構近いんだけどハンター居るし…。」

こちらにも近くにハンターがいてうまく動けない。ちなみにファルコンの近くだ。

ゼルダ「私はやります！リンクんにいいところをみせたいです。」

フォックス「ウルフはやらないだろうからやるぜ！」

ナナ「ポポもやるだろうしやらないと！」

ネス「ただ待ってるだけじゃつまないしね。参加しよ。」

近くにハンターがいない4人は参加するようだ。

この様子だと度のエリアも1つのボックスに対して1人以上の担当がいるようになるが、はたして阻止できるのか。

リュカ「よし、がんばろう！ハンターボックスはどこかなあ？」

？7「そうやって果敢にミッションに挑もうとするあなたは偽善者、善人、どっちだろうね。」

リュカ「！な、誰！？」

いつの間にかリュカの後ろには黒い服の人が立っていた。

？7「私は謎の集団の？7。ま、せいぜいがんばりなよ。そのうち私たちの正体も見破らないといけないんだけど、あなたたちに見破れるかな？」

そういつて？7はどこかに行ってしまった。

リュカ「あれが…謎の集団。」

マルス「あ、ラッキー。ハンターボックスだ。僕ってついてるなー。」

ガシャ

都市エリア、残り2つ。

シーク「ハンターがいるね。トゥーン、しばらく待てよう。」

トゥーン「まだまだ時間はありますしね。」

ハンターを見つけてうまく進めない海エリアの2人。

?2「へー結構参加者いるんだな。」

?6「普段着なんだからばれそうな発言には気をつけてよね。」

?2 「わかってるって。今は怪しまれないようにするためにこの格好でいるんだし。」

?6 「うん。これなら僕らが謎の集団だなんて誰も思わないよ。」

シックとトゥーンのすぐ近くでそれを遠巻きに見ている?2と?6。2りは怪しまれないように普段着を着ていると言っているが、今の格好の彼らは、逃走者たちもよく知っている人物だ。さあ、誰だろう。意外にばれればれのような気もするが…。

?5 「あの野郎、勝手なことを…。」

?4 「お前うるさいな。少しだまってる。」

?5 「でも…。」

謎の場所では黒い3人が話し合っていて、そのうちの1人、?5がだだをこねている（ようだ）

?1 「単なる遊び心だろう?計画が狂うわけでもないしいいだろ。」

?5 「それなら俺がやりたかったのに…。」

? 3 「意外に子供だねー。」

? 4 「こいつに言われたらおしまいだな。」

文句の多い? 5。どうやら目立ちたがり屋らしい。彼が目立つ時はいつ来るのだろうか…。

4話 mission2開始(後書き)

牢獄DEトーク

ファルコ「おっ、いらっしやーい。」

カービィ「うう…こんなに早く捕まるなんて…。」

ワリオ「シヨックだな。」

ルイージ「気にすることないよ。僕なんて最初捕まって1人だったから暇だったし…。」

スネーク「お前は予想通りだから驚かなかったがな。」

カービィ「負け組の象徴のような人だもん。あんだ。」

ルイージ「な、ひどい…。」

?「あ、ダメだよー。またネガティブゾーンになっちゃうよー」
ファルコ「誰だ？」

?「始めましてー、ユナです。こっちは相棒のぼるだよー。」

パル「パルウエンだよ、まあ、どっちでもいいんだけど。」

カービィ「君たちは何しに来たの？」

ユナ「作者に無理言ったださせてもらったのー。ミッシヨンの役やろっかなって。」

ワリオ「でもあれ意外と役割少ないぞ。」

パル「お前に言われたくないな、メタボの髭。」

ユナ「ぼるる、あんだどS?」

パル「さあ? あんたこそ天然?」

ファルコ「…なんだ、こいつら。」

ども、作者です。

あとがきだけどユナとぼるる登場です。

そのうち本編にも出します。

で、今回確保者多いしミッションきついしだけど、謎の集団の正体わかった人はいらっしゃるか？

？2はばれそうだと思うんですが（――；）

5話 近づく闇 (mission2終了) (前書き)

感想欲しいです

：久しぶりに更新して何言っただと思っただでしょ、そうです。
でもまだ一応テスト期間中です。

感想とか、評価ポイントとか、正直言っちゃうとあんま貰ったこと
ないんでちょっともらいたいなーとかよく思うんですよ、はい。

と、今回は、「キャラつくるなんてめんどいことしねーで素でいき
やがれ!」つつー裏タイトル(?)が:。

私の中ではマスターは馬鹿なんですよね。(特に擬人化時)
つーわけでそろそろキャラ偽った制裁加えるわけです(笑)
(こうするために最初にあーゆう性格にさせましたw)

5話 近づく闇（mission2終了）

残り時間240分。

ミッション終了まであと20分。

残るハンターボックスは14個。

シーク「よし、ハンターもいなくなったしそろそろ行こう。」
トゥーン「はい！」

ハンターが遠くに行きようやくハンターボックスに向かう海エリアのシークとトゥーン。

一方、

サムス「これね、ハンターボックス。それっ。」

ハンターボックス封印。海エリア残り2個。

ウォッチ「ア、サムスサンガココハ封印シタデスネ。ナラ僕ハ他ノ所行ッテキマス。」

サムス「私も行くわ。ここに来たのは2人とも同じくらいだし。」

海エリアでミッションに参加している残りの2人も合流して次のハンターボックスを探しに行った。

フォックス「あ、ハンターボックス発見。それっ。」

ハンターボックス封印。城エリア残り2つ。

ナナ「あ、フォックスさん。ミッションやってるんですか？」

フォックス「ああ、ナナもか？」

ナナ「うん。ナナも、ポポに負けなくらい頑張るの。」

フォックス「そうか。頑張れよ…！ハンターだ！逃げろ。」

ナナ「嘘！？」

いち早くハンターを見つけて2人とも振り切った。

ハンターは気付いてなかったようだ。

ナナ「危なかったー。私、こっちのハンターボックスやるからフォックスさんはこっちお願い。」

フォックス「わかった。気をつけろよ。」

フォックスと別れてハンターボックスを探すナナ。角を曲がって…
ドンッ

ナナ「きゃあ、え、ハンター…？」

運が悪いことにハンターと鉢合わせてぶつかってしまった。つまり、確保。

ナナ「うう…ハンターさん。せめてタッチしてー。」

ポンッ

ナナ確保。残り31人。

ピルルルルー

ゼルダ「ナナ確保…。近いですね。気をつけないと。ってきゃあ！」

ナナを捕まえたハンターがゼルダを見つけた。ナナが捕まった場所からゼルダまでは相当近かったらしい。
しかしゼルダは森エリアの方向に逃げる。

デイディー「あれ、ゼルダ。どうしたの？」

ゼルダ「デイディーさん。逃げてください！」

ディディーを抜いたゼルダ。直後振り返ったディディーの目にハンターが映った。

ディディー「え…嘘。」

ポンッ

ディディー確保。残り30人。

ゼルダ「すいません…、ディディーさん。」

ピルルルル

マルス「へー、あの猿も捕まったか。あ、2つ目♪」

ハンターボックス封印。都市エリア残り1個。
さつきからよく動くマルス。さすが俊足。

シーク「あったよ。トゥーン。」

トゥーン「シークさん。2人で一緒に押しませんか？」

シーク「いいよ。せーのっ。」

ハンターボックス封印。海エリア残り1個。

ルカリオ「こんなところに…。ていつ。」

ハンターボックス封印。森エリア残り2個。

ピット「うわああ！また転…（ポチッ）アレ？いいところに柱が。」

ハンターボックス封印。森エリア残り1個。

ピット「…え？うわああ！ハンターボックスだコレえ！（今気付いた）と、とにかくラッキー。」

ソニック「くそっ、ハンターがいて近づけない…。」

ミッションに参加しているソニック。しかしハンターがいてなかなかハンターボックスを封印に行けない。
ちなみに彼のいる住宅街エリアはまだ1つも封印されていない。

ネス「あ、ハンターボックスみつけ。それっ。」

ハンターボックス封印。城エリア残り1個。

ピカチュウ「アイくんどう？見える？」

アイク「…ああ。少し遠いがまだ封印していないハンターボックスがあった。行こう。」

ピカチュウ「うん！で、他のはどう？」

アイク「…残りは2つとも封印されていた。」

最初のミッションでラジコンエンゼルなるものを手に入れたアイクはピカチュウを頭にのせながらハンターボックスに向かう。

ミッション終了まで残り10分。残るハンターボックスは7個。

ソニック「やっとハンターいなくなったぜ！」

ハンターが遠くに行くのを見届けたソニック。持ち前の俊足でハンターボックスまでたどり着いた。

ハンターボックス封印。住宅街エリア残り2個。

ピーチ「あら？ハンターボックス。それっ。」

ハンターボックス封印。都市エリア残り0。

ピーチ「城エリアにでも移動しようかしら？ってきやあ！ハンター！」

ハンターに見つかったピーチ。スカートのため（当たり前だが）あまり速く走れない。

ポンッ。

ピーチ確保。残り29人。

ピーチ「せっかくミッションやったのに…。」

ピルルルー

マリオ「姫も捕まったか…。」

あ、久しぶりマリオ。最近出なかったね。

マリオ「るせえ！作者に忘れられてただけだ！」

作者「そうそう。忘れてたことに今気付いた。」

マリオ「作者出た！」

レッド「やっぱり住宅街エリアの方が逃げやすそうだなー。」

都市エリアから住宅街エリアに戻ってきたレッド。その目の前に、

レッド「アレ？道のど真ん中にハンターボックスが…。わかりやすすぎだな…。」

レッドの言うとおり住宅街エリアに入ってすぐのところの道のど真ん中に「早く封印してくれ！」とでも言うようにハンターボックスが置いてあった。

レッド「えーと、これ、なんか不安だな。ま、いいか。」

ハンターボックス封印。住宅街エリア残り1個。

？4「戻った。」

？1「あれ、？3は？」

？4「？2と？6を別行動させて？2のところに行かせた。」

？1「それなら安心だな。」

?5 「じゃ、そろそろ俺もあっち行つてくらゐ。」

?1 「ああ、わかった。私と?4は残る。何かあったらこちらから呼び出す。」

?5 「りょーかい。」

?5 は謎の場所から出て目的地に向かう。

サムス 「見つけたわ! ハンターボックス。今度こそ海エリアはミッション成功させてやるわよ! さあウォッチ、押して。」

ウォッチ 「エツト、僕デスカ?」

サムス 「さっき押したのは私だもの。同じように歩いてるのに私だけいいところりするわけにもいかないでしょ?」

ウォッチ 「サムスサン…。ヤサシイデスネ。海エリアノミッション成功サセマシヨウネ!」

ハンターボックス封印。海エリア残り0。

シーク「あれ、2人とも。ここはもう終わったのかい？」

サムス「あら？シークにトゥーン。ここともう1個はもう私たちがやったわよ。」

トゥーン「じゃあ海エリアはこれで全部ですね！」

ウォッチ「テコトハオ2人デモウ1個ハ封印シタンデスネ。」

シーク「もう残り時間も少ないし次のミッションまでここにいようかな。」

サムス「あまり大勢でいるのも見つかりやすいし私はもう行くわ。」

ウォッチ「ジャア僕モモウ行キマスネ。」

2人はばらばらの方へ去って行った。

ミッション終了まで残り5分。

ゼルダ「はあ、やっと着きましたわ…。」

ハンターに追われた後、いろいろと歩き回ってようやくハンターボックスを見つけたゼルダ。

？7「ありゃ、やっと来た。いらっさーい。封印してきなよ。」

しかしハンターボックスの前にはネスに会った後からずっといたのか？7がいる。

ゼルダ「あの、あなたは誰ですか？」

？7「謎の集団の？7だよ。いいこと教えたげるよ。今のところ残りハンターボックスは3つだよ。」

ゼルダ「そんなに減って…、よかったです。」

？7「早くおしなよ。こんなところで話していると時間切れになるよ。」

ゼルダ「あ、そ、そうですね。」

ハンターボックス封印。城エリア残り0。

？7「残り逃走者は29人。もう少しで私たちの出番だね。裏ミッ

シヨンは、すごく難しいよ。特にゲーム終了間際、逃走者たちをかなり苦しめるだろうと思うよ。じゃねー。」

ゼルダ「あ、待ってください！」

？7「ん？」

ゼルダ「なんでそんなこと私に教えるんですか？」

？7「…さあ？なんでだろうね？」

そう言って？7は歩き出した。少し離れてから振り返って、ゼルダに聞こえないようにこう言った。

？7「なんとなくってこともあるけど、あの事件の後世話になったしね。そのお礼、かな？」

もちろんゼルダには聞こえなかった。

ミッション終了まで残り1分。

アイク「…ぬう。上からは見えたが下から行くとなるとなかなかう

まくいかなな。」

ピカチュウ「え、まさかアイくんまた迷った！？」

アイク「…いや、だいぶ近いはずだが。」

ピカチュウ「ヤバイよ。もう残り1分だよ！」

アイク「…大丈夫だ。あつた。」

ピカチュウ「あ、ホントだ！確かに周り木ばっかだしね、わかんなくて当然かも。」

残り30秒。

アイク「…じゃあ押すぞ。」

ピカチュウ「待って、2人で押そーよ、ね？」

アイク「…わかったじゃあ行くぞ。」

ハンターボックス封印。森エリア残り0。

ピカチュウ「これ以上は無理だね。みんなやってくれてたらいいいんだけど…。」

アイク「すぐに結果が来るだろ。」

残り時間220分。ミッション失敗。

ピルルルルー

マリオ「おつ、ミッション結果だ。て、失敗じゃねーか！何やってんだよ！」

何もやってねーお前が言うな。

マリオ「作者に忘れられてただけだ！」

クッパ「『ミッション失敗。』何だと！」

ウルフ「『マルス、フォックス、サムス、シーク、トゥーン、ルカリオ、ピット、ネス、ソニック、ピーチ、レッド、ロボット、ゼルダ、アイク、ピカチュウの活躍により14個のハンターボックスが封印された。』フォックスもやったのか。」

ゼルダ「あの後にも1つ封印されたんですね！アイクさんにピカチュウさすがです！」

ピカチュウ「『しかし住宅街エリアのハンターボックスが1つ封印されなかったのでハンターを1体放出する。』わー、1体でもきついなー。」

アイク「…それに、残り逃走者は29人。裏ミッション開始まで残り4人だな。」

国民たちの暴動に王は怒って、暴動に参加した住民たちを数名見せしめにした。

しかしそれによって国民の怒りは増すとなった。

姫（玲羅）「父上、このままではこの国はだめになってしまいます。（棒読み）（こいつ相手にやるきしねー）」

王（タブー）「うるさい！私にはむかうというなら誰であろうと容赦はしない！姫を牢屋に閉じ込めておけ！（玲羅、真面目にやれ！）」

姫「父上、この国はもう終わりますよ…。（はげ相手に真面目にやる演技力なんて持ち合わせてない！）」

兵士（ロイ）（俺っちは何役かあるぜ）「王様！国民達が本格的に暴動を始めました！」

王「そうか、一応は姫の言うとおりになったわけか。だがいい。さすがに兵士には勝てんだろう。それに、傭兵も雇ったことだし。」

傭兵（クレイジー）「ま、金くれんならなんでもやってやっぜー。（…て、何でハゲがこんなところに…。）」

ロイ「（素と同じじゃねーか！演技してねーよこいつ！）」

王「金はさっきいっただけ渡す。国民達の暴動を抑えろ。」

傭兵「あいさー☆（てか、ウザっ…。）」

ピルルルルー

マスター「クレイジーからか。」

クレイジー「おい馬鹿！てめーなんではげを参加やがった！？」

マスター「そ、それはつつこまないで欲しい。仕事はちゃんとやってくれクレイジー。」

クレイジー「どっこが仕事だー！だいたいてめー遊びの計画の時だけ真面目なだけじゃねーか！なんだよいきなり威厳あり☆な真面目マスターぶりしやがって！」

マスター「う…そ、それはいつもの私が、馬鹿だと言うのか…。」

クレイジー「ったりめーだろ。能天気で威厳の欠片も感じない馬鹿だ、てめーは。なんでこんな奴の弟として生まれたのかがいつも不思議なほどだ！」

マスター「…ひどいや」

負のスパイラル突入（笑）

クレイジー「やつといつもの馬鹿に戻ったな。なれないしゃべりをするもんじゃねーぜ。お前もれ…と、なんでもねー。」

マスター「どうした？まあ、だって、神だし、なんとなく威厳ほしーじゃん。」

クレイジー「普段の様子からしてこういうときだけでも無駄！じゃあな。（プツツ）」

玲羅「何やってたんですか？」

クレイジー「あー、ちょっとマスターのあの喋りうぜーからいつものように直させた。」

ロイ「あー、確かにあーゆー威厳あるようなキャラじゃないしな。マスターは。」

玲羅「そこまで言われちゃおしまいのような気がしますけど…まあ、改めてミッション3始めましょう。」

5話 近づく闇（mission2終了）（後書き）

牢獄DEトーク

ルイージ「姫ってハンターボックス封印してから捕まったんだ!」
ピーチ「そうよ。ホント悔しいわ。復活ミッションでも始まらないかしら。」

作者「やるよ。」

ナナ「ホントに!?!」

作者「うん。ま、逃走者が頑張ってくれないと復活できるかわかんないけどね☆」

カービィ「でも復活できるかもしれない!」

作者「ま、そーゆー訳で次回に続く。」

6話 mission3開始(前書き)

前回の前書きに感想とか評価ポイントとか欲しいって書いたんですけど、

：てか、書きちゃったんですけど。

実は正直「書いたからって感想来るわけでもないかーあははは☆」
とか思ってたんですけど…まさか、

1日に3つも感想くるとは思ってもみませんでした…。

ホントビックリです。

いまなら手から10万ボルト出せそうな気さえます。(無理だけど)

ピカチュウさん、クラウドさん、あああさん、ありがとうございます
ましたーっ!!

感想もらうと元気出るって本当ですね。

これからもがんばって書いていきたいです!

評価ポイントも知らぬ間に増えています…

どなたか知りませんが1回であんなに高いポイントをつけてくれる
とは…

きつとつけてくれた人は宇宙の様に広い心の持ち主なんだ。きつと。

今回も感想くるかな?

やばい、普段より何倍か増しでドキドキしてきたあ!!

とゆーわけで長くなりましたが6話を読んで下さいな。

6話 mission3開始

ヨッシー「ミッション2も終わったことですし、しばらくはミッションこなさそうですね。」

安心するヨッシー。でも、甘いぞ！作者は時間経過を考えて書くのが下手だから終わったと思ったたらまたすぐ次のミッションがくるぞ☆

ピルルルルー

ほれ見ろ、もう来た。

ちなみに今は残り210分。

なんだかんだでミッション2が終わってから10分たっているわけだ。

ゼルダ「え、もう次のミッションですか？」

デデデ「今度は何ゾイ？」

ミッション3

王が数人の国民を見せしめにしたことにより国民の怒りが増し、暴動はさらに激しくなった。

国民の暴動の様子を見た姫は、王にこれ以上はやめるように言うがそれに怒った王によってとらえられてしまった。

城前では、国民と兵士たちによる戦いが始まっているが、王の雇った傭兵により国民達のほとんどがやられてしまった。

逃走者たちには国民と兵士の戦いを終わらせるために残り160分までにとらえられている姫を助けだして欲しい。

姫を助け出し、都市エリアにある牢獄まで連れてこれば今までに捕まった者のうち1人を姫に復活させてもらえる。

なお、復活した者が逃げ切るか自首した場合、その賞金の半分は助けたものが貰うことができる。

ファルコン「これはいいミッションじゃねーか！ちょうど城まで近いし行ってやるぜ！」

マリオ「俺はいつもピーチ助けてるしな。このミッションは俺のためにあると言っても過言じゃないな！」

マルス「…姫って、可愛いのかなあ？」

オリマー「50分もあれば楽勝でしょう。」

このミッションは牢獄にいる逃走者を復活させられるとだけあってほとんどの者が参加するようだ。

そのころ噂の姫（の役の玲羅）は…

玲羅「…やっぱり居心地はあまり良くないですね。」

ロイ「まー、誰か助けに来るまでだから早く助けに来てくれるといいな。」

ピチュー「玲羅の姫の格好可愛いでしゅ。」

玲羅「ありがとうございます。それにしても本当に来るのでしょうか？最初のミッションの時に言いましたが誰も来ないのだけはゴメンですよ。」

ロイ「まー、正義感の強い誰かさんがくるんじゃないか？」

玲羅「でも謎の集団もありますし、裏ミッション開始まで残り4人ですから、皆さんあまり動きたくないのかも。」

ロイ「謎の集団なんて来て欲しくなかったか？」

玲羅「いえ、裏ミッションも面白そうですし、やっぱりこういうことには何か事件がないと面白くないです。」

ロイ「へー、ま、俺っちも楽しいからいいんだけどなー。」

ピチュー「私もでちゅ。」

誰かこなかったらホントやだね。玲羅も牢獄の人も。

ポポ「そう言えばナナ捕まっちゃってるし、僕どこまで逃げられるんだろう…。」

片方が捕まってすっかり弱気のポポと、

リュカ「結局ミッションは体力のある人たちに任せた方がいいのかな…。」

ミッションに参加しようとしたが結局何もできなかったリュカ。
2人とも先ほどのミッションで1体ハンターが放出された住宅街エ

リアにいる。

そこに、先ほど放出されたハンター。

その近くには小柄な逃走者…。ハンターが視界にとらえたのは…

ポポ。

ポポ「うわっ、ハンター！近っ！」

ハンターがだいぶ近くに来てから逃げだしたので建物の陰に隠れることができない。

距離も縮まり、逃走は不可能になった。

ポンッ

ポポ確保。残り28人。

ポポ「ナナの分まで頑張ったのに…捕まっちゃったよー（泣）」

ピルルルー

ネス「ポポ確保！？子供組がどんどん減ってく…。」

リュカ「さっきハンター放出されたから…しかも近いよお。」

牢獄

スネーク「ナナ！ポポが確保されたぞ。」

ナナ「嘘お！ポポが捕まっちゃったよー（泣）ハンターのばかぁ！
ふええーん。」

ピーチ「ちょ、ちょっとナナ、泣きすぎよ。なみだの量ものすごい
わよ。」

カービィ「て、ナナ！やけになって暴走しないでよ！うわぁ、なみ
だが凍ってく…。」

ルイージ「わ、僕まで凍っちゃったよー。」

スネーク「このままじゃ皆凍ってしま…う…。こうなったらアレを使
うしか！」

ピーチ「なにかいい方法があるのね！さっそくやってみて。」

スネーク「フッ、いいだろう。必殺！…『段ボールに隠れる』」

スネークは段ボールの中に隠れた。

カービィ「それだけかーっ！！」

ピーチ「ヤバいわ。このおっさんの行動にしらけて、さらに場が凍りついたわ！」

…しばらく牢獄の中は地獄と化したらしい。

レッド「ふー、やっと城エリアだ。姫を探しに行かないとな。捕まってるっていつでもどこにいるんだろー。…うわっ！と、すいません。ぶつかってしまって…」

戦いの真っ最中にある城エリアを横切っていたレッドは近くにいた

少女とぶつかった。

ユナ「もー、気をつけてね。て、あなた逃走者かしら。」

レッド「え、そうだけど…。君は？」

ユナ「私はユナ。作者に無理言って出してもらったゲストキャラよ。」

レッド「ゲストなのにその他大勢扱いなのか…!？」

ユナ「ううん。私たちはお助けキャラ。出会った逃走者を助けてあげられるの。」

レッド「へーすごいな。あ、俺急いでるんだ。じゃ。」

ユナ「うん。じゃーね…ってまちなさいよ!! 普通こう来たら『じゃあ俺を助けてくれるのかい?』みたいな感じになるでしょ!!」

レッド「え、お助けキャラってそーゆーの?」

ユナ「そうじゃなかったらどーなるのよっ!!」

なんだかんだでレッドにユナがついてく事になりました。

?7 「あと、3人っ♪」

?2 「結構なはしゃぎようだな。なんかいろいろ逃走者と接触したりさー。」

?7 「むっ、あれはヒントだよ。結果的には私たちの正体を見破らないと(ピ)が(ピー)で(ピー)なことになるんだから!」

?3 「ネタばれを含むため自動的に(ピー)を入れさせていただきました☆」

?7 「そりゃわざわざどーも。で、つまり、見破れなかったらカイソーだからあーしてちよくちよくヒントあたえてるの。7人の中で私が一番難しそうだし。」

?2 「確かななー。で、…これからどーする?」

?7 「…どーしようか。」

マルス「城エリア到着！やっぱり僕王子だし助けてあげないとね。」

レッドに続いて城エリアについたマルスと、

フォックス「俺だっていいところちゃんと見せる！」

すでに城エリアにいるフォックス。彼もミッションに参加している1人だ。

フォックス「今回は復活ミッションだしな。それにしても姫ってどこにいるんだー？」

姫を探す狐。このミッションでは姫がどこにいるかは知らされていない。

城エリア内のどこかにいる姫を探し出して都市エリアの牢獄まで連れて行かなくてはならない。

残り時間205分。賞金合計は、108万円。

デデデ「賞金は108万かゾイ。これは自首も考えないとゾイ。」

こいつは自分が足の遅い事をよくわかっているらしい。

ピカチュウ「賞金108万円だって！アイくん、残り時間ももうすぐ3分の1だよ！」

アイク「ああ。だがその前にまずはこのミッションをやららないとな。」

相変わらずピカチュウを頭にのせたアイクはラジコンエンゼルを使いながら慎重に（迷いながらも言う）城エリアを目指していた。

そしてもう1組、ミッションでよく活躍（よく動く）この2人は、

トゥーン「海から城って、正反対の位置じゃないですか！行く途中でハンターに会ったらどうでしょう？」

シーク「うーん。この距離に行くのは難しいね。とりあえずハンターを巻きやすい森エリアを通って行こう。」

トゥーン「はい！僕はずっとシークさんについて行きます！」

シーク「ハンターに見つかったら二手に分かれような。」

トウーン「あ、はい。」

城エリアから一番遠い海エリアにいるものの、森エリアを通過して城エリアまで行くことにした。

動けばハンターに見つかる可能性は高まる。

…大丈夫だろうか。

?5 「何だよ！俺の出番全然ねーじゃねーかよ！」

?6 「まあまあ、そーゆう時もあるって。」

?5 「アレ？いつからいたんだお前。」

?6 「さーあ。いつからだろーなー？」

6話 mission3開始(後書き)

牢獄DEトーク

ポポ「あ、えと、だ、大丈夫です、か？」

スネーク「これが大丈夫のように見えるか？」

ポポ「あなたは平気に見えます。：段ボールの中で見えないですけど。」

ナナ「ポポ：ごめん。ポポが捕まったって聞いて、ショックで暴れたらこうなっちゃったの：。皆もゴメンね。」

ポポ「と、とりあえずリザードン溶かして！」

ーしばらくお待ちくださいー

ピーチ「ふー、一時はどうなる事かと思ったわ。」

ナナ「ご、ゴメンナサイ。」

ピーチ「いいのよ。子供なんだし仕方ないわよ。でも！その蛇！スネーク「蛇！？俺のことか？」

ピーチ「あんたしかいねーだろ！ナナよりあんたの段ボールで皆ノックアウトなんだよオラァ。」

カービィ「そーだそーだ！」

ピーチ「そーゆー訳で鉄拳制裁よ！みんな、行くわよ！もちろんポポとナナもね！」

注) この後スネークがどうなったかはご想像におまかせします。

7話 トウーンの傷心、決意（前書き）

お久しぶりです。

テスト帰ってきてブルーな奏音です。

やっと更新できました。

1週間ぶりでしょうか？お待たせしました。

ikk iさん、リアルルイージさん、感想ありがとうございます。

お2人の小説いつも読ませてもらってます！

執筆がんばってください。

今回は珍しくサブタイトルを真面目に付けました。

『トウーンの傷心、決意』ですね。

本当はミッション3終了とでも書こうと思ったんですがミッション

3が終わらなかったの…（苦笑）

次話をお待ちしてくださった方々、お待たせしました。（待ってる

奴？いねーよ）

これからがんばります。

7話 トウーンの傷心、決意

残り時間200分。ミッション終了まで残り40分。

リンク「よし、やっと城エリアについた。」

城エリアにやってきたリンク。これで城エリアにいてミッションに参加している人は4人になった。

ミッション終了までかなり間があるが、これはそれだけこのミッションが難しいということ。

しかしそれに気づく逃走者はいない。

アイク「…なあピカチュウ。少し思ったんだが。」

ピカチュウ「どうしたの？」

アイク「…ミッションやるために城エリアに行っただとしても、城エリアにミッション参加者たちが集まったら余計に捕まりやすくなるんじゃないか？」

ピカチュウ「確かにハンターが城エリアにいればそうなるだろうけ

ど、…でも同じように城エリアに行くミッション1ではあんまりそーゆーのなかったし…。」

アイク「…しかし少し前城エリアで確保者が出ただろう。1の時より今回の方が危険だ。参加はやめておこう。」

ピカチュウ「うん、そうだね。…あれ？まさかラジコンエンゼルで見えてたの？」

アイク「…偶然城エリアに向かうハンターをな。」

この2人はある意味で最強なのかもしれない。

ゼルダ「姫っていうと、私と同じなんですよね。私、がんばります！」

急にやる気を出し始めたゼルダ。彼女はすでに城エリアにいる。そして、

ゼルダ「あ、あれは…ハンターかしら？見つかる前に逃げておきましょう。」

遠くにハンターを発見し、その場を離れた。

シーク「…なかなか遠いね。」

トウーン「はい…。結構疲れてきました…。」

シーク「少し歩こうか。ハンターに見つかって逃げられなかったら元も子もないからね。」

海エリアの勇者、シークとトウーン。今までいた海エリアを離れて今は森エリアの中にいる。

ピット「あれ？トウーンにシーク？」

トウーン「あ、ピットさん！」

シーク「君もここにいたんだね。ハンターは近くにいた？」

ピット「あっちにはいなかったよ。それにしてもだいぶ疲れてるけど、大丈夫？」

シーク「海エリアから走ってきたからね。」

ピット「海エリアから！？よくハンターに見つからなかったね…。あんまり急ぐとハンターに見つかったとき…ていたあ！」

トウーン「嘘っ！」

ピットが見つけたハンターは少し離れたところにいたが、3人を見つけて走り出した。

ピット「2人とも大丈夫!？」

シーク「ピットは1人捕まった後に逃げれるから大丈夫だとしてこのままじゃ僕たち2人同時に捕まる可能性も…。」

トゥーン「確かに、体力が、もう…。」

ピット「あっちの方の入り組んだところに入れば逃げられるかも!」

トゥーン「ダメです、そこまで体力がもちませんし、ハンターが…ピットさん先に逃げてください!」

ピット「でも…、」

シーク「確かにこれじゃあ持たないな…、トゥーン。ピットと一緒にそっちに逃げてくれ。僕がおとりになる。」

トゥーン「嫌です!それなら僕がおとりになります!」

シーク「だめだ。君の体力じゃ長く持たない。僕を抜いてそっちに行って…早く!!」

ピット「わかった。いこう、トゥーン。」

トゥーン「ピットさん!？」

シーク「じゃあ、後は頼んだよ。」

シークがそこまで言うのを聞くとピットはトゥーンを引っ張ってス
ピードをあげた。

そしてシークは少し横の道に入った。

ハンターが狙うのは勿論シーク。

ポンッ

シーク確保。残り27人。

シーク「トゥーンもこれで逃げ切れるかな？」

ピルルルル

ゼルダ「『森エリアにてシーク確保残り27人』嘘、シークがこ
んなに早く…。」

マルス「あのシークが捕まるなんて…やっぱりハンターは相当早
いね。」

ファルコン「これはそろそろきつくなってきたそうだな。」

クッパ「あんな足の速い奴が捕まるのに我輩が捕まらないとはもはや奇跡かもしれんな。」

ヨッシー「残りは27人。25人まで後2人。」

メタナイト「裏ミッションまで、後2人か。」

牢獄

ピーチ「シーク確保ですって！？あんな速い人がもう捕まるなんて…。」

ポポ「これは、どうなるか分からなくなってきた！」

ファルコ「それより誰か！復活させてくれー！」

スネーク「フツ、こういう時こそ冷静にならなければいけないも…」

ピーチ「黙れ段ボール野郎！！だいたいあんたのせいで私たちがどれだけ苦労したと。」

牢獄メンバー（ポポ、ナナ以外）は前回ナナによって凍らされ、主な原因はスネークともいえるが…そんな感じのところにポポがやってきてリザードンに皆を溶かしてもらったのだ☆

その代わり皆黒こげ状態…。

リザードン曰く

リザードン「火力が強すぎたかもな。」

だとか。

そしていつのまにか広いとはいえない牢獄内でスネークが他の人達にボコされている。

シーク「えーと、なにやってるんだい？」

ピーチ「スネークを殺ろう☆祭りよ。」

ポポ「酷い祭りだ!!」

シーク「それにしても皆黒こげ？すごいことになってるね…。」

ピーチ「その元凶がこの蛇よ!」

シーク「…そういうことなら参加させてもらおうか。」

スネーク「な、参加すんのか、おいっ!止めろよ!」

この後、スネークは殺られたけど奇跡的に生きていたとかどうか。

トウーン「…シークさんが。僕のせいで…。」

ピット「あー、もう！シークは君に頑張ってほしくておとりになってくれたんだよ！？シークの分も頑張らないと！」

トウーン「でも、僕そんなに足も速くないですし、ピットさんの足を引っ張ってしまうかも…。」

ピット「弱気にならない！ほら、今復活ミッションあるじゃん。それでシークを復活させればいいんだよ！」

トウーン「あ、そうか！ありがとうございます。僕、頑張ります！」

トウーンは元気を取り戻して再び城エリアに向かった。

ピット「僕もミッション行かないとね！」

ピットもトウーンを追いかけるように城エリアに向かった。

トウーン「僕が、やらないと…。絶対に、シークさんを助け出します！」

小さな勇者は心の中で誓った。

?5 「…あきた。」

?6 「いわて？」

?5 「…何がだよ。」

都市エリアのどこか。黒服をきていない2人が話していた。
一応2人の正体は見えてるがあえて書かないでおこう。

?6 「いや、だって秋田って言ったじゃん。だから岩手。」

?5 「いや、秋田じゃなくて飽きただろーが。…ホント、こんなことやんのめんどくなくてきた。」

?6 「それ俺もなんだけど。」

仲良く話す2人の身長差はかなりある。
そして、声のトーンもだいぶ違う。

?5 「ミッション3だっけか? 長いんだよ。まだ30分くらいあるんだろー。」

?6 「我慢、我慢。もうすぐ裏ミッションもあるし。」

ロボット「ヤット城エリアニ着キマシタ!」

なんだかんだでこいつも城エリア入り。(扱い酷っ!)

残り時間190分。賞金合計132万円。

ミッション終了まで残り30分。

7話 トウーンの傷心、決意（後書き）

牢獄DEトーク

<小説内でしたためネタ切れ、今回は休みとさせていただきます>
ピーチ「なんですって!？」

決定事項ですって、姫。出てこないでってば。

つーわけで、

臨時トーク『裏・逃走中』注）随分と長くなったっす

?1「あのさー、俺ってずっとここにいただけあって出番少なくてね？」

?6「そういえば。一応逃走者に正体当てさせないといけないし、後でかわろっか。」

?5「つーかよ、今までヒントらしきもんなんて出してねーけど大丈夫なのか？」

?7「終盤で私達の出番増えるからそこで逃走者達に偶然会ったらヒントになるんじゃない？背の感じとかで。」

?2「なーる。そりゃいいな。で、裏ミッションで、具体的に何やるんだ？」

?3「そういえば聞いてなかったでしゅ。」

?7「せっかくだから読者さん達にも教えとこうか。裏ミッションは、『謎解き賞金減額サバイバル』!!」

?2「なんだよそれ。」

?1「裏ミッションには賞金が減るミッションが多い。そして、そのミッションをこなしながら私達の正体を当てなければならぬ。」

？7 「当てられた奴はゲームから退場。裏ミッションは各1つずつ考えてもらってるからね。つまり、正体を当てられれば当てられるほど、ミッションも減る。全員の正体を当てられたらゲームは強制終了。その時点まで逃げ切った人はそこまでの賞金をもらえる。」

？2 「…なるほどな。確かにきつそうだぜ。てか、逃走中からおおきくはずれてないか？」

？4 「この逃走中はながいからな。300分だしな。テレビを見てみろ。だいぶ少ないぞ。」

？6 「あくまで作者はオリジナル性を入れたいわけだな。どんな話になっても。」

？5 「ま、この裏ミッションについて作者は結構気に入ってるみたいだし、すでに1〜2個は展開が決めてあるそうだ。それで実行するミッションの時間は随分と短くするとか。」

？2 「そりゃ、残り時間もそこまで多くないしな。」

？7 「なんかネタばれを大いに含んだトークになった気がするんだけど。」

？3 「でもあくまで作者の予定では、でしゅよ。」

？5 「つーか現時点で俺らの正体わかってる奴もいるかもだし。」

？1 「それを嫌がって作者はここでの私達の口調を少し抑えてるしな。」

？7 「とゆー訳でトーク終了！また次回で会おうっ！」

8話 ? 6の失態(前書き)

またもや間が開いてしまいました。

8話になりましたが今回もサブタイトル考えてみました。

ミッション3はまだ終わりません。

ミッション時間ながすぎて奏音もほんと困ってます。

あ、いまさらですが作者の名前奏音はかのと読みます。

かなりよみづらいので念のため(笑)

毎度ながら皆さん感想ありがとうございます。

いつもいつも感想を読むと元気が出ます。本当に。

評価ポイントも24行きました!これはびっくりですねー。

目指せ、30ポイント!

8話 ? 6の失態

ミッション終了まで残り30分。

レッド「くそっ、あれからだいぶ探してるのに見つからないなんて…。」

ユナ「あせっていても仕方ないよ。まだ30分もあるし気楽に行こーよ。」

レッド「て、アレ？なんでお茶飲んでるの？しかも正座だし、湯呑みだし。」

ユナ「やっぱりこういう時でも雰囲気は大切だよ。ほら、飲む？」

レッド「いや、飲まないよ。ていうかすごいイライラするんだけど。」

ユナ「睡眠不足？夜はちゃんと寝ないと。」

レッド「…一回殴っていい？」

ユナ「お断りします。」

一緒に行動するところになったレッドとユナ。2人はあれからずっと城エリアの姫がいるという牢獄を探しまわっている。

レッド「やっぱり1人の方がよかったかも。」

ユナ「まあまあ、私というといいことあるよ。」

レッド「悪いことばかりやってきそうだ…。」

ユナ「…こっち来て。ほらここ。」

レッド「何？」

レッドには見えていなかったが、少し遠くにハンターがいて、レッドたちの方に向かっていた。

しかしユナのおかげでハンターは2人に気づかず通りすぎて行った。

レッド「だから、なんでこんなところに。」

ユナ「ハンターいたの。ほら、ちらっと見て。」

レッド「…!! ホントだ…。」

ユナ「ほら、いいことあったでしょ。」

レッド「た、確かに。」

クツパ「残りは27人か。あのシークまでが捕まったとなれば我輩もそろそろきついかもしれんな。」

その通り。後ろからハンター。

クツパ「…！な、ハンターだと！言ってるそばから。」

ハンターも気づいてクツパが走ると同時に走り始めた。
ご存じの通りこの亀は足が遅い。逃げるシーンを描写する気も起らないのであえて描写せず…

クツパ「コラ作者！どうせ捕まるならこの逃げるシーンもちゃんと描写しろ！」

お、まだ頑張ってる。

意外にもクツパは曲がり角を利用して逃げ切ろうとする。
しかし足が遅いのはどうしようもなくだんだんハンターとの距離が縮まってきた。

ポンッ

クッパ確保。残り26人

クッパ「くそっ、巻けると思ったのに！」

いや、無理だろ。

ピルルルルー

マリオ「亀確保か！しかも25人まで残り1りじゃねーか。何やってんだよ！」

相変わらず出番が少ないままのミスター任天堂。25人まで後1人とだけあっていらつきが増している。

ネス「韓国料理だ！韓国料理が捕まった！」

ちびっこたちはクッパのことを影で韓国料理と呼ぶ…。

メタナイト「残り1人で裏ミッションか。最後の1人になるのだけは極力避けたいものだな。」

言ったメタナイトは城エリアに到着した。これで城エリアにいるのは10人になった。

逃走者の約半分がこのエリアにいることとなる。

メタナイト「しかし中々リアリティがあるな。少しのぞいてみよう。」

メタナイトが向かった先には、

?6 「クッパ確保!残り1人で裏ミッションだ!」

?5 「おっ、じゃあこの役目もがんばねーとな☆俺あっちの方にも行って来るぜ。」

?6 「いってらー。と、よし、あと少しだしがんばるとするか。あ

と10分くらいで捕まるかな？」

メタナイト「…どうやら例の謎の集団が近くにいるようだな。」

？5と？6の会話をすぐ近くで聞いていたメタナイト。

？6「んー、とりあえず、他の皆と合流しとくかなー。…！！」

メタナイト「あ…お前、まさか、お前が謎の集団か？」

？6「あ、やっちゃった…。」

メタナイトにばったり会った？6。もはやごまかすこともできない。

メタナイト「ということはやはりお前が謎の集団の1人なんだな、子供リンク。」

？6「まさか裏ミッションが始まる前にばれるなんて…そうだよ。僕は？6、子供リンクだ！」

なんと、今まで出番が多かった？6は子供リンクだった！わーびっくり。

他の6人の正体なんだろうねー。

メタナイト「裏ミッションが始まったらすぐに報告してやる。」

？6「はいはい。お好きにどうぞ。」

トゥーン「やっと、城エリアに、着いた…。」

シークを助けるためにあれからまた走ってきたトゥーンがついに城エリアに到着。

トゥーン「シークさん、絶対…助けます！…あ、ハンター……ふう、危なかった。」

いち早くハンターを見つけ、うまく身を隠した。それにしてもうまく決まらないものなのう。

ピット「あれ？アイクとピカチュウ。何やってるの？そんなところで突っ立ってさ。」

ピカチュウ「ピット君！あのねー、アイくんに助けってもらってるんだー♪」

ピット「…？どういうこと？アイクなんか変なのつけてるけど。」

アイク「…戦利品だ。」

ピカチュウ「ミッション1の時にもらったの。エンゼルを飛ばして、エンゼルを通して周りの状況が分かるの。」

ピット「へー、便利だね。」

アイク「…ピットはこれから城エリアに行くのか？」

ピット「うん。折角の復活ミッションだし。それに、トゥーンとシークのために僕も少しは手伝いたいから。」

アイク「…まあ、よくわからないが、城エリアは逃走者もだいぶいるしハンターも俺が確認しただけで2体いた。気をつける。」

ラジコンエンゼル使ったとはいえここまで来るともはや神の領域…。よくそこまでわかるな、あんた。

ピット「うん。ありがと。じゃ、また後で。」

マルス「あのさあ、思うんだけど、僕の出番少ない？なんで？もしかして忘れられてたりする？」

知らないよ。喋らせると長いから黙らせたいんだよ。

マルス「なるほど。出番を多くするためだ。電話しよ。んー、メタにでもしてみるか。」

ピルルルー

メタナイト「ん？マルスからだ。もしもし。」

マルス「あ、メター？メタってミッションやってるの？」

メタナイト「ああ、今城エリアだ。」

マルス「じゃあ今までどこ探してた？僕は城から北とか東の方はおおよそ探したけど。」

マルスの探し方は意外と細かった。おおよそというよりまんべんなくと言ってもいいほどだ。

まあ、ありそうにないようなところを探したりなどしていたのだが…。

メタナイト「あまりよく見てはいないが南を探している。」

マルス「わかった。じゃあ僕は西の方探してみる。」

メタナイト「…そうだ、マルス。」

マルス「何？」

マルス「よし、いい情報が手に入ったよ。出番も稼いだし。西に行こう。」

最後、何を話していたんだろうか。

フォックス「今までだいぶ探したからな。この辺にあるだろ…。」

出番がマルス同様少なかったがその間城エリアをくまなく探していたフォックス。

彼は今マルスが向かう城エリアの西側にいる。

フォックス「そういえば、この辺木が多いよな。森エリアと近いからかな……。て、あそこは何だ？」

城エリアと森エリアの境目には木が多く、城エリアも外周りを木に覆われている。

しかし、フォックスの目線の先は、森エリアから少し離れているにもかかわらず、もそつ、と木が密集している。

密集していると言っても外側を木で覆われているためあまり違和感はないが、

フォックス「こういう場合は怪しいよな。行ってみるか。」

野生の勘（？）でそこへと向かった。

ピット「城エリア着いたー。さー、どこから探そう？」

フォックスが森(?)の中に入って行った直後、森エリアからピットが現れた。

ピット「アイクも言ってたし、慎重にね。…言ってるそばから。」

すぐさま近くの建物の影に隠れる。森とは違って街中の明るい中ではでは白い服はかえって目立たない。
ハンターは気づいていないようだ。

ピット「ふう、やっぱり気をつけて進まないかね。」

フォックス「あ…あった。」

見張りA役(ロイ)「よっ! なかなか早いな! 意外と簡単だったか?」

見張りB役(ピチュー)「とにかくこれで暇しないで済むでしゅ。」

姫役(玲羅)「はい。ミッション時間がやたら長いのでずっとこの

ままはキツイと思っていたところでした。」

フォックス「あ、そうなのか。」

ロイ「んじゃ、玲羅連れて都市エリアの牢獄までついたらクリアだぜ！」

玲羅「途中、ハンターに追われたら私を置いて逃げてください。そういう時などで離れた場合はその場で待機してます。その代わり、そこに別の人が通りかかればその人が私を連れていくことも可能ですので。」

フォックス「いろいろ難しいんだな。」

玲羅「そうは言ってもハンターに見つからなければ何も問題はありません。行きましょう。」

ロイ「いつてらー。…あ、そういやこの待ち時間の間に役作り忘れてたな、お前。」

ピチュー「あ、そう言えば逃走者来たら役作るんだったでしゅ。」

玲羅「あ…まあ、いいですよね！無理に役に入らなくても。」

ロイ「どっちでもいいぜー。」

フォックスが城エリア牢獄に到着。

残り時間は180分。賞金は合計144万円。

ミッション終了まで残り20分。

8話 ? 6の失態(後書き)

牢獄DEトーク

ナナ「韓国料理が捕まった♪」

ポポ「韓国料理が来たー♪」

シーク「2人とも、あんまりそう言う呼び方はやめた方がいいよ。」

クッパ「全く、その通りだ！我輩は料理ではない！」

ナナ「じゃあ、のろま亀。」

ポポ「鈍足亀。」

シーク「余計ひどくなってるのは気のせいではないだろうね。」

クッパ「だいたい、こいつらはなんなんだ！さっきから黙りっぱなしで！」

シーク「あー、ちょっといろいろあってね。そこにはつつこまないでおこうよ。」

ポポ「うん。」

ナナ「でもこんだけの人数だと話題がないよ。」

クッパ「小さいのになかなか鋭いところつくな。お、そうだ。かけをしないか？」

シーク「いいね。誰がミッション3をクリアしてここにくるか、誰が復活するか、この2つでどう？」

ナナ「ナナもやるー。」

ポポ「ポポもー。」

シーク「その焦げてる皆もやろうか。」

なんか、牢獄の皆さんも楽しそう…。

9話 裏ミッション始動(前書き)

今日は4時間授業なんでまた更新しました。
ミッション3はやたら続きます。

いつも読んでくださってる皆さん、ありがとうございます。
これからも早めの更新を心がけて行きます！

9話 裏ミッション始動

ミッション終了まで、残り20分。

マリオ「はー、今俺城エリアなんだよなー。助けに行きたいけど姫って聞くと行く気が…。」

一年の半分以上をピーチ救出に費やしているマリオにしてみれば、姫という言葉自体がもう禁止ワードになっているらしい。

サムス「残り20分ね。シークは捕まったけどトゥーンは大丈夫か

しら。」

シークとトゥーンが一緒に行動していたことを知るサムスはやはり心配なようだ。

リュカ「…あれは、ハンター。」

城エリアのすぐ近くまでやってきたリュカ。ハンターを見つけたようだ。

リュカ「やっぱり今城エリアは逃走者が多いし、追われてる逃走者にあって巻き添えにならないためにもここは戻ろうかな…。」

ちびっこなのに結構冷静な判断をしてもといった住宅街エリアの方へ戻りだした。と、

ソニック「おっと、S o r r y ! 急いでるんだじゃーな。」

リュカ「あ、ソニックさん……。行っちゃった。」

ソニックがすごい勢いでリュカを抜かし城エリアへ向かった。

ルカリオ「やはりこのミッションは危険だな。さっきから多くの者が城エリアへと集まっている……。」

普段から冷静沈着なルカリオはミッションに参加しなかった。
ちなみに場所は森エリアの、城エリアの入り口が見える辺りにいる。

ドンキー「デイディーが捕まった今、俺があいつの分まで頑張らないと……。」

ゲーム開始からずっと住宅街エリアの路地裏にいるドンキー。
足が遅いため、できるだけハンターがこなさそうな場所にいるとい
うことらしい。

プリン「ハンター怖いでプリ。私はずっとここにいてプリ。」

こちらは海エリアのベンチの下に隠れているプリン。
ハンターが怖いらしく、中々動こうとはしない。

デデデ「まだ全然ハンターに会わないゾイ。この調子なら逃げ切れ

るゾイ。」

余裕をかますのは同じく海エリアのデデデ。それくらいで調子乗ったらずぐ捕まるぞ。

オリマー「こういう自然の中にと無性にピクミンを抜きたくなります。でもここでは抜けないようになってるんですよ…。」

森エリアにいるため、ピクミンを抜きたがるオリマー。引っこ抜く動作をするが、ピクミンは出てこない。

ピット「あ、フォックス。それに玲羅もいる。」

フォックス「よお、ピット。俺、今から都市エリアの牢獄まで行く。もう城エリアにいても意味ないぜ。」

玲羅「久しぶりです、ピット。一応私は姫役ということになってますので。」

玲羅は、営業スマイルなのか無愛想なのかわからないが、無表情でいい退けた。

ピット「玲羅が姫役かー。じゃあミッションクリアはフォックスだね。あ、そだ。」

フォックス「どした？」

ピット「フォックスは誰を復活させるつもり？」

フォックス「んー、考えてねーんだよな。でもファルコだけは絶対に嫌だな。」

…仲間じゃなかったのか？

ピット「じゃあ、僕が決めてもいい？」

フォックス「あー、いいけどできるだけ速い奴な。」

ピット「それは大丈夫。：シークを復活させて。」

フォックス「シークなら足も速いしな：いいぜ。だけどなんでシークを復活させたいんだ？」

ピット「実はシークとトゥーンは海エリアからここまで来ようとしてたんだけど僕と会った時ハンターに追われて：それで、2人はバテて、トゥーンの身代わりにシークが捕まったんだよ。」

フォックス「なるほどな。あのシークが捕まるなんておかしい思ってたんだよな。わかった、行ってくる。」

フォックスと玲羅は都市エリアへと向かった。

子供リンク「よっ、来たぜー。」

ロイ「何だよ、そっちはもういいのか？」

子供リンク「まーなー。ちょっといろいろあって大変だったんだよ。」

ピチュー「色々？」

ロイ「クレイズが暴走して街壊しだったのか？」

子供リンク「ありそうだけど違うよ…。ま、あんま深く聞くなよ。」

ロイ「何だかなあー。聞くなと言われると聞きたくなるんだけどなー。」

子供リンク「やめてくれ。」

ゼルダ「あら？何してるんですか？」

話す3人に、先ほどフォックスが来たところからやってきたゼルダが声をかけた。

子供リンク「姫！？あ、ミッションですか？」

ゼルダ「はい、探してるんですが、3人は何やっているんですか？」

ロイ「俺たち2人はこれの見張り役だったんだけど、仕事が今さっき終わったばっか。」

ピチュー「だいぶ待ったでちゅよ。」

ゼルダ「え？　どういふことですか？」

ロイ「あー、つまり、今さっきフォックスが姫連れてった。少し遅かったなー。て、事だ。」

ゼルダ「そうなんですか。なら私は都市エリアを見に行ってみます。」

ゼルダはそのまま元来た道を通って都市エリアに向かった。

ファルコン「ミッション終了まであと10分か…。そろそろ誰かクリアしねーかなー。」

完璧に自分が行く気はないようだ。

ネス「あ、フォックスと、玲羅だ。もしかして玲羅は姫の役なのかな？ 逃走者以外が役になったりするって言ってたし。」

都市エリアに向かう2人を目撃したネス。

彼は、今までちょこっと探したが、ちびっこのため体力ギレで探すのをあきらめた。

コレといったことがなかったので忘れていたが、ちゃんとミッシェンに参加していたのだ。

ネス「何その『影で頑張っていました』みたいな扱いは！」

ピット「トウーン！」

トウーン「あ、ピットさん。見つかりましたか？残り10分ですよ……」

ピット「それなら大丈夫。フォックスが今都市エリアに行ったよ。」

トウーン「ファルコさんですか？」

ピット「ううん。シークを復活させてくれるって。」

トウーン「え、まさかピットさん。」

ピット「ちよつと事情を説明させてもらったよ。シークはもともと足速いから快く引き受けてくれたよ。」

トウーン「そうなんですか。」

ピット「ここはもう逃げにくいだけだから森エリアに戻ろう。」

トウーン「はい。そうですね。」

リンク「ここからは牢獄が見えるな。ミッション終了まで残り少ないし誰が来るかここで見てよう。」

都市エリアのリンクは牢獄近くに隠れている。すぐ近くには路地があり、ハンターがきてもすぐに逃げられるようになっていようだ。

牢獄内

シーク「僕はトゥーンが僕を助けてくれるのに賭ける。」

ナナ「ナナはー、ゼルダがシークを助けると思うー。」

ポポ「じゃあ僕は、ひげ…じゃなくてマリオがピーチを助けると思う。」

ファルコ「俺はフォックスが俺を助けるのに賭ける。」

シーク「自信満々みたいだね。」

クッパ「我輩もファルコとおなじにしてやる。」

ピーチ「私もマリオが私を助けるのに賭けるわ♪」

カービィ「僕はメタナイトが僕を助けると思う！」

スネーク「俺は…」

ピーチ「…てめえは一生段ボールにこもってろや、ああ？」

ナナ「こわーい。」

注）残りは一連の騒動でのダメージが大きいため気絶中。

ナナ「やっぱりナナはフォックスがシークを助けるにするー。」

ファルコ「おい、フォックスは俺を助けるに決まってるだろ！」

シーク「…こうしてメモしてみたけど、やっぱり皆自分が助かると予想してる人が多いね。」

ファルコ「フォックスが俺を見捨てるはずはないぜ。」

いや、ファルコさん、すでに見捨てられています。

ピーチ「ミッションも残り10分を切ったし、もうそろそろ誰か来てもいいはずね。」

カービー「…誰も、こなかったりして。」

クッパ「ピンク玉！余計なことを言うな！」

ピーチ「そうよ、不吉なこと言って…ああやだ。不安になってきたわ。」

ネス「…ハンター！」

ハンターがネスを視界にとらえて走り出した。

ネス「こっちに逃げれば…」

城の周りの木の影を走り回ってハンターの視界からのがれようといろんな方向に逃げる。

と、そのうちハンターはネスを見失った。しかし、

メタナイト「うむ、中々見つからないものだな。」

フォックスがすでに都市エリアに向かっているの知らないメタナイトはいまだに城エリアを搜索中。

そして、その後ろにはついさっきネスを追ったハンターが。

城エリアは逃走者が多いので追われた逃走者の巻き添えになりやすい。

メタナイト「！！な、ハンターだと…。」

ハンターはすでに近くまで来ている。
メタナイトは逃げようとするが、ハンターとの距離が近く、逃げ切れそうにない。

ポント

メタナイト確保。残り25人。

メタナイト「くそっ、最後の1人にはなりたくなかったのに……。」

逃走者が、残り25人になった。
と、いうことは……裏ミッション開始。

同時にメタナイトが捕まったことにより、?6の正体を知る者もいなくなった。

残り時間165分。賞金合計156万円。
ミッション終了まで残り5分。

9話 裏ミッション始動(後書き)

牢獄DEトーク

ピーチ「でもやっぱり一番足の速いシークが復活かもね。」

ナナ「ねー。」

カービィ「でもなんで速いシークがこんな早くつかまったの？」

ポポ「メンバーの中で5位以内の速さなのに…。」

シーク「いや、僕はそんなに速くはないよ。きっとマルスのが速いだろうし。」

クッパ「あまり謙遜するな。我輩から見たらお前ほどの速さは純粹に懂れる。」

ピーチ「やっぱりそうよね。」

シーク「でも：残り時間5分だよ。だいぶ心配だなあ。」

カービィ「メタナイトも捕まったし…。」

ポポ「しかも、裏ミッションまで…。」

ナナ「復活した後ならまだ裏ミッションならなかったのにー。」

カービィ「あの仮面野郎、間が悪いー!!」

ピーチ「それはそうとまさか、さっきのことが本当になるんじゃ。」

シーク「それだけはやめてもらいたいね。誰でもいいからせめて復活してもらわないと。」

かなりネガティブになる確保者の方々…。

次回、ミッション3終了！（のはず

— おまけ — 状況確認（前書き）

早めの更新を心がけるだとか書いときながらまた間があいてしまつてすいません…。

でも今日は奏音の誕生日なので無理やり書いてみました。なのでこんなおまけになってます。

どなたか誕生日ということで評価ポイント、感想、レビューなどくれたらありがたいです。次きたときに見たら感動で号泣するかもしれません…。

—おまけ— 状況確認

奏音「ここまでの流れをおさらいしてみよーっ！」

ぱるる「あんたがわからなくなってきたからだろ？」

ユナ「そーそー、奏音はバカだからね（笑）」

奏音「∴殺す。」

ユナ「うそうそ！奏音はバカではありませんっ！」

とゆーわけでここまでをおさらい

・おおよその情報整理

ただいま残り時間は165分。

逃走者は残り25人。

確保者は、ルイージ、ファルコ、スネーク、ワリオ、カービィ、ナ
ナ、ピーチ、ディディー、ポポ、クッパ、シーク、メタナイト。

生存者は残り大勢。(Σおいっ

カービィ「確保者も増えてきたし、牢獄DEトークももっと増やしてほしいな。」

マスター「それより僕の出番が最近全くないんだけど。」

クレイジー「知るか！そんだけおめーは目立たねーんだよ！」

・謎の集団について

黒服の7人。逃走中のシステムをいじって裏ミッションなるものを作った。

エリアに出るときは黒服着てたりきてなかったり…。

？1、以外はちよくちよくエリアに出ている。

ちなみに、7人の正体は全てスマブラメンバーが知ってる人達。(口調から予想してみよう☆)

？7はすでにリュカゼルダと接触(黒服の時に)しているけどばれてはない。

他はみんなどっかで暇潰ししてたりしていろいろやってる。

正体（現時点）はメタナイトにより、「?6 子供リンク」ということだけわかっている。

その他は不明。

?1 「そう言えば私だけエリアにでてないな。」

?2 「別にまだいいんじゃない？」

?7 「まあそのうち、そのうち。」

・裏ミッションについて

7人が勝手にシステムをいじって付け加えたミッション。

マスターはもはやめんどく対処すらもうとしてない。

残り逃走者が25人になるか、残り時間が150分になると始まる。

裏ミッションの主な内容は「賞金減額サバイバル」になっている。

逃走者たちは、その中で?1～?7の正体を見破って電話で通報しないといけない。

当たれば見破られた奴はゲームから除外。

持ちミッションが1人1つあるので、7人を少しでも減らせればその分楽になる。

間違ったらもちろん賞金減額☆

ゲーム終了間際にはさらに何かがあるとかないとか…。

マスター「裏ミッションもおもしろそうだから別にほっといてもいいよね♪ていうか、もう僕知らないから。」

クレイジー「こ、こいつ…開き直りやがったぞ。」

・有利な奴ら

リンク ミッション1で一度だけ身代わりになってくれる人形（？）をゲット。

アイク ミッション1でラジコンエンゼルゲット。

レッド ミッション1で透明マント×3回分ゲット。

マルス「そういえばレッドってまだ透明マント1回も使ってないよね。」

レッド「そうなんだよ。ハンターに会うことなんてもともと少ないし、かなりサービスされてると思うんだけど…。」

リュカ「それって絶対何かありますよ。なんか怪しいですよ。」

レッド「まー、そうだけども、使えばわかるさ、使えば。」

？位置情報

都市エリア ヨッシー、ゼルダ、クッパ、ガノン。

海エリア サムス、デデデ、ウオッチ、プリン。

森エリア ルカリオ、ピカチュウ、アイク、オリマー、ウルフ。

住宅街エリアリュカ、ドンキー。

城エリア Cファルコン、フォックス、ネス、マリオ、レッド、マルス、リンク、ロボット、トゥーン、ピット。

次回はまた本編に戻りますので…。
やっぱり間が開いてしまってますいせん＜＞

一 おまけ一 状況確認（後書き）

またせた上におまけで申し訳ないです。

次回は本編にきっちり戻るので次回投稿するまでしばらくお待ち下さい。

あ、前書きで書いた誕生日ですが、本当ですよ。マジで今日なんです。

b y 奏音

10話 mission3終了(前書き)

評価ポイントが36になりました。ありがとうございます！

あと、今まで貰った感想、返信ずつとしてなかったので今日までですべて返信しました。

遅くなってすいませんでした＞＜

では、予告

長く続いていたミッション3が今回でようやく終わります。

でも、さらに裏ミッションがスタートします。

本当に…ミッションばっかでわけわかんなくなってます。

10話 mission3終了

ピルルルルー

デデデ「メタナイト確保だとおー！なんてことをするんだゾイ！」

オリマー「メタナイトさん確保によりこれで残り逃走者は25人…。」

ドンキー「裏ミッションが始まるということか！」

マリオ「何やってんだよ仮面一頭身。」

リュカ「裏ミッション…。一体どんなものなんでしょうか。」

子供リンク「よっしゃー！メタナイト捕まったー！！！」

ロイ「な、なんだよいきなり…。そんなにメタに恨みでもあったのか？」

子供リンク「まあね☆」

子供リンク、つまり？6は、メタに正体を知られている。
裏ミッションが始まった今、通報されれば退場になるが、そもそも
通報できるメタナイトが捕まってしまっている。
つまり、？6の正体を知る者はいなくなったというわけ。

フォックス「くそっ、こんなときに裏ミッションが始まるなんて最
悪だ！」

玲羅「ミッション終了まで残り3分46秒です。」

フォックス「お前は無駄に冷静すぎだー！」

ユナ「ごめんねー。そろそろ私用事があるの。またねー。」

レッド「あ、うん。すごく助かったよ、ありがとう。」

ユナ「ばいばーい。」

ユナと別れたレッド。その近くにハンターが…。

レッド「やばっ、ハンター！」

ハンターに気づきレッドはすぐに走り出す。

しかしハンターもレッドに気づいて走り始めた。

ここでは住宅街エリアのように路地を使って巻くことができない。

レッド「わ…ハンターすごい速い！」

ハンターとの距離が少しずつ縮まってきた。

…が、皆さん覚えているでしょうか？透明マントのことを。

レッド「よし、これを使うことがついに来た！透明マント！！」

レッドがマントをかぶるとハンターの視界からレッドが消えて、ハンターはそのまま去って行った。

レッド「ふう、危ない。1分しか使えないし、今のうちに移動しておこうかな。」

透明マントをかぶったままレッドは都市エリアに移動しはじめた。

謎の場所

？1 「じゃあ、メールを送信するぞ。裏ミッション1だ。」

？4 「最初のミッションはなんだ？」

？1 「最初のは150分より前に始まったとき用に？3が考えたものだ。」

？4 「どれどれ。なるほど。これは時間的にいいミッションだな。」

ピルルルルー

？4 「電話か？」

? 1 「∴マスターからだ。まあ、おかしいことでもないな。」

もともとこいつらはメンバー達が知ってる人だからマスターから電話が来てもおかしいわけではない。

? 1 「もしもし、マスター？」

マスター「もしもしー。僕ね、少しわかったことがあるんだけど、いいかな？」

? 1 「どうぞ。」

? 4 「いつもの能天気に戻ってるな。（小声）」

マスター「君は、謎の集団の1人だね。しかもリーダーやってそうだから、番号的に? 1かな? 答えは？」

? 1 「あたりだ。どうして分かった？」

マスター「だって、こんな面白そうなこと考えそうな人ってあの2人しかいないじゃんか。それに、あの2人じゃここまでやれないし、誰かに手伝ってもらったのかなって。」

? 1 「さすが。でもどうして私が頼まれたとわかったんだ? これがやれそうな人は他にもいるだろうに。」

マスター「うん。もう1人だけ思いついた。こういうこと得意で、

イタズラも好きな人が。だから僕は両方いるんだと思ったよ。君たちは7人だからね。」

？1「なら、残り3人はわかるか？」

マスター「4人わかった時点でおおよその見当はついたよ。」

そしてマスターは？1に全員の正体の推理を伝えた。

？1「なるほど。全てあたりだ。そして、どうするつもりだ？」

マスター「どうにも。やっぱり面白そうだしね。いっそ僕も仲間に入れてくれないかな？」

？1「私はいいが、？5が嫌がると思う。」

マスター「僕が全部わかったって伝えたら、仕方なくいいって言うと思うよ。」

？1「わかった。決まったら連絡する。」

マスター「うん。じゃねー。」

フォックス「ハンター！くそっ、こんなときに。」

前方にハンターを見つけたフォックス。幸いハンターは気付いていないが、ミッション終了まで時間がない。

玲羅「こっちから行けば大丈夫だと。」

フォックス「本当か！よし、行こう。」

カービー「あ、フォックスだ！」

ピーチ「玲羅もいるわ！1人復活ね。」

ファルコ「フォックスー！お前は絶対に来てくれると信じてたぞー！」

ポポ「でも鳥を助けに来たんじゃないと思う。」

ナナ「ナナも思うー。」

好きかって言う牢獄メンバー。

フォックスが玲羅（姫役なんで）を連れてきたのでミッション成功。
1人が復活できる。

玲羅「私は知ってますが雰囲気あるのもう一度聞きましょう。誰を復活させますか？」

フォックス「もちろんシークだ。」

ファルコ「な、なんだと！フォックス、てめー裏切ったな！」

いきなりブチ切れるファルコ。

シーク「でもなんで僕なんだい？」

玲羅「ピットにトゥーンとシークの事について少し聞かせてもらいました。」

シーク「でも、ファルコを復活させなくてもいいのかい？」

フォックス「最初からさせる気なかったから大丈夫だ。それにシークは速いから文句なしで協力してやったんだ。」

シーク「…そうなのか。とりあえずありがとう。」

玲羅「じゃあお二人。気をつけて。」

フォックス「ああ、じゃーな。」

シーク「頑張ってくるよ。」

2人は同じ方向に走って行った。
ちなみにミッション終了まで残り30秒だった。

ピルルルルー

マルス「な、裏ミッション1!?! 『今から残り150分までに全員都市エリアのビルの中に入れ』何コレ!」

サムス「『ビルの中にはハンターは入れない。追われていても中に

入ればセーフになる。』随分といい条件ね。裏ミッションなのに…。」

ガノン「『ただし、150分になるまでにビルの中に入っていない者は強制失格☆』強制失格だと!?!?」

ファルコン「『by?3』なんてミッションだ。めんどくさい。」

裏ミッションに対しての反応は人それぞれ。

まあ、とりあえずビルの中は安全なんでだいぶいいミッションだとは思…。

ピルルルル

ピカチュウ「またメール!今度は…ミッション3の結果だ!」

ヨッシー「『フォックスがミッションクリア』ヘーフォックスさん中々やりますね。それで一体誰を復活させたんでしょう。」

ゼルダ「えーと、『復活したのはシーク』え、シーク！？本当に！？」

トウーン「ほ、ホントにシークさんが…ありがとうございます、フオックスさん。」

ピット「じゃ、僕らは裏ミッション行こうか。時間ないし。」

トウーン「そうですね。」

プリン「動きたくないけど行くしかないでプリ…。」

ウォッチ「マアマア、一緒ニ行キマシヨウヨ。」

プリン「え、本当にプリか？」

ウォッチ「勿論デス。私ダツテ誰カトイタ方ガ心強イデスシ。」

海エリアの2人は一緒に行くことになった。

アイク「…じゃ、俺たちも行くか。近くにハンターはいないぞ。」

ピカチュウ「うん☆早くいこー。」

すっかりおなじみになったミリエリアの2人も都市エリアに向かう。全ての逃走者が移動する今は、今までで一番ハンターに見つかる可能性が高い。

全員無事にビルまでたどり着けるのだろうか…。

フォックス「お、ビルってこれだな。ラッキー!。」

シーク「都市エリアにいてよかったね。中で他の人を待とうか。」

フォックス、シーク、ミッションクリア。
残り23人。

残り時間160分。賞金合計168万円。
ミッション終了まで残り10分。

10話 mission3終了(後書き)

牢獄DEトーク☆

ファルコ「くそっ、あの狐…。俺を裏切りやがって…。」

クツパ「まだ言ってるな。」

カービィ「どうするー？ネガティブオーラがこっちくるんだけど。」
スネーク「それなら俺の段ボールを使うといい。コレはなんと防音だから中でどれだけ叫んでも問題な…」

ピーチ「てめーはでてくんやー!!」

デイデュー「なんかナイス…。」

ワリオ「ならわしの○○を使って気絶させ…」

ピーチ「下ネタはお断りじゃオルァー!!」

メタナイト「…いつもこんなに騒がしいのか？」

ポポ「だいたい…。」

ルイージ「人増えてきたら皆僕に構ってくれなくなった…。」

ナナ「皆!またネガティブゾーンが!」

クツパ「な…ファルコのと合わさってさらに負のオーラ増しているだと!」

ピーチ「皆!牢獄の端っこに逃げて!」

カービィ「無理!逃げ場所なんてないよー。」

この後牢獄は再び地獄と化したらしい。

シーク「…復活してよかった。改めてありがとう。」
フォックス「いやいや。」

11話 マスターの気まぐれ（前書き）

知らないうちにお気に入り登録してくれてる人が増えてる…。
本当嬉しいです。

奏音のこんな小説を誰かが毎回読んでくれてるなんて…。
こんな小説でも…続きを楽しみに待ってくれますか？

11話 マスターの気まぐれ

残り時間160分。ミッション終了まで残り10分。

サムス「これはきついわね。しかも残り10分なんて…。」

海エリアのサムス。同じ海エリアの逃走者と合流しつつ都市エリアに向かっている。

リンク「ビルってここかー。よし、これでミッションクリアだな。」

リンク ミッションクリア。残り22人。

ルカリオ「ん？ウルフじゃないか。」

ウルフ「ルカリオか。…少し気になっていたんだが…」

ルカリオ「どうした？」

ウルフ「裏ミッションが始まったということは謎の集団の正体を通じて報でできるということだ。それなら都市エリアに向かう最中にも手がかりを探した方がいいということだろうか。」

ルカリオ「そうだな。怪しいやつがいらないか見ながら行こう。」

森エリアの2人は重要なことに気づいたご様子。

レッド「あれ？ガノンじゃないか。どこ行くんだ？」

ガノン「なんだおまえか。勿論ビルに決まっているだろう。俺は急いでるんだ。」

レッド「へー、ビルならそっちじゃなくてこっちだけど。もしかして方向音痴？」

ガノン「そ…そんなわけないだろう！ただの勘違いだ！」

そんなわけないとか言ってるけど顔は真っ赤。ばればれだ。

レッド「まーどっちでもいいけどどうせ近いし一緒に行こうよ。」

ガノン「いいだろう。」

なんだかんだでこの2人は都市エリア。ビルまではあと少しだ。

ゼルダ「…ビルってここでしょうか？」

シーク「あ、ゼルダ。こっちだよ。早く。」

ビルの前にきたゼルダに中にいたシークが声をかけた。

ゼルダ「あ、シーク。シークはもうビルの中にいたんですね。」

シーク「フォックスのおかげだね。彼には本当に感謝している。」

リンク「お、ゼルダ。よかった。ちゃんとこれたんだな…。」

シーク「彼ったらココに来てからずっと君の心配ばかり…」「わー！

ストップ、ストップ!!」そんなに赤くならなくてもいいじゃないか。」

シークの一言でリンク顔が真っ赤になった。

ゼルダ「…リンク、ありがとうございます。」

リンク「あ、ああ…。」

ゼルダミッシェンクリア。残り21人。

ピルルルル

マスター「あー、はいもしもし?」

?「わ、なんでマスターが…。」

マスター「あ、これ僕の仕事になったから。で、用件どうぞ。」

？「？6の正体は子供リンク。あってるよね？」

マスター「わ、せいかーい。じゃ、もう少ししたら皆に知らせるねー。」

？6の正体を通報したのはさあ誰でしょう？答えは後で！

アイク「∴右側にハンターがいるな。こっちからいこう。」

ピカチュウ「わー、やっぱそれすごいねー。と、そっちらならそこをそーいってー、こっち！」

アイク「∴ココで間違いないか？」

2人はラジコンエンゼルのおかげでスムーズにビルまで来ることができた。

もちろんそこで間違いないですよ、池さん。

フォックス「お、おまえらもついたか。さ、早く来いよ。て、それなんだ！？ かけー。」

ピカチュウ「もう結構いるんだね。」

アイク「…そりゃクリアしないと強制失格だしな。」

アイク、ピカチュウミッションクリア。残り19人。

ソニック「おっとお二人！随分早いじゃねーか！」

ピカチュウ「わ、さすがソニック。早いねー。」

ソニックミッションクリア。残り18人。

レッド「あ、ついたよ。アイクやソニックもいまきたばかりみたいだね。」

ガノン「なるほど。お前よくこんなの読めるな。」

アイク「…レッド、お前も来たか。」

シーク「5人とも随分と固まってきたもんだね。」

フォックス「残りのやつらも何人かで固まってきそうだな。」

レッド「まだ残り時間は半分以上あるからね。」

レッド、ガノンミッションクリア。残り16人。

ロイ「おーい玲羅ー。」

玲羅「どーしましたー？」

ロイ「俺っち達もそろそろビル行こーぜ。どーせ暇だから。」

子供リンク「そーそー、俺の心配事も消えたし☆」

ピルルルー

ロイ「ん？マスターからだ。そーいや俺ら逃走者と同じようにメル届くんだったっけ？」

玲羅「今まで少しマナーモードにしてたのですっかり忘れてました

…。」

内容←

裏通達1

謎の集団の正体についての通報をもらったよ♪

今回の通報内容は、『?6の正体は子供リンク』!!

見事当たってたから、?6こと子供リンクくんはゲームから除外しまーす☆

ちなみに、今回の通報者はマルスくんでしたー。

子供リンク「…あんの腹黒王子かぁー!! なんだあいつが知ってんだよー!」

ロイ「落ちつけよ…。」

マスター「あははは☆子供リンクくん残念だったねー。」

子供リンク「マスター! て、なんでいきなり来て…てしかもハンマー持ち!!」

玲羅「まさか…。」

マスター「ゲームから除外しないとねー♪」

マスターは右手にハンマー、左手にゴールデンハンマーを持って子供リンクに近づいてきて：

両方を思い切り振りおろした。

（※ちなみに逃走中の間は両手は擬人化しております）

子供リンク「うわあああああ！」

ロイ「子供リンクは星になったとき…。」

玲羅「怖いですね…。」

マスター「あ、ちなみにこの内容は僕の気分で毎回変わるから☆じゃねー。」

ボムっと音を立ててマスターはいなくなった。

ロイ「…なんだあいつ。マジシャンかよ（笑）」

シーク「あ、皆。マルスが？6の正体を通報してくれたみたいだよ。」

リンク「て、子供リンクかよ。でもこんなミッションの中よくわかったよな。」

アイク「…あいつは間に会うのか？」

ビル内にいる逃走者たちは通報内容を聞いてそれぞれいろいろなことを思っていた。

そしてその中の誰もが思ったこと、それは

レッド「でもあのドS腹黒エセ王子もたまにはやるなー。」

8人「それには同感。」

ウォッチ「ア、キットココデスヨ！」

プリン「本当にプリ！ウォッチさんありがとうございますでプリ！」

ピカチュウ「あ、2人ともいらっしやーい。」

ウォッチ、プリンミッションクリア。残り14人。

ピット「トウーン！ハンターが…あ、あそこいるう！」

トウーン「どこですか…て、これじゃ都市エリアは入れませんね。」

ピット「ビルに行くにはここ通らないと時間ないし…。」

トウーン「て、来ましたよ！逃げて隠れましょう！」

森エリアで一緒に行動している2人。
都市エリアとの境目あたりの道にハンターがいるためビルに行くことができない。
2人は近くに隠れてハンターをやり過ごすつもりだ。

ルカリオ「なるほど。やはりこういったミッションの間にも手がかりを探した方がいいということだな。」

ウルフ「まあ、あのエセ王子のことだ。どうせ単なる偶然とは思わがな。」

ルカリオ「それはわからんが…とりあえず急ごう。先のことを話していてもビルにつけなくては意味がない。」

ウルフ「わかってらあ。と、あそこハンターいるぜ。」

ルカリオ「くっ、こんなときにハンターとは。」

この2人もピット達と同じハンターを見つけて身を隠した。
2組のいる所はだいぶ近い。

ドンキー「よし、着いた！ハンターにも会わなかったしラッキーだったな。」

ドンキーミッションクリア。残り13人。

マルス「皆僕の活躍見てくれたよね？出番は結構少ないけど我慢しておいてあげるよ。」

カメラ目線でそんなことを言うマルス。
：ちなみに彼は今走っている。ビルに行くためではない。むしろ逆に走っている。
：つまり、ハンターから逃げるために。

マルス「そんな格好つけてる場合じゃないって？ 甘いね。僕は俊足だよ。そう簡単に捕まるわけじゃないじゃないか。」

自分で俊足とか言うのもしかと思うが、実際ハンターとの距離が少しずつ離れて行ってる。

元々距離はあったが、曲がり角を利用して走っているのが主な理由だ。

マルス「ふう、どうやら巻いたみたいだね。でもこれでビルの方向とはだいぶ遠くに来てしまったね。急いでいかないと。」

城エリアの端っこまで来てしまったマルスは疲れたのかややゆっくり目に走り出す。

マスター「ねーねークレイーいーでしょ？」

クレイジー「あー、ったくうっとおしい。仕方ねーな。わかったよ、それでいいぞ。」

マスター「わ、本当？ やったあー！」

クレイジー「とゆーか、俺がダメだと言ってもやるつもりだったんだろ？」

マスター「うん☆」

玲羅「（こんなところにいた…。）何やってるんですか？」

マスター「ちょっと今のミッション終わった後のことをお願いを…ね。」

クレイジー「ほとんどはこいつの気まぐれだな。」

ロイ「クレイジー…。お前も大変なんだな。」

ミッション終了まで残り5分。
ミッションクリアまで残り13人。

11話 マスターの気まぐれ（後書き）

牢獄DEトーク

ピーチ「ねえ、思ったんだけど、この前のTVの逃走中みたいに一度全滅して復活ってのはなしかしら？」

ルイーザ「いくらなんでもそれは…。」

メタナイト「奏音は優柔不断だからそう簡単に確保者はでないぞ。」

カービィ「それに、奏音の好きなキャラは優先的に残るしね。」

ファルコ「あのミッション1クリアした連中だろ？」

ポポ「でもそう言う風にやると捕まるキャラ偏るからって好きなキャラ（いつも使うキャラとも言う）も捕まったりしてるよー。」

ナナ「ナナ達とか、カービィとかはそのへんだよー。」

デイディー「あと、このコーナーをちゃんとしきってくれそうな人を持ってきたり…。」

ピーチ「で、それが私だったりするのよね…。まあ、おおよそは平等に決めたらしいけど。足の速さとか考えて。」

カービィ「…奏音って偏見で決めてるところあるけど最終的にはテキストに決めてるよね。」

クッパ「…意味不な人種だな。」

12話 残り5分の修羅場（前書き）

こんにちは。奏音です。

久しぶりなものでつつい長くなってしまいました。

日々内容がグダグダになってるような気がするのですが…気にしないようにします！

感想送ってくれると嬉しいです！

12話 残り5分の修羅場

ミッション終了まで残り5分。ビルにまだ来ていないのはあと13人。

?5 「ったく次から次へと…面倒になってきた。」

?2 「なら子供リンクの二の舞になるか？」

?5 「それだけは嫌だ。」

?7 「ならがんばって逃走者を全滅させようか☆」

?2 「全滅!?!目標高くねーか？」

?7 「いや、だって逃げ切ったときの賞金わかる?1人でも逃げ切られたら困るんだって。」

ちなみに、逃走者が賞金を獲得した場合それを負担するのはマスターと彼らとなる。だから必死になって賞金減額ミッションなどを考え付いたのだろう。

?2 「でもよ…もはやこれ逃走中じゃなくなってねーか？」

?7 「それは…否定できないね。」

?5 「残りの半分でどれだけ崩れるか…見物だな。」

ピット「よし、ハンターだいぶ向こうに行った…。」

トゥーン「じゃあ、行きましょう。」

ハンターが2人の先からいなくなったので急いでビルに向かう。
そしてもう1組、

ルカリオ「アレは…ピットとトゥーンリンク。2人もハンターがいて動けなかったのか。」

同じくハンターを見つけて足止めされていたルカリオとウルフ。この2人も先の2人と同じように急いでビルに向かう。

サムス「さ…最悪！！こんなときにハンターに見つかるなんて！」

海エリアからビルに向かっていたサムスは、途中でハンターにばかりビルから逆の方に逃げることになってしまった。しかし曲がり角が少なく、なかなかハンターを巻けない。

ポンッ

サムス確保。残り25人。

ピルルルルー

リュカ「サムスさん確保!どうしよう…。急がないといけないけど僕も見つかったら…」

住宅街エリアのリュカ。ビルからは遠い位置にいるわけではないが、ハンターに見つかるのが怖くて少しずつしか動けてないのだ。

リュカ「でも…僕だけ強制失格は嫌だし…頑張ろう。」

少しずつではあるが、またビルの方に進み始めた。

ロボット「ドウシマショウ…。私ハコノママ無事ニびるマデ辿り着ケナイト思イマス…。」

城エリアのロボット。彼(?)はロボットだけどあまり体力がなく、いまだに都市エリアに入ってすらいないのだ。

マリオ「あれ？ロボット？何してるんだよお前。もう時間ないぞ。」

ロボット「まりおサン！実ハ私体力が無インデスヨ。」

マリオ「…ロボットなのか？ま、いいや、俺急いでるし。こんなので強制失格にでもなったら姫に何されるかわからないからな。」

そう言っていると、ロボットを追い越して走り出すミスター任天堂。…せめて一緒に行ってあげるとかくらいはしてやれないの？

ネス「あ…あった…。やっと着いたよ…。」

ネス、ミッシェンクリア。残り12人。

ピカチュウ「ネス！遅かったじゃん！」

ネス「…リュカは？」

リンク「リュカはまだだぞー。それに、まだ半分くらいいない。」

ちよつと、リンクさんそんな落ち着いて言わなくても…もう残り時間あと少しですよ！

ヨッシー「あ、あれは、ネスさん。それに皆さんも、ということはココが…。」

シーク「いらっしやいヨッシー。」

ヨッシー「やっぱりココがビルでしたか！実は私ずっと都市エリアにいたんですが場所が分からなくなってしまうまして…。」

ヨッシー、ミッションクリア。残り11人。

ミッション終了まで後2分。

ピット「あー！本当にもう時間がないー！！」

トゥーン「ピットさん、あんま大きな声出すとさっきのハンターが来ちゃいますよ！！」

ルカリオ「あまり喋っていると走るのが遅くなるぞ。」

ウルフ「ハンターが来て巻き添えくらうのはごめんだぞ。」

走っていたピット達にルカリオ達が追いついた。

トゥーン「まさか、お2人もあのハンターに足止めくらってたんですか？」

ウルフ「やっぱりお前らもか…。」

ルカリオ「とりあえず急ぐぞ！！」

ピット「後2分だよ！！」

デデデ「もう無理ゾイ。もう走れないんだゾイ。」

デデデはもうあきらめたらしい。そりゃあまだ都市エリアにたどりついてすらいないのだ。足も遅いしもう無理だろう。

デデデ「こんなことならミッション始まってすぐ自首すればよかったゾイ。」

今からすればいいじゃん、自首。

デデデ「もう疲れて動けないゾイ。」

あっそ。終わったな。

オリマー「これは…ピンチです！やつと都市エリアまで来れたのに…間に合うのでしょうか？」

都市エリアにようやくついたオリマー。ココからビルまではそう遠くない。

頑張れば間に合うかもしれない。

オリマー「やるしかありませんね。ここで失格になったらピクミン達に笑われます！」

ファルコン「お、ココがビルだな。」

レッド「あ、ファルコンさん。」

ファルコン「おお、皆着くの早いな。俺なんか道に迷って間に合わないかと思ったぜ。」

なんか道に迷う奴多いな。そんなにこのあたりの地形はややこしいか。

ファルコン「ま、とりあえずこれで俺はクリアだな。」

ファルコン、ミッションクリア。残り10人。

フォックス「おい、皆！まだあと10人いないぜ！！」

ソニック「嘘だろ！？残り2分だぜ！？」

ゼルダ「まだ来ていないのは、デデデ、ルカリオ、オリマー、ウルフ、トウーン、ピット、リュカ、マリオ、マルス、ロボットですよ！！」

シーク「トウーン：絶対間に会ってくれよ…。」

ネス「リュカ：頑張れ！！」

フォックス「ピットもまだか…。」

アイク「…それにしてもマルスがまだとはな。」

レッド「確かに。マルスはかなり速いから絶対いると思ったのに…。」

まあ、あの王子は自分で俊足だとか言ってるからよくスルーされるが、俊足というのはあながち間違っていないのだ。

ウルフ「おい！ハンターが来るぞ！」

ルカリオ「時間もないしビルまでももう少しだ。強行突破するぞ！」

なんと、ココに来て4人の背後からハンターが。しかし距離はだいぶ離れている。ビルもすぐそこだ。

ピット「急ぎましょう！中に入ればハンターは来ません！！」

4人は急ぐが、ココでトゥーンのペースが落ちてきた。

トゥーン「ヤバい！！3人共先に行ってください！！」

ピット「トゥーン！？ダメだよ！せっかくシークが復活したのに！！」

トゥーン「でも、シークさんの時みたいに皆を巻き添えにはしたくありません。」

ウルフ「何言ってたんだ、ちびっこのくせに余計なことばかり!! おら…よっ!!」

疲れきっているトゥーンを持ち上げたウルフは、正面のビルの入り口へと、思い切り投げた!!

トゥーン「うわああああ!!」

そしてそのままビルの中へ。

フォックス「うわっ! トゥーンが飛んできた!!」

シーク「トゥーン! よく頑張ったね。」

トゥーン「シークさん…。」

トゥーン、ミッションクリア。残り9人。

ルカリオ「おお、ナイスだウルフ!!」

ピット「ちよっと見なおしちゃいましたよ!!」

ウルフ「それより、俺達がヤバいだろ!! お前ら、速く走れ!!」

ピット「あいさー!!」

3人の後ろには、もうハンターがすぐそこまで迫っている。

ピット「よし、セーフ!!」

ルカリオ「なんとか間に合ったな。」

ウルフ「久々にひやっとしたぜ。」

レッド「なんか叫び声やらが聞こえてくると思ったら君達か。」

アイク「…いきなり飛びこんでくるから驚いたぞ。」

ピット「そ、それより今の危なかったよ!もう少し遅かったら僕等の中の誰かが絶対捕まってた!!」

ルカリオ「4人共捕まらないですんだのはウルフのおかげだな。」

ウルフ「お、俺は別に大したことしてねーよ。」

ピット、ルカリオ、ウルフ、ミッシェンクリア。残り6人。

ミッション終了まで残り30秒。

オリマー「残りもう…1分も無いじゃないですか!! 私に間に合うのでしょうか…。」

都市エリアに入ったオリマー。ビルまではあと少し。

リュカ「ヤバい!! もうハンターなんて気にしてられない!」

ハンターを怖がって少しずつ進んでいたリュカは全力で走りだした。こちらも都市エリアに入った。

マルス「この僕が、そう簡単に終わると思うかい？この俊足の僕が
！！」

あら、ビックリ。ついこの間城エリアの端っこまで逃げていたのに
もう都市エリアまでやってきましたよ。本当に俊足なんだね。すご
いね、うん。

マリオ「絶対、失格になんてなりたくない！！」

ロボットを抜いて都市エリアにやってきたマリオ。その顔からは執
念が感じられる…。

現在都市エリアにいるのはこの4人。はたしてビルにつくのは誰だ
ろうか。

リュカ「ハンター！！ヤバイよ！」

なんとこんなときにハンターが。全力疾走のリュカはどっちにしろ時間がないのでビルの方へ走る。

残り20秒。

ポンッ

リュカ確保。残り24人。

リュカ「うわぁ！ハンター速いよ…。」

ピルルルルー

マルス「煩い！！こんなときにメールなんて見てられるかっ！僕がこんな早くに終わるなんて…絶対に認めない！！」

オリマー「あ、あれがビルですね!! もう少しです!!」

残り10秒。

オリマー「やっと、着きました!!」

ピット「わ、残り10秒だ!すごい、カッコいい!!」

オリマー、ミッションクリア。残り4人。

マルス「残り5秒!?それが何か?読者の皆さんは僕がココで終わると思ってるのかい!?!」

はい、もちろんです。逝ってください、王子。
全力疾走でもなお笑顔のあなたは逆に怖いです。30円あげるから
あきらめてよ、ねえ。

マルス「僕の本気、見せてあげるよ!!」

頼い!!! 大人しく失格になれ! そして出番のないまま終わってしま
え!!!

残り5秒

4

3

2

1 ドゴォッ!!

ミッション終了。

ピット「結局4人失格か。…で、今日の前を一陣の風が通ったような気がするんだけど。」

リンク「しかもなんかすごい音がしなかったか？」

アイク「…アレが原因だ。」

アイクが指さした方向を見ると、壁から煙が上がっていた。壁、少し壊れたね、コレ。
で、壁が壊れた原因は何か超スピードで突っ込んできたためのようだ。

シーク「……アレってもしかして。」

ウォッチ「イヤ、モシカシナクトモソウダト思イマス。」

煙が晴れてきて見えたのは何か青い何か…つまり、

マルス「ぼ…僕の本気…ちゃんと、見てた…かい？」

俊足の王子様、マルスだった。

ピット「マルスう！？大丈夫！？まさか頭激突したの！？」

マルス「あれえ…お花畑が見えるよ…。」

アイク「…よし、そのお花畑に全力で向かえ。楽になれるぞ。」

ガノン「死ぬぞ！！お前そんなに恨みでもあるのか。」

なんだかんだで…クリアしてしまった（Σおい

マルス、ミツションクリア。

マリオ、デデデ、ロボット、強制失格。残り21人。

そして、ビルに集まった逃走者達の前にマスターが現れた。

マスター「皆元気ー？今から特別ミッションやるよー。」

マルス「この僕が元気そうに見えるかい？」

ゼルダ「というか、そのために集めたんですか？裏ミッションで。」

マスター「うん。まあおおざっぱに言えばそうなるのかもね。」

全員「マスター…一回殺してやる…。」

マスター「もう皆ったらー、冗談きついんだから！」

クレイズ「冗談なわけないだろ。」

その通りです。皆殺気だった目でマスターをにらんでますって。目が本気だよ。本気と書いてマジと読むくらいすごいよ。

ロイ「そうだぜ！俺っち達だって急いできたんだから早くルール説

明しろよ!」

ドクター「私達も集めた理由を知りたい。」

ミュウツ―「ああ。しょうもない理由じゃないことを祈る。」

ピカチュウ「ドクターにミュウツ―もいたの!？」

ドクター「DX組は全員いるが…知らなかったか？」

ぱるる「ついでに私らもいるんだけどな。」

ユナ「おひさー。」

DX組とゲスト組も全員集合。特別ミッションって…何なんだよ?

玲羅「気になる続きは次回で☆」

ゼルダ「キャラ変わってません?」

玲羅「…それも含めて次回で説明するって。楽しみにまってなー。」

マルス「卑怯者。」

玲羅「黙らっしゃい!」

12話 残り5分の修羅場（後書き）

牢獄DEトーク

ピーチ「まったく何やってんだよひげじじい!!」

マリオ「…すいません。」

リユカ「すごい…マリオさんが完全に頭が上がらない状況に…。」

メタナイト「というか今までのキャラが思い切り崩れたような気がするのだが。」

クッパ「気にするな。これが素の性格だ。」

サムス「つまりは、あんたも結構大変ってことね。」

クッパ「最近なんかさらってもいないのにピーチちゃんが居座ってマリオに倒されたことも…。」

ポポ「大変だねー。」

クッパ「挙句の果てには『ゴメンマリオ。私もう少しココでゆっくりしてくから邪魔な亀やつといて』だとか。完全に我輩を消して我輩の城を自分の城にするつもりだ。」

ナナ「大変だねー。」

スネーク「そんなときにおすすめなのはコレ!! 段ボール（だみ声）これにこもればもう安心…」

ロボット「ナンデヤネン! 背中ノトゲガササツテ意味無ヤナイカイ!!」

カービィ「…関西弁で突っ込んだ!? そういえばロボットってお笑い好きだっけ…。」

ファルコ「どうでもいいけど…余計騒がしくなったな。」

13話 表と裏…ときたら？（前書き）

ついにこの小説のアクセス数が10000を超えました！！
前作なんて4000くらいで終わったのに…。

ついでに評価ポイント、感想の数、お気に入り登録数の全てで前作
上回ります。

これは完結までに20000アクセス越えしたいですね。

13話 表と裏…ときたら？

マスター「今回は特別ミッション編だよ☆」

オリマー「わざわざ編つけなくても…」

上機嫌のマスターにオリマーが冷たい突っ込みを入れる。ちなみに他のメンバーも皆冷たい目をしている。

マスター「もー、そんな怖い顔しなくてもー。じゃあ特別ミッションのルールを発表するよ☆」

特別ミッション

このミッションは偶然にもこの小説の10000アクセス達成と重なったから、そのおかげだって思っておこうね。（え

まず、そこ（どこ！？）に巨大なジェンガがつんである。逃走者達はそれを1つずつ抜いていく。

抜ける数は1人1つで、ジェンガにはたまに紙がはられているものがある。

紙には、『ハンター1体放出』、『ハンター1体消去』、『1人復活』、『?..?..?』がある。

ちなみにジェンガを崩した場合そこで特別ミッションは終了。

ドンキー「どこかで聞いたことが…」

マルス「ネタ切れでパクったな。」

マスター「酷いよ！そんなこと言わなくても…。」

ピカチュウ「それより??? 何?」

マスター「引いてからのお楽しみ☆」

そういうとマスターはちらっと玲羅の方を見た。

玲羅「…その能天気さが逆にうざい。」

マスター「玲羅ちゃんー(泣)」

マスターに30000ポイントのダメージ。マスターはテンションがかなり下がった。

リンク「そういえば、玲羅のキャラが変わった件についても教えてくれるんだろ?」

玲羅「じゃあ先にかたづけろか。まず、なんで私が敬語なんかで話してたかはわかる？」

ピット「なんか、記憶喪失とかって聞いたことあるけど…。」

ウルフ「初耳だぞ!!」

なんか、いろんな影響でなったらしいね、うん。

玲羅「うん、言ってないし。で、それはもうすでに1か月前に治ったの。でも皆それ知らないからそのままで行って後で驚かせようと思って。」

ヨッシー「なんかアバウトですね…。というかどんな設定ですか。」

玲羅「私については何でもアリさー。」

クレイジー「というか、こいつは変人だから何でもできる。」

マスター「ま、まあとにかく。特別ミッション始めようよ!!」

マスター復活。早いな…。

マスター「順番あみだで決めたよー☆」

はい、決めました。ガチであみだです。あみだくじ作成ってサイトを使ってみたくて：（Σ黙れ

17までしかできなかったので城エリア集団はラスト4番（笑）

1番ゼルダ、2番ウォッチ、3番ピット、4番ルカリオ、5番トウ
ーン、

6番レッド、7番オリマー、8番リンク、9番ヨッシー、10番フ
アルコン、

11番アイク、12番ガノン、13番シーク、14番ドンキー、1
5番ウルフ、

16番プリン、17番ピカチュウ、18番マルス、19番ソニック、
20番ネス、

21番フォックス

ゼルダ「わ、私が一番ですか…？緊張します。」

フォックス「うわ、最後かよ。」

あみだだ、文句を言うな。いうなら奏音のパソコンに言え。

1 番ゼルダ

ゼルダ「ココは…やはり真ん中を引きます。」

スポッ…セーフ。

紙は、ない。

ゼルダ「紙はついてないですけど…崩さなくてよかったです。」

2 番ウオッチ

ウオッチ「デハ上ノ方ヲ引キマス。」

スポッ…セーフ。

紙はあった。

『ハンター1体消去』

ウオッチ「ヤリマシタ!ハンター1体消去デス!」

プリン「よくやったでプリ!」

ウォッチは皆から歓迎された。

カービー「それより復活したいんだけど。」

牢獄メンバーはハンターより復活を引いて欲しい様子。

3番ピット

ピット「行つくよー！！とりゃあ！」

全員「いきなりだな！！」

スポッ：セーフ

紙がついている。

『牢獄から1人復活』

鎖の時といい今回といい、もう少しゆっくりやろうよ。
まあ、たしかに暗黙の了解あるけどさ。

ファルコ「天使様ー！！」

ピーチ「ピット、あなたこそ本物の天使よ!!」

復活を引いたピットは牢獄メンバーからいろいろと感謝されている。

マスター「復活する人は全員引いた後で決めるからねー。」

4 番ルカリオ

ルカリオ「私はここを引こう。」

スポッ：セーフ。

紙はない。

いや、速っ！なんか喋ろうよ、皆!!

5 番トウーン

トゥーン「やっぱり下の方ですよね…。それっ！」

スポッ…セーフ。
紙はない。

トゥーン「あー、ハンター増えなくてよかったです…。」

6番レッド

レッド「じゃ、俺は上の方で。」

スポッ…セーフ。
紙はない

レッド「うーん。なかなか紙でないなー。」

7 番オリマー

オリマー「なんか倒しそうで怖いですね……。それっ」

スポッ…セーフ。

紙はない。

オリマー「ずっと紙でないと盛り上がりには欠けませんか？」

心配ありがとう。その通りだよ。

8 番リンク

リンク「コレ…かな？それっ！」

スポッ…セーフ。

紙はついてた。

『ハンター1体放出』

全員「……何やってんだ!!」

リンク「そう言われても…。」

さすが不幸体質の勇者。逃走中のなかでは不幸じゃなかった分ここ
で不幸がでたらしい。

9番ヨッシー

ヨッシー「これですっ!」

レッド「だから引くの早い!!ピットのまね!!?」

ピット「え?僕のまねなの?」

スポッ…セーフ。

紙が付いている

『??.?』

マスター「わ、おめでとう!?.??.?がでたよー!」

ヨッシー「????ってなんですか？」

マスター「それも後で。」

全部後回しにするつもりかよ。

10番ファルコン

ファルコン「行くぜ!!ファルコーンパンチ!!」

ピット「せめて普通に抜こうよ!!」

スポッ：セーフ。

紙はない。

ウルフ「アレで崩れないのは逆にすごいな。」

アイク「…というかもし崩れていたらフルボッコだぞ。」

11番アイク

アイク「…これを抜く。」

スポツ…セーフ。
紙がついていた。

『ハンター1体放出☆』

アイク「…なんだこの☆マークは。」

リンク「何やってんだよー！せっかくウォッチが1体減らしたのに…。」

ガノン「お前も増やしただろ。」

シーク「でもその☆はなんだろうね。」

アイク「…ぬう。これは…」

ピラッ

紙は2枚がさねになっていてアイクが上をはがすとその下には…

『と、思ったら牢獄から1人復活ー☆』

という紙があった。

マルス「…なんだそりゃ。」

12番ガノン

ガノン「よし、これを引くぞ。とおっ」

玲羅「ぐはっ……（バタッ）」

全員「何事!?!」

スポッ…セーフ。
紙がついていた。

『玲羅が死ぬよ（笑）』

ガノン「…笑えるかあああああ（怒）!!」

レッド「つか紙見る前に倒れたよな!?!」

玲羅「ナンチャッター。嘘嘘ー☆」

リンク「当たり前だろ！！（本当だったらマスター殺すぞ）」

というかなんでこんな紙があるんでしょうかね？

ガノン「まさかこれも…」

ピラッ

『ついでに、ハンター1体死ぬよ（笑）』

ハンター「グハッ…（バタッ）」

ガノン「だから笑えねーよ（怒）！！」

マスター「まあ、つまり、ハンター1体消去ってこと。」

ネス「素直にそう書けばいいじゃん！！なんでやらせるの！？」

13 番目 シーク

シーク「今度こそは普通のが出て欲しいね。」

スポッ：セーフ。
紙はない。

そりゃ3回連続であんなの来たら疲れるな。普通が一番さ。

14番目ドンキー

ドンキー「おらあ!!」

フォックス「だから前置きなしに引くなって!!」

スポッ：セーフ。
紙はあった。

『ハンター1体放出☆』

ネス「あ、これってアイクと同じパターンじゃ…」

ドンキー「めくれるな。」

ピラッ

『思ったけど1人復活：orz』

ピット「なんでガッカリしてるの!? orzって…さりげなく復活

させたくないみたいになってるよ!？」

突っ込みお疲れっす。今回いつの間にか突っ込みキャラ化している
ピット君…。

ドンキー「まだめくれる。」

ピット「まさかの3枚がさね!？」

ピラッ

『うーん、やっぱり何にもなしでいいかなー?』

ピット「もはや復活でも放出でもないじゃんか!!」

マスター「あははは☆びっくりしたでしょ?」

マルス「マスター、君を一回燃やしてもいいかな?」

マスター「いいy…ってダメダメダメ!! 何言ってるのマルス君!
!」

シーク「今いいよって言おうとしたね…。」

残り7人と、復活するメンバー、???の内容は次回に続く。

途中経過

復活2人

ハンター4人（つまりそのまま）

???
1つ

13話 表と裏…ときたら？（後書き）

牢獄DEトーク

リュカ「牢獄って言うか…今はビル内なんですけどね。」

あ、そだね。じゃあ、

「牢獄メンバーDEトーク」になるのかな？

メタナイト「どうでもいいだろう。」

ピーチ「今回は1つ追記よ。ドンキーの時の紙についてたorzってのをピットが『なにがっかりしてんの！！』って突っ込んだわよね？」

カービィ「ちなみにどういう意味かわからない人に説明だよ」

ピーチ「orzってのをよく見ると、ガクッてなってる人の絵みたいに見えるでしょ？だから【orz】がっかり」というように突っ込んだの。」

ポポ「ちなみに、orlでも大体は似たようになるよ。」

ピーチ「で、豆知識はこの辺にして、今回だけで2人の復活が決まったわけだけど。」

ナナ「ナナはポポと一緒にじゃないなら復活しなくてもいいー。」

ファルコ「今度こそ復活してやるぜ！」

スネーク「俺が…」

ピーチ「黙れ（黒笑）」

サムス「でもどうやって決めるんだろうか。」

マリオ「読者に誰がいいか投票してもらうとか…？まいったな。俺が復活しちゃうぜ」

リュカ「パクるつもりですか？」

カービィ「だめだよ。奏音は感想なんて滅多に貰わないから、投票

なんてやつても1通もこないよきつと。」

奏音「さり気に酷いぜ：あんたら。」

ファルコ「うわ、出た！」

奏音「うわ、はないでしよが。仕返しすっぞ。」

焼き鳥「て、名前を焼き鳥にするな！！本当に食われるだろ、アイクに！！！」

ピーチ「ま、まあ、1通もこないのは置いといて、きつとあみだでしようね？」

奏音「うーん。どうしよう。」

スネーク「早いとこ決めとけよ。」

奏音&ピーチ「テメーは黙ってろや！！！」

14話　???と復活メンバー（前書き）

はい、前書きです。

今回募集してはないんですがあの人を復活して欲しいーてゆう感想が来たので採用しますゞ（・ω・）ムン

え？募集してないのに…てか曖昧なのに採用するなって？

いやー、奏音は予期せぬ事態が起これと嬉しくなるのですよ。

14話 ???と復活メンバー

15番ウルフ

ウルフ「さっきの様な2枚がさね、3枚がさねの紙は引きたくないな…。」

ゼルダ「ぶつくさ言っても何も変わりませんよ。ここは思い切って引いてみてはどうですか？」

ピット「…ピットは死んでしまった。」

全員「何でだ!?!」

リンク「ピットー?どうしたんだ?」

ピット「返事がない。ただの屍のようだ。」

注…今のセリフはピットが電子音に似せた音を頑張って出して言いました。

リンク「へー、ただの屍だってさ。」

クレイジー「思い切り喋ってんじゃねーか!?!」

スパアン!

2人は仲良くハリセンで殴られましたとき。

ウルフ「…で、そろそろ引くぞ。」

スポッ…セーフ（当たり前だろbyウルフ）
紙はない

ウルフ「まあ、放出とかよりは無い方がまだいいな。」

ファルコ「負け惜しみー!!」

ウルフ「うるさい、焼き鳥！牢獄のくせして俺に文句を言うな！」

ピット「そーだ、そーだ！」

フォックス「元気な奴だな…。というか騒がしいだけか。」

16番プリン

プリン「引くでプリ！」

スポッ：セーフ

ウォッチ「マタイキナリデスカ!？」

ファルコン「おいおい：もう少しこの緊迫した空気を楽しんでから引こうぜ。」

マルス「自分は終わったからって勝手だねえ。ま、ただバカなだけってのもあるだろーけど。」

シーク「それに君の方がもっと悪い引き方したんだしね。」

プリン「あ、紙があるでプリ! えっと、『?：?：?』でプリ!」

オリマー「?：?：?ってなんでしようね。」

レッド「マスターももったいぶらないで早く言えばいいのに。」

ドンキー「ケチだな。」

マスター「だーかーらーっ! 最後までのお楽しみだってば! それからケチじゃないもん!」

クレイジー「：うざいな。」

いつの間にかマスターの背後にはハリセンを持ったクレイジーがい

た。まあ、もちろんマスターは逃げただけだ。

17番ピカチュウ

ガノン「ピカチュウはアイクの頭に乗ったまま引くのか？」

ピカチュウ「じゃないと高いのを引けないもん。」

アイク「…俺が構わないならいいだろう？」

スポッ…セーフ

紙はない

ピカチュウ「早いところ皆引いちゃおーよ！」

18番マルス

マルス「やっと僕の出番みたいだね。」

ロイ「…そろそろ崩れねーかなー。」

マルス「ロイ、今何か言った？（黒笑）」

ロイ「い、いや、言ってない!!」

トゥーン「てか、あんだだけ距離あるのによく聞こえましたね…。」

マルス「行くよーとうっ」

ぬるっ……

マルス「うひゃわあっ!!」

勿論セーフだったのだが、その効果音にビビったマルスは一瞬で部屋の間まで後ずさった。

シーク「この棒、ヌメヌメだね。」

マスター「あははー、それ引いたんだー。それはね、この中に一本しかないんだよ。ラッキーだねー。」

マルス「何してるんだい、殺るよ（黒笑）」

玲羅「目がマジだねー。本気と書いてマジって読めるくらいだねー。これは。」

ロイ「言ってる場合かよ」

19番ソニック

ソニック「H e y! 行くぜ!」

スポッ…セーフ
紙はない

ソニック「次のやついいぜ。」

ウルフ「走るのも速いだけあって引くのも早いな。」

ピット「注意する以前の問題ですね。」

フォックス「知らないうちに引いてたってとこだな。」

20番ネス

ネス「20ともなると…だいぶ不安定だね。」

ガノン「いや、これで後2人だ。きっと持つだろう。」

ピカチュウ「どうせ後2人だもん。崩したって誰も文句は言わないよ。」

フォックス「…いや、俺が言うぞ！」

ネス「ありがと、気持ちが楽になったよ。そうだよ。崩してもいいよね。」

フォックス「いや、ダメだって！」

スポッ：セーフ

ネス「あ、紙だ。1人復活だって。」

牢獄メンバー「やったー！」

ミュウツー「…すごい喜びようだな。」

ピチュー「ピチュー。」

21番フォックス

フォックス「よし、これで最後だな。」

ウルフ「ここまでセーフなんだから絶対崩すなよ。」

アイク「…ついでに、放出の紙は引くなよ。」

フォックス「ハードル高っ！てか、温度差激しくないか！？ネスの時の態度はどうした！？」

ネス「え！？何のこと？（崩したら怒るって言われたもんね。仕返しー♪）」

フォックス「お前が言うなよー。」

スポッ：セーフ

紙はない

マルス「…まあ、無難でいいんじゃない？」

ピット「かなり地味だけどね。」

フォックス「ピット、笑顔で言うことじゃないぞ。て、マルスもだけど。」

シーク「あきらめなよ。そこに突っ込んだら負けだよ。」

マスター「で、全員引き終わったから、復活メンバー決めるね。前回のあとがきは覚えてるかな？」

回想行ってみよう。

マリオ「読者に誰がいいか投票してもらうとか……？ まいったな。俺が復活しちゃうぜ」

リュカ「パクるつもりですか？」

カービィ「だめだよ。奏音は感想なんて滅多に貰わないから、投票なんてやっても1通もこないよきつと。」

奏音「さり気に酷いぜ……あんたら。」

ファルコ「うわ、出た！」

奏音「うわ、はないでしよが。仕返しすっぞ。」

焼き鳥「で、名前を焼き鳥にするな！！ 本当に食われるだろ、アイクに……！」

ピーチ「ま、まあ、1通もこないのは置いといて、きつとあみだでしようね？」

奏音「うーん。どうしよう。」

スネーク「早いところ決めとけよ。」
奏音&ピーチ「テーマは黙ってるや!!」

マスター「てことで、『投票してもらおうかと思ったけど無理そうだからあみだで決めるか』的な会話してたんだけど、実はあのあと来たんだよね、うん。」

嘘だろ?おい。まじできたのかよ。

リンク「奏音…。お前が言うなよ。」

いやいや、マジで来ないと思ってたんだってば。だから募集かけなかったんだってば。なのに来たってところが嬉しいねー。

マスター「まー、でももし募集かけて候補者が7人とかになって抽選だったら困ると思ったんだけど、候補者3人だから採用することにしたんだ☆」

うん。確かに募集かけてねーのにありかよとか思う人もいるかもしれないけど、奏音はそんな人はいないと思うから。てか、そこまで思ってくれる読者さんがいたとしたらすごくうれしいんだけど…:いいと思うからね。だから問題なし。

マスター「というわけで、復活はメタナイト、ファルコ、ピーチの3人だよー。」

フォックス「(チッ、焼き鳥が復活か…。)」

うん。それ奏音も思った。感想見た瞬間、あ、焼き鳥かー。でもこの焼き鳥ネタで時間稼ぎできるかなーとか思ったから、うん。だからね、採用なのさ。

ネス「てか作者、地の文使って会話するなよ。」

なんだよ、悪いのかよー。ネスティーのいじわるー。

ネス「何…その呼び方。」

玲羅「奏音はたまにネスをそう呼ぶことがあるそうな。(笑)」

マスター「それより深刻なことがあるんだけど…。」

ピーチ「なによ。私が復活するのに文句でもあるの?」

マスター「そうじゃなくて、ピーチにメタが復活すると牢獄メンバーがボケオンリーになりそうで…早い話うまい突っ込みがいなくなるって言う…。」

クレイジー「：超どうでもいい話だな。ポケオンリー？んなの気にすんな。ほっとけ。どうせフワフワした感じになったら別コーナーつつこんでおく。」

あ、それいいねー。もらっちゃおー。

アイク「：もはや地の文でもなんでもないな。」

サムス「てか、私いるから大丈夫よ。」

あら、ホントだ。

マスター「はい、じゃあ次ね。ハンターはうまいこと放出と消去がでたから±0ね。」

ピカチュウ「それはわかってるから、？？？の内容教えてよー。」

マスター「うーん。次回からまた逃走中再開するんだけど、その時になればわかるよ。」

ピット「超、アバウト!」

リンク「何だコレ。」

ロイ「壊れたな。」

ピット「失礼な!! 僕は正常だよ!」

マスター「あー、まとまらないから静かにね。ま、そんなわけで。???の内容は皆で予想しといて。次回答え合わせね。」

全員「おいつ。」

14話　???と復活メンバー（後書き）

牢獄DEトーク

サムス「と、いうわけで今回からピーチに代わって私が仕切って行くわよ。」

全員「わー!!」

サムス「うるさい。」

全員「シーン…」

サムス「今日は質問コーナーよ。どしどし質問しちゃってちょうだい。」

カービィ「はいせんせー。」

サムス「はい、カービィくんどうぞ。」

カービィ「どうして最近更新速度が落ちてきてるんですかー？」

サムス「それはね。奏音が学校でいろいろ悩み事ができてね。中々ストーリーを考える…てかパソコンに向かう時間がないからなのよ。」

ナナ「え…それってまさかこのまま1か月とか間が空くかもって…？」

奏音「いやいや、そんな深刻じゃないってば。11月中には解決するはずだから。頑張って1週間に1話は出すようにするし。」

サムス「まあ、怪しいけど次行きましょう。」

スネーク「はい、せんせー。」

サムス「はい、アホのスネークくん。」

スネーク「この牢獄DEトークでの俺の扱いが酷い理由を教えてください。」

奏音「私がおっさんキャラ…特にお前が嫌いだからだ。」

スネーク「…。いいさ、俺なんて。俺なんてどうせ段ボールしかない地味キャラなんだ…。」

マリオ「他社から着てる時点で地味キャラではないと思うけどな…。」

サムス「ま、そう言うわけで、次回の質問コーナーもお楽しみにー。あ、この作品についての質問も募集中よ。」

ルイージ「募集するの!？」

奏音「いや、いらないな。てか次回質問コーナーやらないし。めんどくさいもん。いつもみたいなくだぐだな会話でいいでしょ。」

ポポ「酷い言われようだねー…。」

15話 波乱の後半戦開始☆(前書き)

時間がない中頑張って更新…というわけで今に至ります。

途中かけで数日後に続き書いて投稿よりは短くても区切って投稿の
がいいかなと思って今回はだいたい短いですが出しました。

15話 波乱の後半戦開始☆

マスター「はい、とゆーわけで、逃走中も残り半分！張り切ってまいりましょー！！」

ピット「まいりましょー！！」

最初と同じ都市エリアのスタート地点。そこで妙にテンションあがりまくりの右手バカ達と天使が盛り上がっていた。

ルカリオ「異常なテンションの高さだな。」

マスター「気にしない☆さ、皆は元気かなー？」

ファルコ「元気っつーかお前見てると疲れてくる。」

フォックス「て、鳥！俺達の方が疲れてんだぞ！！」

実際半分の今までしっかり逃げ延びてきた逃走者の皆さんにとってはこれからまた半分…。そう考えると自然とテンションも下がるようだ。

クレイジー「……このままだといつまでたっても始まらんな。おい右手バカ」

マスター「え？何？」（返事するんだ：by全員）

クレイジー「いいからとっとと始めろ。面倒だ。」

マスター「はいはい。じゃ始めようか。」

それから「僕が合図するまでに好きなところ逃げて」なんて言いだしたマスター。そんなら最初からここに集合させなくても…

メタナイト「待った。」

メタの言葉と同時にピタッと静止するメンバー。本当にピタッと止まった。すごい細かい芸やな。

マスター「どうしたの？」

メタナイト「そういえばまだ『？？？』の内容を聞いていないのだから。」

全員「あ。」

ウルフ「なんだよ。次回とか言っときながら結局無視するつもりだったのかよ。ネタ切れか？」

どうやらそれまで皆して忘れていたようで。皆さんそういえばそう

だったという感じで突っ立っている。

マスター「ネタ切れじゃないもん！！ちゃんと考えてあるよ。」

ファルコン「じゃあ早く教えてくれよ。」

マスター「あの紙は2つでたけど両方違うことだから順番にねー。
じゃ、まず1つ目ー。r」

ズドオオンッ！

セリフの途中だったマスターがいきなり視界から消えた：いや代わりに黒い物体があった。で、それはどうやら巨大なハンマー（100もて書いてある：。）のようで、つまりはコレにマスターは潰され：あ。もしや死んだ？

シーク「ん？なんか紙がついてるよ。」

皆がいきなりの事態に絶句していたはずだが、シークだけは何とも思っていないらしい。巨大ハンマーの方に行ってその紙を取る。そしてその紙には『便利アイテム全部除外☆』とあった。

リンク「…嘘だろお！！」

ピカチュウ「えー、マスター酷いよ。」

レッド「逃げ切れそうだと思ったのに…。」

アイク「…まあ、なんとかなるだろ。」

便利アイテムを持ってる3人は勿論文句を言う。てか、マスターが酷いとかむしろマスターはただの可哀そうな人になっているのだが。しかしその他の人は

オリマー「私達にはなんら関係ないですね。よかったです。」

自分達に害はないと知るとホッとした表情で3人プラス1匹を見ていた。

クレイジー「おいおい、お前らよくそんな重い持てたなー。」

玲羅「いやー、『心頭滅却すれば100tハンマーもまた軽し』さー。」

ロイ「どこかで聞いたことある言葉だな。…ってか俺っちたちも結構頑張ってたんだぜ？」

ドクター「これはロイくんにのませた薬が効いたみたいだな。」

ロイ「何飲ませたんだよ!? ドーピング!?!」

ミュウツ―「心配ない。ただのキノコ（レモン風味）だ。」

で、だいぶ賑わってきたこちらの方々。話の流れからしてこいつらがハンマーをやったらしい。でもそんなに盛り上がってる場合じゃないと思う。マスターその下いるんだけど。そろそろどかさないかい？

ピチュー「それでチュ。そろそろいいんでないでチュか？」

クレイズ「んだな。じゃ、ロイヤレ。」

ロイ「あいさー。うりやつ。」

ハンマーをどかすとマスターがいない…？

マスター「もうー。いきなりハンマーが降ってくるもん。ビックリしちゃったよー。」

ゼルダ「あれ？てことは無事だったんですか？」

マスター「うん。まあねー☆と、それより2つ目の発表だよ。2つ目は、裏ミッション1つだけ撤廃♪」

ネス「今度はちゃんとしてるじゃん。」

今度はというところをやたら強調するネス。便利アイテムが使えなくなった連中もどうやら立ち直ったようだ。

マスター「あ、でもミッションなくてもそれを考えた？○の人は残ったままだから。（？1ゝ7が1つずつ考えたものらしい）最後までに誰か見破らないとね。」

玲羅「後半は楽しそうだね☆」

ピーチ「いや…あなたは逃走者じゃないからそんなことが言えるのよ…。」

で、色々あったけどようやくスタート。後半の最初の位置は、

都市エリア

ゼルダ、ウォッチ、ピット、トウーン、ルカリオ

城エリア

レッド、オリマー、リンク、プリン、ピーチ

森エリア

ヨッシー、ファルコン、アイク、ピカチュウ、メタナイト

住宅街エリア

ガノン、シーク、ドンキー、ウルフ、ファルコ

海エリア

マルス、ソニック、ネス、フォックス

以上24人

残り半分なのにだいぶ多いですね。

なんかこれで最後まで行けるのかかなり心配です。（本気で）

ピルルルルー

『はい、じゃあ今から逃走中再開します。残り時間は150分。賞金は180万から始まるよ♪』

逃走者の元にこんなメールが届いた。差出人はもちろんマスター。というわけで逃走中後半戦(?)開始!!

アイク「…で、俺といってももう得なことはないぞ。」

いまだにアイクの頭の上に乗っているピカチュウ。2人は最初と変わらず森エリアだ。

ピカチュウ「大丈夫。なんかココが落ち着く場所になっちゃった。」

アイク「…ならいいが。」

て、おい。いいのかよ。あんたは本当にそれでいいのかよ。

リンク「お、よく見たらゼル伝メンバー1人も捕まってないじゃん
♪すごいなー。」

あ、ホント。すごいね。ま、そのうちだれか捕まるでしょ。

ピーチ「うーん。これでマリブラメンバー(?)は私1人だけね。ゼルダはいいわねー。悪役からちびっこまで残ってて。」

こちらはリンク達と全く逆の立場。まあ、おっさん2人いるしね。体力的な問題でもあるんじゃない?

?7「で、何?つまりはあの『?..?』で私のミッションが撤廃されたと。」

?1「そうなるな。」

?2「まー、仕方ねーだろ。運が悪かったってことで。」

?7「納得いくかーっ!!」

これから出される予定の裏ミッションは残り4つ。

15話 波乱の後半戦開始☆（後書き）

牢獄DEトーク

マリオ「ルイージ。」

ルイージ「何？兄さん。」

マリオ「お前って本当役立たずだよな。」

クッパ「そうだなー。影も薄いし2番手だし。」

マリオ「そうそう。隠しキャラって時点で影薄いんだよ。」

ルイージ「で、でも僕以外にも隠しキャラはいるよ。その人達も影が薄いつて言うのかい？」

マリオ「いや、お前だけだ。」

ルイージ「酷いや兄さん…。」

ロボット「デ、今回ハ私達ノ出番ハナイノデショウカ？」

サムス「そうね。」

ポポ「最近出番少ないよー。」

ナナ「だよー。」

スネーク「そういえばいつのまにかピクミン達いなくなったな。」

リュカ「あ、それなら人数増えてきたから皆さんの出番を取るわけにはいかないってどこかへ行ってしまうましたよ。」

ルイージ「気付かなかった…。」

マリオ「影薄い奴に気づかれなかったって…すごい可哀そうだな。」

16話 予告、賞金減額サバイバル（前書き）

はい、どーも。

最近なんやかんやで感想来てやたら嬉しい奏音です。

ダークピカチュウさん、わざわざお知らせ（？）ありがとうございます。

そして、募集行けなくてすいません。

奏音は謙虚です。（え

そして、ウイングさん、しょうたろうさんも感想ありがとうございます！

…も、もしよろしければリクエストさえいただければ出演させますよ？

あ、説明不足。作者様、orオリキャラをです。

もちろんどなたでもいいです。

条件は、この小説をちゃんと読んでくれる人、それだけです。

もし俺様が出てやるぜ！て人いらっしやいましたら感想で、出して欲しいキャラ（自分かオリキャラか）アニメやマンガのキャラはダメです。知らないの。

あと、性格や、特殊な設定ありましたら書いていただけると嬉しいです。

もう1つ、喋り方がわからないので、そのキャラで会話を書くか、そのキャラが出てる自作小説の題名もお願いします。

人数は未定です。

では、本編どうぞ。

16話 予告、賞金減額サバイバル

メタナイト「やっと後半か…。途中で捕まっではいたがここから半分はかなりつらいだろうな。」

そうっすねー。半分なのに24人もいるんじゃん。それじゃあ小説的に成り立たなくて困るよー。

メタナイト「だまれ奏音。」

そっちが黙りなさいな。

ファルコ「…せっかく復活したんだしな、気をつけていかないと。」

そういつてあたりを見回しながら進む焼き鳥…じゃなくてファルコ。

ファルコ「いい加減わざとらしくやるのやめろよ…って来た!!」

右斜め後ろの曲がり角から（わかりにくっ!）ハンターが現れた。

ファルコ「くっ、こんな早く捕まったら………」

全速力で角をまがり振り切ろうとするファルコ。捕まったらなんなんですか？

ファルコ「……牢獄メンバーに本当に焼き鳥にされる。（カービィらへんに）」

で、本当にそれが嫌なのか（普通嫌だろ）必死にハンターから逃げる。

…と、その先にはウルフ。

ウルフ「何だお前そんなに急いで…て、ハンターか！何連れて来てんだよ！！！」

ファルコ「お前がいるのが悪い！！！」

一緒になって逃げる2人は次の角を別々の方向に逃げる。

そして、ハンターが追いかけたのは、ウルフ。

ウルフ「な、嘘だろ！？」

現実です。しかもその先は海エリアの方向…。つまり、建物が減って巻きにくくなっている。

ポンッ

ウルフ確保。残り23人。

ウルフ「くそっ、ファルコさえこななければ…。」

ピルルルル

メールが届いたヨ♪（笑）

フォックス「うわ、何あいつ。もう捕まったよ。ださっ。」

ファルコ「はあ…焼き鳥にされずに済んだ…。」

せめて謝罪しろ。

謎の場所

?5 「こんなんでもいいだろ。」

?7 「何してるん?」

?2 「次の裏ミッションの修正。」

?7 「はい?どして修正…?」

?5 「お前が作ったミッション撤廃されただろ?だからお前はもう用なしだと思ってな。」

?7 「あ、あの、それはもしや子供リンクの二の舞になれということでは…。」

?1 「まあ落ち着け。そこまで酷いことは言わんから。」

ピルルルルー

ピカチュウ「あ、メールだ。なににー？通達だってー。」

通達

後半は前半とは少し違ったルールになる。

もちろん基本的なルールは一緒なんだけど、裏ミッションによって賞金減額、強制失格などが起こる場合もあるから注意ね。

裏ミッションの中には個人で行わないといけないものも出てくる（っぽい）。

個人のもものは、クリアした者とそうでないものでゲームの難易度が変わってくる。

もちろん、私達の正体を当てて全員除外しないと大変なことになるかも。

健闘を祈る☆

b y ? 7

ガノン「……ふざけんなー！！（怒）だいたい☆ってなんだよ！いちいちいらつくんだよこいつはっ！！」

ハンターに気づかれない程度に大声で突っ込んだガノン。元気はまだまだ有り余ってるみたいだねー。

ガノン「思わず突っ込んだだけだ……。今ので結構疲れたぞ。」

あ、そうすか。

マルス「で、この通達について皆はどう思う？」

海エリアの王子はある民家の影で周りを警戒しながら聞いた。もちろん聞いたということは他にも人がいるということだ。

ネス「はいはい。賞金減額とか強制失格があるってことは、ミッションに積極的じゃない人から消えると思いマース！」

フォックス「授業じゃねーんだぞ……。」

ソニック「しかも個人のものはやった人とそうでない人で難易度が変わるとかいてあったしな。だけど、全員がやったら難易度は変わらないよな。そこんとも奴等はなんか考えてたりするんじゃない

のか？」

マルス「なるほどー。とりあえず前半以上にミッションには積極的に行きたいね。」

フォックス「だから座談会してる場合じゃあないんだけどな。」

海エリアから後半を始めたこの4人は、同じところに集まっていた。しかもなぜか座ってはいないが座談会のような事をしている。

マルス「何言ってるんだい狐（黒笑）こんな時だからこそ情報の交換は大切だよ。」

フォックス「いや、でも今ハンターに見つかったら逃げ切れなくないか？少なくとも1人は捕まるかもしれないぜ。」

マルス「その時はその時さ（僕が捕まりさえしなければOKだよ）」

フォックス「いや、さりげなく酷いこと聞こえて来たんだけど。」

マルス「それにソニックにおとりになってもらえば大丈夫だろう？ソニックならハンターから逃げられるだろうし。（それに捕まっても僕のせいじゃないし）」

フォックス「いや、だから黒い考えがもろ聞こえてくんだけど!!」

ネス「でも僕も捕まらなければ別にいいけど。」

フォックス「お前も！？他人を犠牲にして生き延びるつもりか！？」

ネス「もちろん。利用できるものは何でも利用する、これ僕のモットー。」

フォックス「誰だ！そんな言葉教えた奴！！」

そんな感じでいつの間にか口論に発展した狐と王子を残る2人は平然とした顔で見守るのでした。

ソニック「なあ、ネス。さっきの、嘘だろ？」

ネス「当たり前じゃん。僕がそんなひどい奴な訳ないじゃん。フォックスもまだまだだね。」

フツと笑って肩をすくめるネス。…てかあんた本当に子供？

?5 「へえー、結構きつそうになったな。」

?2 「戦いに危険はつきものってもんだぜ。気にすんな。」

?4 「戦いというか、ゲームだな。」

?7 「?2、惜しいよっ！いいこと言っはいるんだけど…ちよつとばかりから回った。」

?1 「騒いでないで早く送りなさい。」

全員 「はい。」

そして、後半最初の裏ミッションが始動する。

16話 予告、賞金減額サバイバル（後書き）

牢獄DEトーク

サムス「さあ、質問コーナーの始まりよ！まずは、『スネークから段ボールを奪って3日間拘束して倉庫に放置したらどうなりますか？』ね。」

ディディー「誰がそんな質問を…。」

サムス「葉書にはユナって書いてあるわね。」

リュカ「作者の友達ですね…。サムスさん、実演お願いします。」

サムス「わかったわ。」

スネーク「お、おい待て！実演って…本当にやるんじゃないだろうな！？」

全員「やるに決まってるじゃんか。」

サムス「さあ、皆、取り押さえて…！」

ポポ「せんせー、段ボールはどうしますかー？」

サムス「ひげの配管工に燃やしてもらいなさい。」

ナナ「はい。」

スネーク「おい、コラ、やめろ！それは俺の大切な段ボールなんだ

！親父の形見で…。」

サムス「単純な嘘ね。」

マリオ「それにもう燃やしたぞ。」

ルイーダ「結構よく燃えたよね。」

スネーク「嘘だあああああ…！！！」

17話 まず、手始めに（前書き）

更新すっごい間があいてしまっただけで申し訳ないです…。

そして最近では更新が停滞していたというのにアクセス数が安定しています…。

前なんて更新した2、3日後は10とかだったのに、最近は偏りなく毎日安定したアクセス数になっています。

これもいつも読んでくださっている皆さんのおかげです。
ありがとうございました！

そしてこれからもよろしくお願いします＞＜

別件

前回の募集、まだ締め切っていないので出たい方どうぞ。

17話　まず、手始めに

残り時間140分。賞金合計192万円。

…そろそろ作者は執筆ページと別枠で電卓アプリを常備するようになった。

…そして、逃走中のエリア配分、確保者などをメモってあるメモ帳も、残りメモ数が少なく（ry

……作者の脳内はそろそろ限界かもしれないのかもしれない。

ピット「早く本編進めろや」

スパーン（ハリセンで奏音が殴られた音）

そんなこんなで残りも140分になった。

知らないうちに10分たってた。

まあ、ご察しの通りここでミッションが入るわけなのですよ。

ピルルルルー

裏ミッション2

突然だが、逃走者達を指名手配させてもらった。

国中に手配書が配られていて、住人達は逃走者を認識すると騒いだり、妨害したり、追ってきたり、まあいろいろしてくる。

ハンターは、その騒ぎを聞くとそっちに猛ダッシュしてくる。

そこで、警察は国のいろんなところにバリケードはってるんでそこにとこ注意な。

勿論今から自首もできない。

その代わり、赤いバンダナの奴らが街を徘徊するんでそいつらに言えど指名手配はなくなる。

しかしその時になにか頼まれごととかされるかもしれないが、なんとかクリアしておけ。

以上

by?5

PS?7はミッション撤廃のためやる事が無くなったので抜けた。

これで謎の集団は残り5人になった。

そしてこいつも赤バンダナの1人だ。

正体が誰だったか知りたければ本人にでも聞いとけ。

ファルコ「…長いな。」

リンク「PSが結構長かった…。」

マルス「あ、バリケードってあれとかあれじゃない？」

ネス「え、ちょっと多くない!？」

フォックス「先に逃げ道を確認しておくか、別の場所に移動した方がいいな。」

マルス「ふーん。じゃ、移動しよっか。」

ソニック「4人で固まってるんだから注意しろよ?」

海エリアの4人。相変わらず固まっているらしい。

奏音「はい、赤バンダナ隊(?) 結成ー☆はい拍手ー。」

竜輝「で、何をするんだ?」

ズゴォッ! (奏音はすっ転んだ。奏音に50000のダメージ…。)

しょうたろう「あー、無駄なRPG要素はいらないですから説明を…。」

奏音「へ? 聞いてなかったのでしょうか?」

玲羅「あのだねー、私はもうなれたけど、あーたの説明は、無駄に長くてやたら早い。素人には聞き取れるわけないんだよ。」

というわけで赤バンダナ隊(一応) サイド。

前々に募集したアレ。覚えてますか? あ、ないですか。そうですか。まあ、そんなのがあって、募集に乗っかってくれた人が今ここにいますね、はい。

はい、紹介。(おおざっぱでかなり短縮させてもらいましたー)

日比野拓斗（オリキャラ）

無口で哲学的な高校生。頭脳派キャラ

しょうたろう（作者）

敬語を使う中3陸上部。

上2人しょうたろうさんのリク。

霧笛竜輝（オリキャラ）

足…というか身体能力がすごい。優しくて、結構モテるとか。

上ウイングさんのリク。

ワグナー（作者）

マイペースで行き当たりばったりなところがある。

上ワグナーさんのリク

赤バンダナ隊（ネーミングセンス悪くて本当申し訳ない）は上4人にプラスして玲羅の5人。

あ、玲羅は奏音のオリキャラね。

……2度目の説明終了。

ワグナー「あー、やっとわかったばい。つまりアレ、逃走者が来たらコレ渡せばいいと。」

拓斗「…しかも気分次第で逃げていいのか…。」

竜輝「よし、じゃあ女子以外からは逃げる方向で。」

玲羅「女子に優しく、男子に厳しく。いいねー。それでよろしく。」

しょうたろう「本当にそれでいくんですか…。」

奏音「いや、だって確保者増えないとそろそろやばいから…。」

あんたら逃走者の味方か敵かどっちだよ…。

奏音「はいはい、形式上は味方。気持ち的には敵。」

酷いなこの作者。というか適当な設定だな…。

で、まあそういうわけで出発！

5人はばらばらの方向に行った。（気ままに各エリアをぶらぶらする）

ゼルダ「と、とりあえず赤いバンダナの人を探さないとかかなり不利なことですね。」

都市エリアのゼルダ。ちなみに赤バンダナ隊の出発地点は都市エリア牢獄付近で、そこから全てのエリアに1人ずつ行くので、都市エリアは一番遭遇率が高いと思う。

プリン「早く探さないと…捕まっちゃうでプリ！」

住人「あ、怪しい奴がいるぞ！」

プリン「うう…騒がないで欲しいでプリ!!」

必死で逃げるプリン。偶然人が多いところにいたため、騒がれてしまった。

プリン「とりあえず人のいないところに…。」

急いで逃げるプリン。しかし、ハンターが騒ぎを聞きつけてやってきた。

住人が、プリンの行く先を大声で叫ぶ。

勿論ハンターはその方向へ…。

プリン「はぁ…ここまでこれば…大丈夫でプリ…。」

そう言ったプリンの後ろからはハンターが。

プリン「…！まさか騒ぎを聞いてやってきたでプリか！？」

急いで逃げるが、さっきまでも走っていたため逃げ切れるはずもな

く、

ポンッ

プリン確保。残り22人。

プリン「人が多すぎてプリー…。」

あんたのいる場所が少し悪かったただけだと思う。

ルカリオ「プリン確保か…。」

ヨッシー「やっぱり住人効果絶大といったところでしょうか…。」

ピカチュウ「…アイくん。あのさ、」

アイク「…何だ。」

ピカチュウ「住人に騒がれるって言うけどさ、森エリアって…住人
いない？」

アイク「…いや、ゲーム開始後に2、3人見かけた。」

ピカチュウ「いや、それ前半あわせてでしょ？少なすぎじゃん。」

まあ、森な訳だし。確かに森エリアはかなりの安全地帯だ。

ドンキー「そういや俺のゲーム最近出たらしいな。」

うん、作者はよく知らんよ。

ドンキー「なんか嵐がCMやってたな。」

ああ、そうっすね。あれ、でも何でそんないきなり…

ドンキー「…俺も嵐みたいなイケメンになって女の子からキヤーカー騒がれてみたい。」

住人「あ、手配書にある人(?)よ!」

住人B「本当だわ。サルがいるわ!怖い!!」

住宅街エリア：何故か女子が多かった。そこで女子がドンキーみたいなでかいサルを見たら勿論悲鳴を上げるわけで…

女子達が皆キヤーカー言ってるもんだからはつきり言ってますごい五月蠅い。

五月の蠅と書いて五月蠅い(わかつとるわ)

ドンキー「くそっ、ハンターが来る前に逃げないと…。」

いや、よかったじゃん。女の子にキヤーカー騒がれたよ?

ドンキー「いや、そっちじゃないからな!」

女子の五月蠅い悲鳴を聞いてハンターがやってきた。

…心なしかなンターの足取りが重いような気がするのは気のせいだろうか。

ドンキー「ああもう!ハンターがきやがった!」

いやー、この場合ハンターさんもつらいんだよ。五月蠅くて。そんな中来てもらってるんだからありがたいと思わないと。

ドンキー「誰が思うか!!」

ポンツ

ドンキー確保。残り21人

ハンターがいらついているように見えるのはまたも私の気のせいだろうか。

ドンキー「というか、いらつくくらいなら追ってくるなよ。」

いや、仕事だから。やっぱりプロはちゃんと仕事するんだよ。

拓斗「…五月蠅い。何だ今の悲鳴。」

シーク「ドンキーが捕まったらしいよ。」

独りごとに返事が返ってきた。

拓斗「…なるほど。……て、アレ？」

シーク「ああ、僕はシーク。」

拓斗「いや、それくらいは知ってる。」

住宅街エリアの人っ子1人いない裏道。ていうか、こいつはいつからいたのだろう。

シーク「今ね、君がこっちに行くの見たから誰かに見つからないようにこっそり来たんだけど…。」

…まあ、シークだからそれくらいあってもいいことない？

拓斗「…あー、まあ、じゃあコレ。」

シーク「うーん、これは免罪符みたいなものかな？どうすればいいの？」

拓斗「…肩のその辺にピンでつけておけばいいだろ。」

シーク「なるほど、ありがとう。」

じゃ、と言ってシークは来た方向に戻って行った。

？2「この短時間で2人はなかなかじゃねーのか？」

？1「うん。でも、まだ足りない。」

?5 「やってやれよ、賞金減額。」

?4 「無期限のサバイバルといったところか？」

?2 「おっ、いいなーそれ。じゃ、裏ミッション3行ってみつか！」

17話　まず、手始めに（後書き）

奏音DEトーク

奏音「はい、ども。奏音です。募集に乗っかってくれた皆さん、本当ありがとうございます！本当言うといつどうやって出すか決めてなかったんですけど、とりあえず裏ミッション2のNPC的な役として出させていただきました。」

このミッションはゲーム終了あたりまで続くだろうと思うので出番はきつと長いです。そうでなくとも別の出番を作るのでご安心をw
w」

サムス「長ああい！！あんたのトークは長くてわかりづらい！！」
カービィ「それに僕達のただでさえ少ない出番を1話分割るなんて……」

ロボット「ソレニ、長ク喋ルノナラモウ少シ笑イヲトルヨウニ心ガケマシヨウヨ！」

ナナ「そうそう！奏音トークの才能ないし、せめて笑いを取る努力だけでもしようよ！」

リュカ「あ…だめだよ皆。この小説の中では奏音はマスター以上の権力&力を持ってるんだから、ヘタすると出番が……。」

奏音「その通り！小説において作者というものは神なのだよ！だ・か・ら、次の牢獄DEトークも潰すことも、最終話までこのコーナーで段ボールを失ってぐったりしているスネークをただ描写することも可能！」

ポポ「なんという地味な……。」

ウルフ「そして相変わらず長いな。」

スネーク「段ボール…俺の段ボール……」

奏音「そして、さらには！この五月蠅いスネークをなすに変えてしまうことも可能！」

ルイージ「なんでなす？」

奏音「友達の好物だから。」

マリオ「いや、だからどうしたよ！！」

奏音「いや、昨日なんか知らんうちに喧嘩してるみたいな状況にな
ってしまっただけ、まあ、こっちは何も感じてないんだけどね、あ
ちが怒ってるからそんな扱いなのかなって思ってた心配で…。」

デデデ「意味がわからんゾイ。」

奏音「フツ、いつかわかる時が来るさ。…というか、いつかちゃん
と説明してやる。まあ、奏音はなすが大嫌い！なんだけどね。」

サムス「嫌いなね…。」

18話 チームサバイバル（前書き）

たくさんリクエストしていただいております！
予想以上に集まって正直とても嬉しいです。

募集はこれで締め切らせてもらいます。

18話 チームサバイバル

残り時間、135分。

いつのまにか5分も立っていた。

ロイ「だから前置き長いって言ってんだろ!!」

現在バリケードの位置を確認するため探索中の海エリアメンバーのネス。

前方に誰かを見つけた。

ネス「…誰？」

?2「うおわっ!ビックリしたじゃねーかあ。なんだよ、ネスか。誰って俺っ…あ、やべ。」

そこまで言うところ?2はどこかに走り去って行った。

まあ、こいつらはもともとメンバーの知り合いなんで今現在の自分の立場を忘れていたのだろう。

目に見えて動揺していた。

ネス「…なんだったんだろ、今の。まあいいや。早く戻ろっと。」

ピット「…やっぱり裏ミッションはきついな…。…アレ？」

都市エリアのピット。すぐ前にあるバリケードを見て何かを思ったようだ。

ピット「…：…違うよね。僕が目疲れてるのかなー。」

とりあえず気のせいということにしたらしい。

：しかし実際はピットの見たものは気のせいでも何でもないことはあとでわかることになるだろう。

所変わって海エリア。

ソニック「あっちからハンターきたぜ！」

マルス「めんどくさいなー。ソニックおとりになってきて。」

フォックス「ならお前がなれよ！そしていつそ捕まっちゃまえ！」

ネス「うるっさいなー。いつそ3人共捕まってよ。」

そんな会話をしながら4人は逃げ始めた。

海岸沿いの小道に入って、バリケードのない道を選んで逃げる。
だがハンターとの距離は縮まっていく。

マルス「∴この先の道は入り組んでいてどこにバリケードがあるかわからない。その代わり道が7つにわかれている。結果的にはどこも同じ場所につくんだ。」

フォックス「それって、逃げてる途中行き止まりになるかもしれないから全員ばらばらに逃げようってことか？」

マルス「それなら捕まるとしても1人で済むし、最高その1人が逃げ切れるってこともあるし。」

確かにハンターがソニックの方へ行って、そこにバリケードがなければ逃げ切れるかもしれない。

ソニック「確かにそれしかないな。」

ネス「運次第ってやつだね。じゃあ、僕はあっちに行く。皆、気を付けて。」

そして4人は別々の道に走って行った。

ハンターは、右から3番目の道に入った逃走者を追った。

ソニック「やば、ハンター来たぜ。」

その道にいたのはソニック。

しかも運の悪いことにその先にはバリケードが…。

ソニック「くそつ、ここで終わりかよ。」

ポンッ

ソニック確保、残り20人。

ソニック「…ん？おかしいな。」

ソニックが見たはずの、彼が捕まる原因にもなったバリケード。
ソニックがもう一度それがある方向を見た時、そこには何もなかった…。

ネス「…はあ、はあ…。よかった。ハンター来てない…。バリケードがあるから危なかった…。ってうわあ！」

後ろを確認していたネスはつまずいて、目の前のバリケードの方にいきおいよく突っ込んでしまった。

：のだが、ネスが起き上がったところはバリケードの向こう側。転んだ勢いでバリケードの向こうに行ってしまったようなのだが、バリケードはそう簡単に通れないようになっている。一体どうやってこっちに來たのだろうか。

ネス「：バリケードにぶつかった感覚もなかったのに…、どうやってこっちにこれたのかなあ？」

玲羅「ねー、ちょっと助けてー。」

ネス「：へ？」

玲羅「あいやー、その隙間に携帯が入っちゃって…とってくんない？」

玲羅の指さしたのは小さい隙間。確かにそこに携帯らしきものが落ちている。

ネス「うん。いいよー。その代わりもしハンターきたら教えてね。」

ぴるぴるぴー

ファルコ「…おい、今携帯から撲殺天使○クロちゃんみたいな音が
出てきたぞ。」

ヨッシー「まさか誰かがエスカリボルグで殺られたんですか？」

…いや、一部の人しかわからんだろ、そのネタ。

リンク「て、お前が原因だろ。」

心配するな。ただの入力ミスさ。

ピーチ「どんなミスしてるのよ。もういつそ神がかってるわよ。」

ゼルダ「…ソニックさん捕まったんですね。」

ファルコン「というか何故ソニックの時だけコール音変わったんだ？」

シーク「奏音の悪意の様なものを感じるような気がする。」

いやー、悪意なんてこれっぽっちもないってば。ただの思いつきだ
って。

ピルルルー

マルス「今度は普通の音だね。……つまらないなー。」

フォックス「え!？」

メタナイト「メールだな。…というかさっき裏ミッションのが来てからまだ5分しかたっていないのだが。」

トウーン「なんか嫌な予感がします…。」

ウォッチ「モシカシテマタみっしょんデショウカ…。」

はい、嫌な予感の中ー。

裏ミッション3

これよりチームサバイバルを開始する。
残り20人を4つのチームに分ける。

なお、チームのメンバーが確保されると、逃げ切ったときの賞金が減額される。

そして、ここからが裏ミッション3だ。

残り時間90分までに1人1つずつ持っているカードをエリア内のどこかにあるボックスに置かなくてはいけない。

カードを置く場所は、チームごとに異なる。

1人でもおくことができなかったらそのチームは全員賞金が減額される☆

b y ? 2

レッド「こんどは賞金減額かぁ。きついなぁ。」

ルカリオ「このカードの色が同じ者が同じチームということか。」

ガノン「ここに書かれていないということはチームのメンバーが誰かわからないということか…。」

オリマー「とりあえず、早く動き始めた方がよさそうですね。」

ネス「はい、とれたよー。」

玲羅「あー、ありがと。お礼あげる、はい。」

ネス「なに？コレ。」

玲羅「免罪符。これがあれば騒がれないのさー☆」

ネス「え？あれ？赤バンダナのって他作者さん達と？7じゃなかったっけ？」

玲羅「はい、？7こと玲羅だよー。」

ネス「子供リンクの次は玲羅かぁ。…てことはまさか！」

玲羅「あ、気付いた？ま、頑張ってー。」

玲羅はまたどこかに去って行った。

そして、ネスは何に気づいたのだろうか。

ゼルダ「あら？あなたは…」

しょうたろう「あ、こんにちはー。赤バンダナ隊のしょうたろうです。」

ゼルダ「あら、そうだったんですか。ご苦労様です。では、」

しょうたろう「いやいや、ちょっと待って下さいって！」

何故か天然っぽいゼルダ。ちゃんとメールは見たのだろうか。

しょうたろう「これあれば住民にさがれなくなりますから、はいどうぞ。」

ゼルダ「まあ、そうなんですか。ありがとうございます。」

本当にわかっているのだろうか…。

しょうたろう「本当は何か条件つきにしたりとか考えたんですけど…やめます。今ので疲れました。」

…お疲れ様です。

奏音「赤バンダナ隊2期生キター／＼（。▽。）／」

ダピカ「だれかこいつを精神科に連れて行ってくれないか？」

あゆみん「それじゃー、私が連れてくよー。」

レッド「なんだー、こんなところにオセロ色のピカチュウが…。」

スイツクン「黙れ敵キャラの分際で。」

レッド「なんか今すげえ悪口聞こえた気がする。」

スイツクン「それはお気の毒に。」

スイーク「1期生の中にいたら浮くけど2期生の中だから浮かなくてよかったねー。」

i k k i「いや、今のままでも十分浮いてると思うんですけどね。」

はい、キャラ紹介

i k k i（作者）

敬語を使う。ファルコン並みに足が速い。

i k k iさんのリク。

レッド（オリキャラ）

ファイヤプリム。能天気、短絡的で細かいことは気にしない。周りと考えがよくズレる

リアルルイージさんのリク。

ダークピカチュウ（作者）

黒いピカチュウ。性格が悪くかなりの毒舌で結構クール。

あゆみん（オリキャラ）

白いピカチュウ。ダピカの姉で弟思い、マイペースだけど怒ると怖い。

ダークピカチュウさんのリク。

スイツクン（作者）

結構天然な感じ。擬人化できるとか。

スイーク（オリキャラ）

スイツクンの相棒で、かなりの能天気

スイツクンさんのリク。

※下3人は女の子です☆

奏音「いやー、今度は1期生以上の人数が集まってくれてうれしいなー。」

スイーク「その1期生、2期生という呼び方やめてくれないかな。」

奏音「んで、今各エリアに1人ずついるから、今回もそうしよう思ってたけど6人いるからさ。1人残ってもらいたいんだよねー。奏音だってナレーションで忙しいから。代わりにいろいろやってもらおうと…」

レッド「ナレーション?？」

ダピカ「わがままだな…。」

奏音「と、いうわけでikkikiさんよろしくお願いします。」

i k k i 「はい！？何で僕が…」

奏音「やっぱり一番真人間に残って欲しいと思って。そう考えるとプリムとかピカチュウとか擬人化できる人より普通の人がいいな」と思いました。結構常識人に見えるんでよろしくお願いします。」

i k k i 「まあ、いいですけど、出番はちゃんとあるんでしょうね？」

奏音「もちろん。ヘタしたら他のゲストさん達より多いかもです！」

i k k i 「ならOK!!」

ピルルル

マスター「もしもし。マスターだよー☆」

？「あ、えっと、わかったことが…あるんですけど。」

マスター「…そろそろ誰か気づくんじゃないかと思ったよ。よく気

付いたね。さ、君が気づいたことを教えて？」

18話 チームサバイバル（後書き）

牢獄DEトーク

サムス「いやー、まさかソニックが捕まるとは思ってなかったわ。」
ウルフ「確かに。ここはフォックスあたりだろうと思ったんだがな。」

ソニック「でもやっぱりあのバリケードはきついで！」

ポポ「ちよつとドンキー、床を叩き出さないでよ！」

ナナ「あれは…女の子に悲鳴を上げられたことを思い出して悲しんでいるのね、エネ○リくん！」

リユカ「堂々とCMの真似をしないでください！そこまで似てるわけでもないのに、恥ずかしいです！！」

ルイージ「でも本当に静かにした方がいいかもよ。ほら、あそこ。ゲストの5人が行った後、奏音とikk iさんが何か話しこんでるから。」

サムス「そうね。ちなみにさっき奏音はエスカリボルグ構えかけてたわ。」

デデデ「あの時のコール音の原因は奏音かゾイ！？」

奏音「だあら、うるっさいぞこんにゃろー！！」

ポポ「エスカリボルグを投げてきた！！」

カービィ「僕、吸い込もうか？」

プリン「危ないからダメでプリ！」

マリオ「それに俺達には当たらないから大丈夫だ。」

スネーク「ぐはあ！」

段ボールを失って生きる気力を無くしたスネークに、もろ直撃しました（笑）

全員「……。」

19話 ? 2除外☆(前書き)

かなり久しぶりの更新になってしまいましたね。

実を言うと、奏音は1人でPCに向かってないと書けない人なんです。冬場は1人でPCに向かえる時間があまりできなくて…。

それと、この19話、半分以上は12/27の時点でできてたんですけど、そこから続きを書くのに時間がなかなかとれなかった感じです。

これからはいつもより短くてもある程度できてればだしたいとも思っています。

スマ@の更新をお待ちいただいた皆さん、ありがとうございました。
今回は約4000字程度となりました☆

19話 ? 2除外☆

アイク「……森エリアって、バリケードないよな。」

ピカチュウ「だよね。」

アイク「……………」

森エリアの最早おなじみの2人。住民にも滅多に会わないし、（2人はまだ会ってない）バリケードもまだ1個しか見ていない。しかもその1個は、木と木の間にはられていたのだが、その横を通ることができるという、なんとも意味のないものであった。

ピカチュウ「なんか、森エリアからでたくないね……」

アイク「だが、ミッションに行かないとな。…俺のカードの色は黄色だ。」

ピカチュウ「こっちは緑……。んで、ボックスはチームごとに違う場所にあるんだよね……。てことは。」

アイク「ここからは別行動だ。」

その言葉を聞いてピカチュウの方は少なくともへこんだようで、

ピカチュウ「はあ、やっぱり楽ばっかりもできないよね。じゃね、アイくん。頑張ってたねー。」

アイク「…ああ。お前もな。」

て、やっぱり自分が楽しんでるって自覚はあったんですね。

マスター「うん、なるほどー。よくわかったね。ネス君。」

ネス「子供リンクが？6って聞いた時も怪しいとは思ってたけど人数的に確信は持てなかったんだけどね。そこに玲羅が入ったらわかったよ。？2も、2人と同じ裏方の仕事とかしてた人だってね。まあ、それだけで？2が彼だとは分からないけど、さっき会っちゃったからねー、ロイに。」

マスター「うん。鋭いねー。確かにそういうメンバーだね。と、い

うわけで？2除外ねー☆」

ルカリオ「む、あれは…。」

ダピカ「んー？なんか用か？」

ルカリオ「（黒いピカチュウ…？）そのバンダナということは、赤バンダナの1人か？だとしたら免罪符を貰いたい。」

あれ？いつのまにか免罪符という呼び方定着してる？

ダピカ「ん、わかった。同じポケモンのよしみということだけでやるよ。ほら。」

金でもとるつもりだったんデスカ？

ルカリオ「恩にきる。ではっ。」

短く礼を言っと、ルカリオは去って行った。

ダピカ「…やっぱりクールなやつってカッコいいよな…。というわけ
で条件なしであげただけ。」

うん、小説進行上無条件が一番だと思います。

ダピカ「どうでもいいけど『小説進行上無条件』って漢字ばかりで
面白いな。」

ホントにどうでもいいっすね…（笑）

ダピカ「まあな（笑）」

ピカチュウ「あれ？マルス？」

ピカチュウが森エリアから出ると、ちょうど都市エリアを歩いていたマルスがいた。

マルス「ああ、ピカチュウじゃないか。どうしたんだい？」

ピカチュウ「ボックスの場所ってわかる？」

マルス「…それが分かればそもそも苦労はしないし、僕は別のチームのボックスの場所を探すほどの暇人でもお人よしでもないよ。」

ピカチュウ「…暇人でもお人よしでもないんなんなのさ。」

マルス「王子様。」

瞬間的にピカチュウの中に冷たい風が流れた気がした。

ピカチュウ「（やっぱりこいつウザい。）ああ、さいでつか。んじや。」

そのままピカチュウは都市エリアの中心部へと向かって行った。

マルス「…せっかく、忠告してあげようと思ったのに。……そっちには今さっき僕が振り切ったばかりのハンターがいるって。」

てかあんた何回ハンターに遭遇しては振り切ってんのさ!?

マルス「ああ、百万回くらい?」

いい加減こいつには黙っていただきたい。

マルス「あ、あっちから人が来たなー。僕まだ免罪符ないから逃げないと。」

何も考えずに歩いてるようで実は人がいないところばかりを選んで歩いてたようでした。

ピカチュウ「はぁ…マルスの相手するのってやっぱり疲れるわ…。」

ため息をつくピカチュウ。その近くにはハンター。

ピカチュウ「…っ！ハンターだっ！」

角から姿を現したハンターを見つけて逃げ出すピカチュウ。しかし、ハンターもピカチュウに気づいたようだ。

ピカチュウ「うわぁ！ハンター速いよ…。」

サイズが小さく、速く走れないこともあって、距離は瞬く間に縮められて行き、最早逃走不可能

……かと思われたが、

ピカチュウ「小さいからって甘く見るなよ！必殺、股抜け！！」

ピカチュウは、その小さい体を生かして、追いかけてくるハンターの足の間をくぐり、反対方向に逃げる。
ハンターは一瞬見失ったものの、すぐに目標を見つけて再度追う。

ピカチュウ「嘘っ、まだ追ってくる！」

またもや距離を縮められる。今度は必殺技すらも使えない。ハンターが、今度は低姿勢のため、くぐろうとすれば捕まってしまうからだ。そして、

ポンッ

ピカチュウ確保。残り19人。

緑チーム、1人脱落。

ピカチュウ「逃げれると思ったのに…。」

渾身の必殺技も、ハンターの脚力の前では通用しなかったようだ。

クレイジー「よ、ロイ。」

ロイ「んー？どうしたんだよクレイー。」

クレイジーの様子はいつもと変わらないが、後ろ手に何かを持っているようだ。

クレイジー「何も言わずに死んでくれ。」

ロイ「当たり前のようにお断りだ！！そしてエスカリボルグを持ち出すな！」

クレイジー「何を言っている？これはエスカリボルグではなくただの釘バットホームランだが。」

ロイ「いや無理だって！そもそも釘と書いてホームランって読むこと自体無理だから！釘バットをホームランバットだと言い張ろうとしたって無理があるんだよっ！釘ついてる時点でアウトだよ！！」

クレイジー「ぴるぴるぴー。」

ロイ「復活しろと!？」

えーいいじゃん。どうせ死なないんだからー。それに子供リンクと同じホームランバットだよー。

ロイ「いや、子供リンクの時は確かにホームランバットだったけど、釘バットと書いてホームランバットと読むようなホームランバットじゃなかった!!」

クレイジー「とりあえず、無条件で強制除外だ。」

カキーン!!

もともとホームランバットただけあって（子供リンクをやったホームランバットを釘バットに改良した）いい音を立てて、ロイはどこぞやへ飛んで行った。釘バットで強く打ったというのに血は出ていない。

クレイジー「乱闘をいくらやっても血は出ないだろ？それと同じ原理だ。安全装置を作動してある。それに血みどろにしてみましたらR15指定になってしまುದろ？そうすると読者が減るからな。」

ごもつともです。そもそも奏音は14歳です。プラスして、血みど

る描写したら確実に読者が半分程減るだろうと自負しております（笑）

ピルルルル

メタナイト「メールだ。『No. 2 強制除外…』」

フォックス「『No. 2の正体はロイ…』ってあいつミッションで会ったな。てか子供リンクもミッションで会ってたっけ。」

ヨッシー「というか、この流れからしたら謎の集団ってリストラメンバーなんじゃないでしょうかねー。」

確かにそう思うだろうと思って、メールの下の方に、〔通報の時はちゃんと誰が何の正体なのかピンポイントで当てないとダメだよ。あ、そのかわりヒントはちゃんとあげるよ。〕なんてことも書いてあるんですヨ。

ガノン「でもそいつらに一度でも会えばすぐわかるだろ。」

問題なのは『会えるか』ですよ。ガノンさんー。

ファルコン「とりあえず、早いところそのボックスを見つけとかなないとな！」

現在地が森エリアのファルコン。本当のことを言っておくと奏音は

ファルコンの事があまり好きではないため、今後どうなるうがあまり興味はない。

ファルコン「作者のくせにキャラの好き嫌いすんなよ…。」

スイツクン「あー、すいませーん。」

せいぜい女性の人気を保つために頑張れ。少なくとも私の中の人気は中の中あたりだけど（笑）

ファルコン「（最早地の文じゃねーだろ）ん？何か用かい？」

スイツクン「えとー、ワーグナーさんて、見ませんでしたか？ちょっと探してて。」

ファルコン「あー、見てねえな！。…て、あんたそのバンダナ！免罪符くれるのか？」

てかさつき地の文（奏音）と話してるあたりから近くにいたんだけどねー。

スイツクン「あ…欲しいんですか？」

ファルコン「いらないう奴なんているのか！？」

スイツクン「嘘です。ちよつとした冗談です。はい、どうぞ。」

ファルコン「あ、ありがとよ。（冗談だったのか!?!）」

ちなみに、ワーグナーさんとスイツクンさんは同じ森エリア担当なので、なんとなくスイツクンさんはワーグナーさんと合流しようかと思って探してた、らしい。

i k k i「あー、なんですかこれ。」

奏音「んー、『自転車奏音スペシャル』とでも言っておきましょうか☆」

2人の前にあるのは、半分くらい自転車っぽい車両。しかし、後輪の車輪の上あたりの位置には少々でかめのボックス的なものがあり、そこには4色のテープがはってある…。

i k k i 「まさかこのスペシャルに乗れとか言うんじゃない…」

奏音「非常に申し訳ないですが、言います。」

i k k i 「……。」

この見た目がなんか微妙かもしれないような気がする自転車はこれからどう活躍(?)するんでしょうか。

マルス「どうやら作者は僕の活躍を書くのが面倒くさいようだね。」

スイーク「そういう事いってると出番なくすかもよ。とりあえずこれは渡しとくけど。」

オリマー「えーとお…。」

あゆみん「んと、あ、はい。」

オリマー「あ、ありがとうございます。（この小さいのが赤バンダナだったんですか）」

海エリアのマルス、城エリアのオリマー、免罪符ゲット。
これで裏ミッション2をクリアしたのは7人。

19話 ? 2除外☆(後書き)

牢獄DEトーク

サマス「いらっしやーい。」

プリン「ポケモン2人目でプリねー。」

リユカ「子供組もだいぶ減ってきましたねー。」

※ピカチュウ、プリンⅡ子供組

ポポ「ネスとトゥーンに頑張ってもらいたいね!」

ナナ「ねー。」

ピカチュウ「そんでさ、ちょっと気になったんだけど、あの負のオーラは何?」

ウルフ「前回段ボールを燃やされたスネークのなれの果てだ。」

マリオ&ルイージ「上手に燃えましたー♪」

ソニック「おいおい、おっさん。だらしないぜー。いい加減元氣出せて。」

スネーク「ハッ、そうだ。せめてもえカスは…」

ロボット「かーびいサンガ食べマシタヨ。」

カービィ「あの段ボール(もえカス)なんか加齢臭がした。」

スネーク「あああああああっ!」

サマス「…しょうがないわね。亀、黄色い髭!新しい段ボール買ってきて!」

クッパ「ワリオだけでいいだろ。行ってこいよ。」

ワリオ「何で俺が…。」

何で奏音学生なのに平日のこんな時間に更新できるかって? そりゃ、ただいまインフルだからだよ(笑)

20話 裏m3と賞金減額(前書き)

はい、記念すべき20話目に入りました。

：一体何話で終わるんでしょうかねww
ゲーム時間長いからだいたい続くかな…？

次回からは短くしてやりたいと思います(苦笑)

＊感謝＊

皆さんのおかげでスマ@は総合評価ポイント86ポイント、お気に入り件数14件、そして、アクセス数は32000を超え、ユニークは7000越えました！

こんなにたくさんの方に読んでもらえて本当に嬉しいです。

ちなみに文字数は70000越え…。

すごいたくさん書いたと自分でも驚いています…。

これからも奏音とスマ@をよろしく願います。

20話 裏m3と賞金減額

ゲーム終了まで残り120分。(長いな…。)
賞金合計は、216万円(計算めんどいな…。)

ピーチ「あら、あの人赤バンダナの人かしら？」

ボックスを探すために城エリアを動き回る姫。

竜輝「おっ、誰か来た！」

あゆみん「ほんとだねー。」

…いつの間に合流していたのだろうか。

ピーチ「あー、免罪符いただけませんか？」

竜輝「いいけどその代わり…」

ピーチ「……早くくれないと、殺りますわよ……じゃなくて呪いますわよ（黒笑）」

あゆみん「どっちにしろ怖いんだけど……。」

竜輝「（迫力負け）……分かった。これやるよ。」

ピーチ「ありがとうございますわ♪」

免罪符をもらって、再びボックス探しに行ったようだ。

竜輝「……女って、こんな怖いものなのか？」

あゆみん「……知らないよ。」

所変わって住宅街エリア。ここにいるのは…

ファルコ「あー、ボックスってどこにあるんだ？」

その近くにはハンター…。

ファルコ「……って、嘘を言うな！ハンターなんてどこにもいねえって！」

…悪い、間違えた。鳥なんか捕まればいいと思うあまりつい書きミスをしてしまったのさ☆

ファルコ「☆じゃねーよ。そんなに俺を捕まえたいのか作者。」

勿論さー（黙

住民J「あ、あそこに変な奴がいるぞ！」

住民P「本当！さっき1人で叫んでたわ！変人（鳥！？）よ！..！」

ファルコ「ほら、お前のせいで騒がれただろ！..！」

可哀そうな鳥さんは、さらにそこにいない誰かに向かって1人ごとを言い続けるのでした（完）

ファルコ「（完）って何だてめえー！俺の人生終わりの的なあれか！
？死亡フラグか！？」

黙らっしゃい。地の文と喋る奴なんて傍^{はた}から見たらただの変人なんだよー！免罪符の有る無いなんて関係ない！！

ファルコ「免罪符確かにないけど普通にムカつくんだよてめーはッ
！」

なんだかんだで、その場から離れる焼き鳥…もといファルコ。ハンターには見つかっていないようだ。

ピット「あれ？あの人って…。」

i k k i「…はあ。この自転車すごい重いですよ。歩行者多いから乗ったら危険だし…というか、持ち歩くのもなんかちよつと…。何ですかこの改造。絶対いりませんよコレ。」

なんだかんだで改造自転車を持ち歩くはめになってしまったi k k iさんです。ちなみにこの自転車は改造してある部分がちよつとアレなんでかなり重いです。乗ってもうまく走れずに倒れそうな勢いで重いです。

ピット「あの、もしかしてi k k iさんですか？」

i k k i「あ、そうですけど…何でわかったんですか？」

ピット「僕、いつも小説読んでます！応援してます！これからがんばってくださいー！」

i k k i「あ、ありがとうございます。」

最早目が輝いてるピット。

ピット「あれ？それなんですか？」

i k k i「あ、自転車です。なんか奏音に持って行けと言われて…。」

ピット「ケッタマシンですか！？すごいです！しかもなんか改造してあってカッコいいです！！」

えーと、皆さん知ってますか？奏音の住んでいる愛知では、自転車をケッタマシーンと呼ぶことがあるらしいです。まあ、奏音は呼びませんが。

ピット「ちょっとよく見せてください！」

i k k i「あ、いいですよー。」

改造自転車を目を輝かせながら見るピット。今ハンターが来たら確実に気づかず捕まるであろう。

トゥーン「あれ？何やってるんですか？て、なんですかその自転車！！僕もよくみたいです！」

そこにトゥーンも合流。お前等は2人して自転車マニアなのか。

ピット「あれ？この改造部分、なんか色が書いてある…。まさか…。」

トウーン「?何してるんですか??」

ウィーン、カシユッ

トウーン「:何が起こってるんですか、i k k iさん。」

i k k i「いや、僕も実はこれが何かまでは知らないですよ。」

ピット「あ、」

ピットの思った通り、改造部分からピットが入れた何かに戻ってきた。

トウーン「え、:ちよつと僕もいいですか?」

トウーンもピットと同じことをやってみる。ただしピットが緑色の部分を使ったのに対し、トウーンは黄色の部分を使った。

ウィーン、カシユッ

トウーン「あ、出てきた。」

先ほどと同じような音がし、入れたものがかえってきた。そして、その裏には…

ピット「やったあ！ミSSIONクリアだっ！！」

そう、2人が入れたのは、ミSSIONでもらったカード。カードと同じ色の部分に入れたのだ。そして、出てきたカードの裏には、先ほどまではなかった“ミSSIONクリア”の文字が書かれていた。

i k k i「これって、ミSSIONのボックスだったんですね。それなら僕は少しずつ移動することにします。その方が面白いと思うので。」

ピット「i k k iさん、ありがとうございましたー。」

トゥーン「ありがとうございましたー。」

そういうわけで、ピット、トゥーン、ミSSIONクリア。
黄色は残り4人、緑は残り3人、後の2色は残り5人。

しょうたろう「あれ？黒いピカチュウ…てことは。」

ダピカ「よお、ダークピカチュウだ。疲れたんでのせてもらうぜ。」

都市エリアの赤バンダナの2人も（偶然に）合流したようだ。そこに…

ダピカ「あれ、ハンターじゃねーか？」

しょうたろう「あ、本当ですねー。」

周りに逃走者がいないか搜索するハンター。

しょうたろう「なんかハンター見つけると逃げたくなりますよね。今僕逃げようとしちゃいました。」

ダピカ「ほとんど本能的ってやつだな。」

2人が雑談している間にハンターは去って行った。そして入れ替わりに来たのが、

トゥーン「あ、赤バンダナの人！すごいです…。こんな短時間でゲストの人に、しかも3人に会うなんて…。」

かなり感動気味のトゥーン。実はi k k iさんと会った場所と大して離れていない場所だ。

ダピカ「お前、危ないな。さっきまでそこにハンター居たぜ。」

しょうたろう「とりあえず免罪符です。どうぞ。」

トゥーン「え、ハンターいたんですか。あ、ありがとうございます。」

普通に危なかったトゥーン。2人に教えてもらい、ハンターが行った方向と逆の方向に向かった。

ダピカ「免罪符…俺が渡したかったのにな。」

しょうたろう「あー、すいません。」

リンク「てかさ、俺の出番なんか少くないか？最初の方は目立ってたのに。…よく悪役とかでミッションに行く奴は偽善者だって行ってる奴いたしな。」

ガノン「そういえばリンクの奴、最初にミッション行ってたのに出番少ないな。やはりいくら偽善者になろうとしても影が薄いというわけだろうな。」

自分も影が薄かった事に気づいていないらしい…。

レッド「なんかさ、特別ミッション、だっけ？あれでマントなくなってから俺の出番減った気がするんだけど。」

同じ事を考えていた人が、ここにも…。

アイク「…ラジコンエンゼルもピカチュウもなくなった今、俺の出番は減る一方になりそうだと思うのだが…。ここは早いところミッシヨンに行った方がいいな。」

森エリアの為、免罪符がなくても大して困らないのであまり動いていなかったが、ボックス探しの為動きだしたようだ。
結論、最初の方のミッシヨンをやった人は、後になると…影が薄くなる。

ハンターが、逃走者を搜索している。ハンターは、逃走者を視界にとらえると、視界から見えなくなるまで追い続ける。
そして、ハンターの近くには逃走者がいた。

ルカリオ「やはり波動が使えないというのは不便なものだな。」

ゼルダ「まだゼル伝メンバーが皆残ってますわ♪私も頑張らないと…。」

ファルコン「俺だったらハンターが来ても逃げ切れると思うんだけどなー。」

多種多様な思いを持つ3人。ハンターが視界にとらえたのは、

ファルコン「な…ハンター！マジかよ！！！」

余裕発言をしていた、森エリアのファルコンだ。

ファルコン「くそっ、なんだアレ！？早すぎじゃねーか！？」

どうやら、余裕はないらしい。

ファルコン「ああああああっ！！くそっ。」

ポンス

ファルコン確保。残り18人。

ファルコン↓青チーム

：ちなみに、ピカチュウは緑チーム。

青チーム、逃走成功、自首成立時の賞金10万円減額。（緑チームも同様。

ピルルルル

メタナイト「ファルコン確保！？嘘だろ…。あんなに早いのに。」

シーク「そういえばソニックも捕まっていたしね…。それに僕も一

度捕まってるし。ハンターの速さをなめてたら危険だね。」

ハンター遭遇済みの人の意見はかなり参考になりますです（↑

レッド「て、青チーム10万円減額！？…まあ、逃げ切れるかわかんないからあんまり気にしないどくけど…。」

ヨッシー「こうやってどんどん賞金が減っていくんですね。確実に満額もらえる人が出る確率はゼロですね。」

フォックス「それでミッション失敗するとまた賞金が減るんだろ！？速くやらないと！！」

ネス「あ、下の方に途中経過が書いてある。」

＊途中経過＊

免罪符取得者

ゼルダ、シーク、ルカリオ、ピーチ、ネス、オリマー、マルス、ト
ウーン

免罪符未取得者

リンク、ヨッシー、ファルコ、ウォッチ、レッド、ガノン、フォッ
クス、アイク、メタナイト、ピット

チーム経過

赤チーム残り5人	
青チーム残り4人	10万円減額
黄チーム残り4人	
緑チーム残り3人	10万円減額

クリア者は、トウーンとピット。

マルス「あははは☆アイクまだ免罪符ないんだー。そろそろ捕まる
かもねー。ま、僕より早く捕まってくればそれでいいけど。」

おいおい…酷いな。

ゼルダ「リンクはまだ免罪符ないんですね…。がんばってほしいです。」

ほら、こちらの姫さんを見習おうよ、腹黒王子は！。

シーク「すごいな、トゥーンは…。両方クリアしてるんだ。ちょっと電話してみよ。」

ピルルルルー

トゥーン「あ、シークさん！僕ミツシヨンクリアしましたよー。」

シーク「それなんだけど…トゥーンは何色？同じ色だったら教えて欲しいんだけど。」

トゥーン「緑ですけど…あれって全色同じ場所にありますよ。」

シーク「え、でも違う場所だって…」

違う場所だよ。…だってさ、全く同じ位置に4つ置いてあるわけじゃないんだから。それぞれが少しでも離れてたら違う場所って言ってたっていいじゃんか。

トゥーン「とりあえず、ボックスがある場所は、…というか、移動してるのではっきりとした場所はわかりません。」

シーク「移動！？じゃあ手がかりはナシってことだね。」

トゥーン「あ、ひとつ手がかりはありますよー。i k k iさんを見つければ、ボックスも見つかります。」

プツッ

シーク「トゥーンのおかげでいろいろわかったな。とりあえず探し

に行こう。」

残り時間110分。

ミッション終了まであと20分。

ミッションを無事クリアできるチームは出るのか!?
その答えは奏音が一番わかりません。

20話 裏m3と賞金減額（後書き）

牢獄DEトーク

ポポ「さ、スマ@で毎回後書きに登場する牢獄DEトーク！いつものまにか毎回恒例になっちゃってたね。」

ナナ「前に、牢獄DEトークをいつも楽しみにしてますって感想をもらってから、いつも奏音が張り切ってるのよー。」

サムス「と、いうわけで（何故か）今日の牢獄は感想紹介しちゃうわよ。」

ピカチュウ「この前、感想の中に、？2の正体がわかって読み直したらほとんど全員正体わかりましたって書いてくれた人がいたんだけど…。」

リュカ「子リン、玲羅、ロイが出て後4人。皆さんは誰がだれかわかりましたか？」

ピカチュウ「ちなみに、この感想をくれた人は、後2人がどっちがどっちかだけわかんないんだって。」

カービィ「そのところは奏音も納得してたよー。2人共素でなかなか出ないし、ほとんど中にいるから。」

デデデ「そのヒントは、？1がどんなことをしてたか。そのイメージに当てはまる方がそうだゾイ。」

ウルフ「つまり、頭がよさそうな方ってことだ。」

ロボット「マア、ソレデモ結構ワカリズライト思イマスガネ。」

ソニック「分かった人はもし感想書くことがあったらついでに予想を書いてみてくれ。」

奏音「ドンピシャな人、いるかなー？」

21話 ヒント・メール(前書き)

わ、評価ポイントが10ポイント増えてる…！
100ポイントまであと少し！
連載終了までに行けたらいいな。

今回はいつもより短めです。はい、何故か。

21話 ヒント・メール

アイク「…やはり場所移動するのは危険だな。…やっぱりここにいるか。」

移動するのをやめたアイク。思ってたより慎重派なようだ。

マルス「…あれ？アイク。こんなどこにいたんだ。」

アイク「…マルス？」

海エリアにいたはずのマルスはなんやかんやで森エリアに来ていた。

マルス「…なんやかんやってなんか適当だね。」

ワグナー「だね。」

池&丸「!？」

ワグナー「？そんな驚かなくても…あ、僕ワグナーって言って、赤バンダナの1人としてゲスト出演してるんだけど…」

とおりすがりのワグナーさん。

どうやらまだスィックンさんとの合流はないようだが…。

アイク「…知ってるが。」

ワグナー「へー、そっか。そんじゃねー♪」

マルス「…いや、僕はあるからいいけどとりあえず待ちなよ（黒笑）」

ワグナー「免罪符ですね、すいません。スルーしようとして申し訳ありません。」

腹黒王子の黒い笑みを見た人は誰であろうと低姿勢になるようだ。

…ゲストなのに、なんかすいませんorz

アイク「…なんかお前ってすごいな。」

マルス「あはは、当たり前じゃないか。」

てなわけでアイク免罪符ゲット。

レッド「あれ？リンク。」

リンク「お、レッドじゃないか。一緒にボックス探そうぜ！」

レッド「いや、場所は色別らしいし…無理じゃない？」

ゼルダと同じくどこか抜けてるリンク。天然なのだろうか。

リンク「んじゃどうするかな…あ、ピット。」

ピット「あー、リンクにレッド！！2人ともミッションは？」

レッド「まだに決まってるだろ。はあ、せめて全色同じ場所にあればいいんだけどなあ。」

ですよー。でもまあ、ほとんどの逃走者は知らないけど本当は…ピット、ネタばらしどうぞ。

ピット「…同じところにあるよ。全部。ボックス探すなら、i k k i
さんを探すといいよー。僕も一緒に行くよー。」

リンク「ほらレッド。無理じゃなかっただろー？」

レッド「…結果的にだけど。」

シーク「これがボックスなんだよね？」

ファルコ「いや、俺に聞かれても困るんだけど。」

i k k i「たぶんいいと思いますよー。」

シーク、ファルコミッシェンクリア

ネス「あれ？何やってるの？」

シーク「ああ、ネス。ちょうどよかったね。ほらこれがボックス。」

ネス「え…本当に？」

ウィーン、カシュ

ネス「あ、ほんとだ。」

ネスミッシェンクリア。

メタナイト「…しかし免罪符もないしうかつに動くのは危な…くつ、ハンターか！」

行く先にハンターを見つけたメタナイト。すぐに逃げるが…見つかった。

メタナイト「くそっ、せつかく復活したというのに…。」

メタナイトの行く先にはもう1人逃走者がいた。

ヨッシー「ん？メタナイトさん？…て、何でハンター連れてくるんですか…！」

ヨッシーも巻き添えだ。

そして、メタナイトがヨッシーを抜いたため、ハンターの標的はヨッシーになった。

ヨッシー「ちょっと、メタナイトさん！置いてかないでください…！」

しかし、すでにメタナイトはハンターの視界から逃れている。そしてヨッシーの方は、ハンターとの距離が徐々に狭まって来ている。

ポンッ

ヨッシー確保。残り17人。

ヨッシー⇒赤チーム

赤チーム合計10万円減額。

ヨッシー「わああ！逃げ切れると思ったのに…。」

逃げ切りを夢見たヨッシー。思わぬ形で確保されてしまった。

ピルルルル

ウォッチ「ナ、ナンデコンナ時ニナルンデスカ！」

携帯のコール音を即座に止め逃げ出したのはウォッチ。
実は近くにハンターがいて、やり過ぎそうとしていた最中だったの

だ。

しかしコール音のせいでハンターがやってきてしまった。

ウォッチ「実ハ私、アマリ走ルノガ得意デハナインデスヨ!!」

その言葉の通り、あっという間にハンターとの距離が縮まり…

ポンッ

ウォッチ確保。残り16人。

ウォッチ⇒青チーム

青チーム合計20万円減額

ウォッチ「めーるハ…よっしーサン確保…。ナンデコンナ時ニ捕マルンデスカ…。」

かける言葉が見当たらない…。

ピルルルー

レッド「あ、また鳴った。」

ピーチ「だんだん逃走者も減ってきたわね…。」

フォックス「ヨッシーとかウオッチはあんまり足速そうじゃないかなー。よくここまで残れたなあ。」

i k k i「あ、こんにちはー。」

しょうたろう「こんにちはー。なんかそれすごい重そうですね…。」

都市エリアで自転車と奮闘するi k k iさんに、しょうたろうさん、

ダピカ「いや、男ならそれくらい軽々と持てよ。」

i k k i「…ダピカさんは持てるんですか？これを。」

ダピカ「……。」

きっとサイズの無理だろう。

というか、持つ以前に押しつぶされると思う。

ピット「i k k iさん！」

i k k i「あれ？どうしたんですか？あ、なるほど…。」

ピットはレッド、リンクを連れてi k k iさんの元に戻ってきた。
自転車が重いためあまり移動できなかったi k k iさんの現在地は
以前ピットが会った時とさほど変わっていない。

リンク「これがボックスかぁ…。なんかすごいな。」

レッド「しかもこんなのをゲストに持たせる奏音はどうかと思うんだけど…。」

……黙らっしやい。

ピット「わ、スゴ！しょうたろうさんにダピカさんもいる！！やっぱ僕ってラッキーなのかな！！あ、免罪符ください！」

レッド「まさか同時に2つのミッションをクリアできるなんて…。」

ダピカ「いや、偶然会ったときに逃走者がくるとか俺も思ってたぜ。」

しょうたろう「なんかタイミングよすぎですね。」

レッド、リンクミッションクリア。

ピット、リンク、レッド免罪符ゲット。

ピット「僕、他の人にも教えてくる！！じゃね、2人とも！！」

ミッションクリアのために他の逃走者に教えに行ったピット。…てか、

リンク「電話して教えればいいんじゃないのか？」

確かに。

レッド「……それよりメールだ。皆に一斉メールしよう。」

ピルルルル

ゼルダ「コレ…レッドさんからメールです。」

ガノン「ボックスの場所？」

ピット「あ、そっか！メールすればよかったんだ！！さすがレッド。」

＊レッドからのメールの内容＊

チーム戦とはいえ、全員クリアしたいと僕は思うから、僕がさつきピットに聞いた事を書く。

ボックスの場所はどのチームも全部同じで、全てi k k iさんが持っている改造自転車にある。

i k k iさんは常に移動するけど、今のところは都市エリアにいる。

ルカリオ「都市エリアという事は近いな。早くいかねば。」

フォックス「結構遠いけど移動されてわからなくなったら困るからな…。急がないと。」

ミッション終了まで残り15分。

チームサバイバルは一体どうなるのか!?

…まじでどうなるんだろ。

何故か奏音が一番気になる…。

＊また途中経過＊

…毎回やるんじゃないのか、コレ。

赤チーム残り1人 減額10万円

青チーム残り2人 減額20万円

黄チーム残り3人

緑チーム残り3人 減額10万円

クリア者

リンク、ファルコ、ネス、レッド、トウーン、シーク、ピット。

免罪符所持者

ゼルダ、シーク、ルカリオ、ピーチ、ネス、オリマー、マルス、アイク、トウーン、ピット、レッド、リンク。

21話 ヒント・メール（後書き）

牢獄DEトーク

マリオ「いらっさーい。お2人とも。」

ファルコン「2人一気に捕まったなー。」

ウォッチ「私ハ確保めーるのこーる音デはんたーニ気付カレテ捕マツタンデスヨ。」

ヨッシー「私はメタナイトさんに巻き添えをくらって捕まったんです！！」

クッパ「それは随分と不憫だな…。」

ナナ「じゃあさ、2人が不憫なら、あれは何なの？」

※注あれ〓スネーク

サマス「滑稽」

リュカ「なんかスネークさんがどれだけ酷い目にあっていても全く不憫に思えませんね。」

ピカチュウ「どうかーん。」

スネーク「酷いぞお前等！！」

ソニック「…少し黙ろうか、蛇のおっさん。」

ロボット「ビーーーーー（ビーム発射音）」

スネーク「な、お前、危ないじゃないか！当たったらどうするんだ！！」

ロボット「すねーくサンガアマリニ不憫スギテ涙ガツイ出テシマイマシタ。」

スネーク「お前の涙はビームなのか！？」

ポポ「Yes, I am.」

スネーク「お前じゃねーよ。」

デデデ「まあ、不憫に思ってくれてるんだからロボットに感謝してやれゾイ。」

スネーク「俺は不憫に思って欲しいわけじゃないからな!!」

22話 チーム戦の行方は…（前書き）

ついにアクセスが40000を超えました！！

記念といってはしよばいですが、今回は最後に挿絵が2枚あります。挿絵と言ってもオリキャラ玲羅はこんな感じだぜーと言った感じのなんですけどねw

2度目のインフルの病み上がりでいつもと書き方違ってたりするかもしれませんがつとりあえずレッツゴーです。

22話 チーム戦の行方は…

ミッション終了まで残り15分。

つまり今はゲーム終了まで残り105分といったところだ。

…あー、暇だ

ピーチ「黙らっしゃい！奏音！！」

レッドからのヒントメールを見て動かなかった者はまずいないだろう。いや、いなかった。

ミッション終了間近でのメールはミッションをクリアしてないものにとってまるで救世主だったであろう。

ゼルダ「あら…あんなところに自転車が…。」

ikki「ただいま移動に疲れて休憩中です。」

ゼルダ「…お疲れ様です。」

その自転車重いもんね。移動大変ですよね…。お疲れ様です。

ゼルダミッションクリア。

ネス「僕はもうミッションクリアしたし、慎重に行動しないと…。」

ミッションを終えて安全そうな場所を探すネス。

ネス「…！ハンター…。」

近くにハンターを見つけ、周りの茂みに隠れる。

ネス「絶対まだ捕まりたくない……。…」

ハンターは、ネスの方に近づいてくる。そして…視界に逃走者をとらえ、走り出した。

ファルコ「げ、やばっ！」

ハンターに見つかったのはどうやら焼き鳥さんのようだ（黙

ファルコ「くそっ、速すぎだろ!？」

ポンッ

ファルコ確保、残り15人。

ファルコⅡ赤チーム

赤チーム合計20万円減額。

ネス「はぁー、危なかった。今絶対見つかったかと思った…。」

シーク「奇遇だね。僕もそう思ったよ。」

ネス「Σ（。ロ。）!？」

安堵の息をつくネスの真横にはシークが…。

シーク「ちなみに、僕のが先にいたから。ハンターに追われて逃げ込んだんだ。」

ネス「居ることに全然気付かなかった…。」

シークも茂みに居る経緯はネスとほぼ同じらしい…。

ピルルルル

リンク「ファルコも捕まって残り15人かあ。だいぶ減ってきたな
」。」

フォックス「まーた、あの焼き鳥捕まったかー。あとでアイクに死
刑（焼き鳥）にしてもらうかー。」

ピーチ「あら？ あれは、 i k k i さん…の改造自転車。」

※ i k k i さん、もうばててます。自転車すげー重いもん。うん、まじで。

ピーチ「…とりあえずミッションクリアねー♪」

ピーチミッションクリア

ルカリオ「なかなか見つからんな…。」

ミッションをまだクリアしていないルカリオ。急ぐあまり周りへの注意が行きとどいていない。
その近くにはハンターの姿が…。

ルカリオ「しまった…！」

ハンターが走り出し、少し遅れてルカリオも走り出した。
だがしかし、ハンターの驚異的スピードを考えれば、このわずかなタイムラグというのは致命的であって…

ポンッ

ルカリオ確保、残り14人

ルカリオ⇨緑チーム

緑チーム合計20万円減額。

ピルルルル

オリマー「ルカリオさんも捕まってしまいましたか…。」

ガノン「残り14人か。俺が残っているのはほぼ奇跡だな。」

同感です。我ながらよく残しておけたなとつくづく感心しております。

ガノン「……イヤミか？」

マルス「やばいな。ミッション終了まであと5分しかない。」

アイク「…そうだな。」

マルス「そうだな、ってアイク。君もまだクリアしてないんだよ。」

アイク「…いや、またハンターきてるからな。もういけないんじゃないか？」

そう、何故か彼ら2人が隠れている場所から少し離れた場所には、やたら頻繁にハンターが現れるのだ。…何故か。

マルス「でも一か八か…。」

アイク「…捕まったら元も子もないぞ。」

マルス「……。」

珍しい。口だけは達者な（特にイヤミ、悪口等）マルスが言い負けるなんて…。

フォックス「あ、あれは…改造自転車となんかもう面倒くさそうなカンジになってるi k k iさん…?」

i k k i「…あと1〜2分で終わるし、もう移動しなくていいです

よね…。」

フォックス「…（なんか、大変さがよくわかった。）と、とりあえずミッションを…」

フォックスミッションクリア

ガノン「お、あれは赤バンダナか。おい、免罪符をくれ。」

拓斗「……はい。（関わると災いとか起きそう…）」

ガノン「…なんか無口だな。まあいいが…。」

3

4

5

ガノン、免罪符ゲット。

2

1

ミッション終了☆
(↑

ピルルルル

トウーン「メール…。ミッション結果ですか？」

『ミッション結果。』

チーム全員がボックスのもとに辿りついた、…つまりクリアしたチームは

赤チームのみ。

残りのチームは逃走成功、自首時の賞金が？？？円減額された。

＊？の額は秘密☆

で、その他の減額状況

赤チーム 2人確保↓20万円減額

青チーム 2人確保↓20万円減額

黄チーム 確保者なし

緑チーム 2人確保↓20万円減額

免罪符のミッションはもう少し続く。
↓残り5人』

残り時間90分。

賞金合計252万円。

逃走者は、残り14人

おまけの挿絵コーナーっ！

はい、ほぼ後書きに似てます。

龍斗さんに頼まれてた絵が完成したのでこのあたりにはっちゃんいます。

復活ミッションの時の姫役玲羅書いたんですが、おまけのおまけで
もう1枚書いちゃいました。

両方見て行っちゃってください。

※注意

- ・一応オリキャラだから、ね？
- ・持ち帰りとかもしたかったら報告してくださいな。
- ・絵がヘタとか言われても知らん、つまり、苦情は受け付けない。
- ・サイズがでかい。とにかくでかい。

スペシャルサンクス

蒼炎寺慙愧そうえんじざんき↑このサイトでは）ことばるるに、姫ドレスのデザイン
をしてもらいました☆

では、40000アクセス記念もかねてどうぞー♪

>i17932—1631<

＊姫役玲羅さん（、ロ、●）、＊

>i17931—1631<

＊普段着玲羅さん（・ω・）＊

以上です。

なんかでかくてすいません。

デジカメから取り込んだアナログ絵なんでサイズ調節わかりません
でした（、ロ、；）

22話 チーム戦の行方は…（後書き）

牢獄DEトーク

サマス「ついに復活メンバー最初の1人がやってきたわね。」

ポポ「焼き鳥だー！」

ナナ「いただきますー…」

フアルコ「本当に食おうとすんな。」

ヨッシー「それにしても牢獄メンバーも随分と増えて来ましたよね。」

ピカ「…あのタマゴの山はなんなわけ？」

ヨッシー「いやだなあ、ピカチュウさん。私の子供達に決まってるじゃないですか。」

リュカ「…牢獄内で産んだりしないでください。…余計せまくなるじゃないですか。」

ヨッシー「や、そう言われましても…って、あれ？タマゴが1つ足りない。」

カービィ「…（ムグムグ）」

マリオ「食べてるな。」

デデデ「形がちやうどタマゴ型になってるゾイ。」

カービィ「あああああ！！私の可愛いタマゴがああああ！！」（泣）」

23話 裏切れ!! (前書き)

お久しぶりです。奏音です。

評価ポイントついに110ptも達成…!!

お気に入りも多いし：ホントにありがとうございます！

あ、あと…「奏音スマッシュ☆」という日記的なものをはじめましたー。

コメができないとかの不都合あるので近々フォレストに移動も考えてるのですが…

スマ@の裏話っぽいただの雑談が奏音&オリキャラ軍団で語られるんで、「暇すぎて死にそう!」と言う方、一度見に行ってみてくださいな。

23話 裏切れ!!

残り時間（確か）90分。
逃走者は（確か）14人。

メタナイト「残り14人か。これはまた随分と減ったもんだな。」

フォックス「て、安心してばかりもいられないな。裏ミッションで、確かあと2個あるんだっけ。」

げ、よく覚えてたな。その通りだとも。？1と？4のミッションが残ってた。

ネス「早いトコ正体わかればいいんだけど、なんか最近この小説に出てないもんね、あいつら。」

よくわかりで。確かに…出すのをほぼ忘れてた。

? 1 「…やつとでてこれたな。」

? 3 「作者に忘れられるなんて困ったでしゅねー。」

? 5 「人数も4人になっちゃまったしなー。」

? 4 「…というか、読者はもう我らの正体がわかってるぞ。」

そうすねー。なんか毎回ちゃんと読んでくれてて、奏音がほぼ忘れていたことをも覚えてる素晴らしい人が何人もいるらしくて。自分の推理と理由まで書いてくれてしまって、何故か感激してしまった奏音であつた…。

?5 「…無理やりナレーっばくしてごまかしやがつた。」

?1 「それより、感想で予想してくれた人、たぶん全員あつてるぞ。」

?3 「…やばいでしゅよー。なんか時間たつごとに口調もどんどん丸出しになってきてるきがしましゅ。」

?4 「とりあえず、早いうちに裏ミッションをやっておいた方がいいのではないか？」

?5 「ん、じゃあこっちのやつな。今更ながら裏切り者ネタ。」

ピルルルルー

ピット「あ、メール…じゃなくて電話…？なんだろう。」

ピッ

ピット「はい、もしもし。」

？「あ、もしもし。蕎麦屋さんですか？ざるそば2つ。都市エリア牢獄付近までお願いしますー☆」

ピット「あの…僕蕎麦屋じゃないんですケド…。」

？「あ、蕎麦屋じゃなくてうどんやさんでした？じゃあ…」

ピット「うどん屋でも無いですっ！！」

ピッ！！

どうやら、間違い電話だったようだ。

ピット「はあ…。スタッフさん…この電話って、逃走者以外からもかかってくるようになってんの…？」

この小説にスタッフさんはいないので、完全に独り言である。

ピット「え！？逃走中って普通スタッフさん居るじゃん！！」

ここではカメラとか必要ないので無駄な人材は省いてあるのであった…。

ピット「無駄って…。」

そしてこれも完全に独り言である。

ピット「て、作者喋ってるから独り言じゃないじゃん！会話じゃない！」

ピットは、ただの地の文を作者と呼び、また何か独り言を言いだした。ちなみにこれは地の文であり、断じて作者ではない。

ピット「絶対作者だろ！？喋り方がわざとらしい！！」

本当は、勿論作者だった（小声）

？「あれー？番号間違えちゃったかなあ。」

リュカ「…あの、誰ですか？」

マリオ「てか、牢獄前でそば頼むって性格悪いなあ！食ってるところを見せつけるつもりだろー！！」

全員「……。」「

？「違うよー。ピクミン達とポケモン達がおなか減ったって言うからー。」

ピクミン「……（コクッ）」

奏音「ハロハロ、作者だよん☆」

ファルコン「おっ、作者。ちょうどいいところに！このお嬢さんは一体誰なんだよ。」

サムス「……（お譲さんて…）」

ファルコンはもしかしたらロリコンなのだろうか。…まあ、あれだけで決めつけるのは可哀そうだが…。

奏音「あー、こっちはね、奏音のオリキャラ。オリ小説『夜桜が咲くところに』の主人公（仮）の秋葉。」

秋葉「仮って何！？仮って！？主人公ってちゃんといいなよ！！」

ロボット「つつこみノ切レガ素晴ラシイ…。」

秋葉「…あ、えと、ハジメマシテ…。夜神秋葉ですー。奏音が、牢獄の出番増やしたいって言うから来ましたー。」

奏音「ホントはゲスト出してもよかったんだけど、期限切れだから、1人だけってのも不公平だと思ってー。」

秋葉「そーゆーことデス。」

ピルルルルー

今度こそ、メールだ。

ガノン「裏ミッションか…。」

マルス「終わったと思ったらまた次のミッションかー。」

『裏ミッション4・前。
今から2分間、裏切り者を募集する。』

裏切り者は、逃走者の位置をハンターに教えることで賞金を獲得することができる。

もちろん裏切り者もハンターに追われる点は他の逃走者と変わらない。

…と、ふつうならここまでといたいところだが、特別ルールだ。裏切り者になった者には2つのカプセル（薬）が渡される。

片方は飲むと一定時間スピードアップ、もう片方はスピードダウンだ。

無論どっちがどっちかはわからず、飲むカプセルは1つだけだ。アイテムを持つものが誰もいない今、このカプセルは君たちの役に立つはずだ。

では、裏切り者になる者が現れるのを待っている。

？1』

ゼルダ「裏切り者…。ついにこのミッションがきましたか…。」

トウーン「誰にも裏切り者になって欲しくありません…。」

フォックス「ガノンがなりそうだな…悪役だし。」

シーク「…というか、僕はこの『前』というのが気になるなあ。」

マルス「へー裏切り者かあ。カプセルは捕まりそうな時に使えば、どっちになっても使わないよりはましっばいし…。」

アイク「…おい、マルス。お前が考えてることはだいたいわかるからな。」

ちなみに2人は森エリア付近の、マルスは建物の影、アイクは茂みの影にいる。ハンターを見張っているようだ。そして、2人の距離は、お互いの声がぎりぎり届くくらいの距離…。どちらかが裏切っても相手はそれに気づくこともないだろう。

マルス「…でも、アイクだって僕は信用してないからねー☆」

裏切り者募集終了まで残り30秒。

?3 「あの…裏切り者出なかったらどうするんでしゅか？

?1 「いや、大丈夫だろう。展開的に作者が無理やりにでもだすだろう。」

?5 「……大人の事情だなーw」

マスター「だねー☆」

?4 「…（いつからいた…?）」

ピルルルルー

マスター「あ、電話。」

ちなみに、先ほどの通達（ミッション）で、裏切り者希望者が電話するとマスターの携帯につながる。

…つまりこれは、裏切り者が現れたという…

ピッ

マスター「もしもし…。…うちは蕎麦屋じゃありませんっ!!」

…どうやらまた間違い電話のようだ。

?1「……。…」

残り15秒

ピルルルル

今度こそ裏切り者か…？

マスター「はい、もしもし。マスターだよ☆」

？「マスター…？」

マスター「あ、裏切り者希望の電話は僕につながるようになってから気にしないでー。」

？「…〇〇です。裏切ります。」

マスター「はい、おけー。今から君は裏切り者だよー☆薬も送ってくからねー。」

メタナイト「…む？」

スイツクン「あっちでもないし、こっちでもない…。合流云々の前に、自分が今いる場所の把握を…。」

メタナイト「どうした？」

スイツクン「（ラッキー☆）ここはどこ？。」

メタナイト「…森エリアだが。」

メタさん、説明がアバウト!!

スイツクン「…じゃなくて、この地図で…。」

メタナイト「ああ、それならここがそこで…そこが…」

スイツクン「あ、ありがとうございます☆お礼…に、まだないようなのでどうぞー。」

メタナイト「ん？ああ。なるほど。赤バンダナの人だったか。恩にきる。ではっ！」

バンダナかぶってんだから気づけよ!!

スイツクン「…バンダナつけてんのにわかんないって…バンダナの意味ないような…。」

レッド「…誰か裏切り者になったのかなあ…。やだなあ。人に会うのが怖くなってきた…。」

裏切り者を恐れてエリアを移動しているレッド。
だが……

？「レッド、城エリアと都市エリアの右側の境界付近にいます。」

そのレッドを、裏切り者が見ていた。

裏切り者は、通報するとすぐにその場から離れて行き…

レッド「…しかもなんか前半に比べて出番が……やばっ、ハンター
！」

ハンターを見つけて即座に逃げる。

しかし、ハンターはレッドに狙いを付けているため、距離は縮まる
一方で…

ポンッ

レッド確保、残り13人。

レッド「はあ…速いなあ…。」

ピルルルルー

シーク「レッド確保……。しかも裏切り者の通達かあ。」

ピット「残り13人かあ……。」

アイク「……（レッドが捕まったのは都市エリア……。まさかマルスじゃないだろうな……。）」

ちなみに補足。アイクがいる茂みは、森エリア。マルスがいる建物の影は都市エリアだ。アイクからマルスは見えるが、アイクの目を盗んで通報することも不可能ではない……。

マルス 「裏切り者、やっぱガノンかなー…。」

リンク 「やばいなー。誰かに見られてないか気をつけないと…。」

残り時間80分。

逃走者は残り13人。

裏切り者は誰だー！！

23話 裏切れ!! (後書き)

牢獄DEトーク

※本文内での説明の通り、今回からオリキャラ秋葉参上!!
プロフィールは、明るい、元気、天然…とか?

サムス「いらっしゃーい。裏切り者の通報って…ついてないわねー。」

レッド「え、裏切り者…!?!」

ソニック「メール見てないのか?」

レッド「やー、自分の確保メールって見る気が起きなくて…。」

ポポ「裏切り者犠牲者1人目だねー。」

ナナ「誰が裏切り者かなー?」

全員「ガノンだろ(悪役だし)」

レッド「え、こーゆーのって意外性について『こいつはないだろ』ってやつじゃないの!?!」

ヨッシー「確かに、そういう考え方もありますねー」

レッド「…なんか全然感心してる目をしてない気がするのは俺だけ!?!」

秋葉「そうだよ、気のせいだよ。」

24話 謎解きを、始めようか（前書き）

今回は久々に長く書くことができましたー。
久しぶりの4000字代です。

2000字代の多い中でよくがんばった、自分！

あと、サブタイトルが「謎解きを、始めようか」ですけど、まだ謎解きしません。

始める前の状況整理、準備的な感じですよ。

ここで言うのもアレですが、謎解きは次回です（笑）

今回は謎解きの謎が何なのかみたいない感じです。

まあ、きつと読者の皆さんにはすぐわかってしまうと思いますが…。
…。

24話 謎解きを、始めようか

「裏切り者が誰か…以前に残ってる人がわかんねーよ」な人のための途中経過」。

現在残り時間80分

逃走者は残り13人

⇒ゼルダ、リンク、ネス、ガノン、フォックス、トウーン、オリマ
ー、アイク、メタナイト、シーク、ピット、ピーチ、マルス

赤チーム残り3人

青チーム残り2人

黄チーム残り5人

緑チーム残り3人

免罪符残り2人⇒ガノン、フォックス

ハンター⇒4体

裏切り者⇒?

?○○:残り4人⇒?1、?3、?4、?5

残り裏m⇒あと1つあるかないか…。

※…もし、間違いあったら教えてくださいー。

ピルルルルー

メールだ。…ホントにメール。

もう蕎麦ネタはない。…真面目にそれだけは断じてn（早くやれ!!）

448

フォックス「これは…またミッション!?」

そうです。ミッションです。

ピーチ「しかも、裏切り者ミッションですって！？あの作者、後半にややこしいもの詰め過ぎよ！！」

…そこは真面目申し訳ない。次作からは善処する。

ネス「ていうか、次作の予定あるんだ…。」

裏ミッション4. 後

今回のミッションは裏切り者限定だ。

裏切り者は、裏ミッション3でのチームのどれかを全滅させられれば賞金をふやすことができる。

全滅というのは、通報後の確保でも、それ以外でも構わない。

兎に角1チーム全滅すればクリアだ。

いまから裏ミッション3のチーム表を全員に送る。

勿論、同じチームの者が確保された時の減額はもうない。

制限時間は、残り時間50分までだ。

ピット「1チーム全滅ってことは、少なくとも2人は捕まるのか…。」

青チームが狙われやすそう…。」

リンク「黄チームは残り5人だから狙われなさそうだし、羨ましいな…。：あ、これチーム表か。」

チーム表○は確保者

赤 ゼルダ、リンク、ネス （ヨッシー、ファルコ）

青 ガノン、フォックス （ウオッチ、ファルコン、レッド）

黄 トウーン、オリマー、アイク、メタナイト、シーク

緑 ピット、ピーチ、マルス （ルカリオ、ピカチュウ）

アイク「おい、マルス。移動するぞ。」

マルス「え！？どうしてだい？」

アイク「：裏切り者のミッションが始まったからな。見つからないようにしないとな。」

マルス「んー、そうだね。んじゃ、あっち行こー。」

？「……。」

裏切り者は、悩んでいた。

1チーム全滅、これは少し間違えば、他の者たちに裏切り者が自分だということがばれる危険がある。

それを防ぐためには、他の者が今裏切り者だと思っていそうな、裏切りをしそうな性格の者をわざと生かしておかねば、そう考えた裏切ったは、ある1チームに狙いを定めた。

？「それに…ちょうど1人近くにいる…。」

裏切り者は、近くに逃走者を見つけたようだ。だがまだ通報はしない。

少し、様子を見て自分が確実にハンターから離れられるように周りを確認してからするつもりだ。

念には念を入れすぎるくらいでちょうどいい。

ゼルダ「赤チームは3人ですし、心配です…。裏切り者は自分のチームをやらないでしょうし…。」

自分のチームを全滅させるとしたら、自分も捕まらなくてはいい。だから、他のチームを狙うのだが、黄色は5人いるのでまず安心と考えられる。そして、青にはガノンがいる。

彼が裏切り者だとしたら、赤か緑を狙うだろう。緑にも怪しい者は

いるが、自分には、同じ赤チームのリンク、ネスが裏切り者とは思えない。裏切り者が緑、黄にいたとしても、ガノンをわざと生かしておく可能性もないこともない。

この一番危険だろうキームは赤なのだ。と、周りを気にしながらそんなことを思っていたゼルダは……

マルス「やあ、奇遇だね。」

ゼルダ「ひゃわっ!!」

すぐ横からかけられた声にものすごく驚いた。

ゼルダ「ま…マルスさん!？」

驚いた後横を確認すると、

マルス「や、ビックリしたかい？」

アイク「何をしてるんだお前は…。」

そこに、マルスとアイクを発見した。

ゼルダ「あの…2人とも、どうしたんですか？」

マルス「ああ、僕達移動中。」

アイク「…裏切り者に見つかからないようにな。ちなみに俺達2人は裏切り者じゃないから安心しろ。」

マルス「たぶん、ね。…じゃあ、僕たちはあっちの方行くから。気をつけてねー。」

早くもどこぞやへ行ってしまう2人。結局何だったのだろうか。

ゼルダ「あ、はい。ありがとうございます。」

フォックス「やばいな……。裏切り者って誰だろう。」

裏切り者が心配でなかなか移動できないフォックス。
その近くにハンター。

フォックス「やべ、…気付かれないように移動するか。」

裏切り者はついに通報した。

フォックス「ん？なんだ？いきなりハンターがあつちに走り出した…。」

裏切り者の通報によって、逃走者の確保に向かったハンター。おかげでフォックスはハンターから距離をとることができたが…

フォックス「通報だとしたら…また1人捕まるなあ…。」

通報をうけて走るハンター。
その視界に入ったのは…

ゼルダ「え、嘘!？」

あれから少し移動しようかと考え始めたゼルダだ。

ゼルダ「兎に角逃げないと…通りをたくさん曲がれば振り切れるかもしれないね…!」

確かに、そうすれば逃げられるかもしれないが…そう簡単には行かない。

今となつては、大通りを走るより、細かい路地を走る方が危険になっているのだ。

そう、皆さんは覚えているだろうか…?

ゼルダ「嘘、バリケードで行き止まり!？」

免罪符のあたりから突如出現した、バリケードの存在を。

ゼルダ「完全に忘れてました…。」

バリケードの前でへたり込むゼルダ。

ポンッ

ゼルダ確保、残り12人

ゼルダ「最近見ていなかったので存在を忘れてまし…あら?これは一体…。」

自分を確保へと導いたバリケード。それを見ようと振り向いたが、おかしいことに気付いた。

それは、ゼルダのほかに、3人もの人を感じた違和感。皆さんは、覚えているでしょうか…?

＊過去戻りタイム♪＊

『ピット「…やっぱり裏ミッションはきついな…。…アレ？」

都市エリアのピット。すぐ前にあるバリケードを見て何かを思ったようだ。

ピット「……違うよね。僕が目疲れてるのかなー。」』

その時、ピットは何気なくバリケードを見ていた。そしてその時、まるで、テレビの映像が乱れるときのように、一瞬バリケードが霞んだのだ。

その時のバリケードは、後ろの道が透けて見えて、まるで立体映像か何かのようにピットには思えた。

『ソニック「くそっ、ここで終わるかよ。」

ポンッ

ソニック確保、残り20人。

ソニック「…ん？おかしいな。」

ソニックが見たはずの、彼が捕まる原因にもなったバリケード。ソニックがもう一度それがある方向を見た時、そこには何もなかった…。』

ソニックの場合は、ゼルダとほぼ変わらない。

バリケードのせいで確保された彼は、そのあとバリケードのあった方を見ても、そこにバリケードなんてものはなかった。

さらにもう1つ。

『ネス「…はあ、はあ…。よかった。ハンター来てない…。バリケードがあるから危なかった…。ってうわあ！」』

後ろを確認していたネスはつまずいて、目の前のバリケードの方にいきおいよく突っ込んでしまった。

…のだが、ネスが起き上がったところはバリケードの向こう側。

転んだ勢いでバリケードの向こうに行ってしまったようなのだが、バリケードはそう簡単に通れないようになっている。一体どうやってこっちに来たのだろうか。

ネス「…バリケードにぶつかった感覚もなかったのに…。どうやってここにこれたのかなあ？」』

転んでバリケードの方に突っ込んでしまったネス。

普通なら、いくら小柄なネスでも、バリケードにぶつかるはず。

逃走者が通り抜けられないようにするのだから当たり前だ。

スライディングでネスが通れるようなら不公平だ。

しかし、何の音もせず、ネスに何の衝撃もなく、バリケードはその場を少しも動いていなかった。

サブタイトルが謎解きサバイバルだけに、??の人の正体を当てるーてかやってましたが、このバリケードの謎は、6話も前から温めてあったのですよ。

これは我ながらうまいこと出来たと思ってますとも、はい。（奏音）

＊過去戻り終了☆＊

ピルルルル

リンク「な…ゼルダが確保！？しかも裏切り者の通報だって！？」

シーク「全く、こんな長い時間を一緒に逃げてきた仲間を通報するなんて、気がしれないな。」

トウーン「裏切り者絶対ガノンです！こんなことするのはあいつしかいないですよ！！」

オリマー「裏切り者…一体誰なんでしょうか。このままじゃあどんどん数が減って行きます…。」

メタナイト「兎に角、黄は安全そうだな…。助かった。」

マルス「レッド、ゼルダが裏切り者によって捕まった…。裏切り者は誰だと思うかい？アイク青年。」

アイク「…（無駄にテンション高いな）…お前、じゃないか？」

マルス「…そんなわけないだろ！！僕はずっと君といたじゃないか（泣）」

アイク「…いや、お前なら疑われないよう俺といて、俺の目を盗み

通報ってのもあるかと思ったのだが。」

マルス「失礼な！いくら僕でもそんなことは…たぶんしないって！」

アイク「…それに、ゼルダが捕まったのは、俺達があつたすぐ後だろ？」

マルス「…もういいよ（泣）悲しくなってくる……………」

ネス「そっか、やっぱりそうだったんだ…。考えれば簡単だったんだあ。」

6話前からずっとバリケードについて考えてたらしいネス。
やっとな耐えを見つけたらしい。

ネス「でも、わかつちゃえば大して障害にならないよね、こいつで。」

ピルルルル

ピッ

ガノン「…トウーンか。何の用だ。」

トゥーン「裏切り者ってガノンさんじゃないですか！？ゼルダさん
を通報なんて酷いです！」

ガノン「お前な…俺じゃねーよ。それに他にも怪しい奴はいるだろ
！？」

トゥーン「悪役的存在の人はガノンさんしか残ってません！」

ガノン「五月蠅いな…。俺は違うって言ってるだろ！」

ピッ

どうやら、予想通り疑われてる様子です。

ガノン「全く、裏切り者のせいでこっちが迷惑だ。」

さあ、裏切り者はガノンなのか、ガノンじゃないのか。
誰でしょうか☆

残り時間70分

残り逃走者は12人

24話 謎解きを、始めようか（後書き）

牢獄DEトーク

サムス「いらっしやーい。ゼル伝初の確保者ねー。」

レッド「今来たメールに裏切り者の通報ってあったよー。心当たりは？」

ゼルダ「えっと…ないですが、そういえば直前にアイクさんとマルスさんに会いましたけど…。」

リュカ「…マルスさん、怪しいですね。」

ピカチュウ「あの腹黒、アイくんを利用してるんだよ！」

スネーク「確かに他の逃走者と一緒にいるとなれば通報は不可能と考えられるしな。確実にばれないだろうな。」

秋葉「はい、それより、気になったんじゃないの？バリケード。」

カービー「へ？バリケード？」

ソニック「そういえば捕まった後に消えていたような…。」

秋葉「そう、それよ！」

ikki「そういえば僕は見てない気がするんですが…。」
（やることなくったゲストは牢獄前で待機）

奏音「作者だよん。その謎は、次回答え合わせね♪それまで考えててちよ。」

25話 バーチャル・バリケード!! (前書き)

ども、k a n o n : 奏音です。

アルファベットにすると、何かカッコいい気がする…。

今回は、前回の続きなんですけど、きっと予想通りのベタな展開になるであろうことが予想されます、はい。

もっと次回が気になるような展開を考えられるようになりたいものです…。

25話 バーチャル・バリケード!!

残り時間70分、残りにんずう12人からスタート。

ガノン「全く…なんで俺が裏切り者だなんて思われてんだ…。」

そりゃ普段の態度とか、イメージ的にあんたしかいないだろうが。

ガノン「いや、こういうときは意外と真っ白そうな人になるものだろう？」

…知らないよ。

？「あれ？誰かいるんですか？」

ガノンの目の前から、そう言って現れたのは、トゥーン。
どうやら鉢合わせのようだ。

ガノン「なんだ猫目の餓鬼か。」

トゥーン「げ、ガノン…。」

ガノンが裏切り者だと思っているトゥーンは硬直する…。

ガノン「…だから違うと言ってるだろ。」

トゥーン「な…そんなこと言っても騙されませんよ！」

全く…話が進まないじゃないか。

都市エリアのあるところに、背中に生えた真っ白い羽を主にPKフ
アイアーによってもがれた可哀そうな元、天使…つまりピットがい
t、

ピット「元じゃない！羽がなくてもばっちり天使だもん！！」

元々羽があつた部分を見てると…嗚呼、痛々しい。

ピット「…同情はいらないっての！てか、絶対わざとでしょ。」

うん。だってまた生えるじゃん。
トカゲのしっぽよろしく。

ピット「僕はハ虫類と同類なのかあ！？」

で、…そんなことより、さ。言いたいことあるんだろ、ほら。早く

言えよ、出番減らすぞ。

ピット「ん、前から思ってたけど、このバリケードってさ…」

おっと、別の場所で解説するんで強制終了だ。

ピット「……」

ダピカ「…謎もなにも、バーチャルなんだろう？」

奏音「うおうっ！？なんすか、いきなり現れて、神出鬼没ってやつすか！？そーなんか！？」

スィーク「てんぱり過ぎてモはやキャラが定まっていな気ガ…」

竜輝「気にしたら負け。きっとそうだぜ。」

ワグナー「だからなんだって話なんですけどね。」

そういう話になるのですw
て、それよりここ、牢獄前なんすけど。人増えてません？

ダピカ「増えてるに決まってるだろ。俺らいるから。」

i k k i「ちなみに1分前くらいからいたと思いますよ。」

奏音「それも、気にしたら負け。そーゆうことです。それより、はい、解説続き、」

ワグナー」というか、あのパターンからしてバーチャルじゃなかったらなんなんだって話になるって。」

竜輝「謎ってほどの謎じゃないだろ。」

ダピカ「むしろ、一般常識の範囲内だな。小学生でもわかりそうなベタなネタだな。」

ベタというのは奏音も自覚しているようだ、というか、ベタ以外考えられなかったのだ。

奏音の頭をフル回転させてもこの程度というのは覚えておくといいたろう。

後にこのネタで充分脅すことも可能だ。

スイーク「バーチャルとか言ってるのかっこいいけど、所詮ただの立体映像だし。」

ikki「…え、逆にバーチャルであれだけのことをするってすごい方じゃないんですか？」

マスター「そうだよー！あれはすごい大変だったんだからー！！」

竜輝「あ、右手袋。」

奏音「の、人型。」

マスター「2人でつなげなくても1人で言っちゃえばいいのに…。」

ワグナー「で、確保されたら見えなくなるってことですか？」

マスター「うん。逃走者だけに見えるようにしてあるからね。」

i k k i「だから一回もみなかったんですね。」

…そういうわけなんで、出番ないすわ、天使クン。

ピット「わかってる、たんなる嫌味だとは…。てか、せめて僕にネタばらしさせてくれても…。」

しょうたろう「あれ？ピット。どうしたんですかー。」

ピット「あ、しょうたろうさん。実は…」

しょうたろう「なるほど…。つまり君は名探偵コロン風に解決してみたかったと。」

ピット「だって声優さんも同じだし、コロンみたいに探偵気分味わったって…。」

しょうたろう「…少年よ、諦めずに前へ進め。」

ピット「はい、先輩！」

…どこの青春ドラマだ？

フォックス「とりあえず、裏切り者に通報されないためには…動くの
がいいのか動かないのがいいのか…」

どうやら悩んでる様子。

そして、近くにハンター。

フォックス「どうするか…て、やべっ！」

ハンターに見つかり逃げるフォックス。急いで向かうのは、近かった森エリア。そこならちようど木に擬態できる。

フォックス「…誠に残念だが、作者。俺は擬態なんて器用なまねはできない。」

ああ、さいでつか。

だが、木にまぎれるという作戦はこれまたなかなか効果のあるようだが、それもそのはず。かつてここを歩き回っていたアイク&ピカチュウが平和にほのぼのしてたくらいだ。

フォックス「よし、もう大丈夫か…。」

彼が安堵の息をついた途端、目標を見失い足をとめたハンターが再び走り出した。

フォックス「な、まさか気付かれたか!?!」

少しだけ、ほんの少しだけ時をさかのぼる。

リンク「あー、ゼルダも捕まったし、裏切り者こわいなー。」

周りを確認しつつ、異様にビビるリンク。
本当にお前は勇者なのか。

リンク「いいじゃないか……。なんなら一応、勇者とか言っても怒らないからー。」

：作者はそんな許しを頂いたところで大して喜ぶことはない。
そして、このパターン。すでに予想している人もいる……。いや、予想
できている人の方が多いだろう。
裏切り者が、彼を見つけた。

？「リンク、森エリアと都市エリアの境界付近にいます。」

その通報を聞いて、彼に近いハンターが動き出した。

そして、時が戻る。
つまり…

フォックス「やべっ、こっち来る。やっぱ気付かれたか。」

自分が見つかったと思い、隠れていた木の影から逃げだすフォックス。

だが、本当はハンターは通報をうけたリンクの方へ向かおうとしていたのだが…運が悪かった。

逃げ出したせいでハンターはフォックスにロックオン。
そして、

フォックス「あぁっ！クソ。速い…。」

ポンッ

フォックス確保、残り11人

ピルルルルー

ネス「メールだー。確保情報、…て、フォックス捕まったんだー。」

メタナイト「今回は裏切り者の通報ではないのか…。」

マルス「やっぱり裏切り者ばっかに気を取られていると危険だね☆」

リンク「あぁー、ハンターがきそうで怖いなー。」

ハンターを警戒するリンク。通報されたことは勿論知らない。

リンク「……て、ホントにハンター来た!!」

早くにハンターを見つけて逃げ出すが、リンクの現在地＝城エリアの城門前、のため隠れる場所がなく、とりあえず迷路のように入り組んでいる花壇の通路を走る。

リンク「あー…やっぱりこういう道って走りづらい。」

やはりアスファルトでないぶん走りにくいようで、除々にハンターとの距離が近くなり…

ポンッ

リンク確保、残り10人

ピルルルルー

トウーン「また確保情報…て、リンクさん!？」

ピーチ「…ゼルダの後を追って、かしら？」

シーク「裏切り者の通報…やっぱり赤が狙われてるのか…。」

ネス「わ、これって僕危くない!？」

アイク「…だいぶ人数も減ってきたな…。」

？「後1人で、クリア…。」

残り時間60分。残り10人。

赤、青↓残り1人

黄↓残り5人

緑↓残り3人

赤、青チームが裏切り者ミッションの全滅まで、あと1人。
赤はネス、青はガノン。

…全滅は、どっち？

25話 バーチャル・バリケード!! (後書き)

牢獄DEトーク

フォックス「はあ、スターフォックス全滅かあ。」

リンク「それより、裏切り者って誰だよ!」

ゼルダ「私：捕まる前にマルスさんとアイクさんに会ったんですけど：2人は大丈夫なんでしょうか：。」

マリオ「まあ、あいつらのどっちかが裏切り者ってのもありそうだけれどな。」

ポポ「腹黒王子は信用できないもんねー。」

サムス「とりあえず、これ以上被害が出ないで欲しいわね：。」

リュカ「無理ですよ。赤と青があと1人ですから、どっちかがきつと全滅簾ろと思います。」

ソニック「ネスかガノンか。」

ルカリオ「裏切り者がガノンならネスが捕まるだろうな。」

ファルコン「それ以外ならガノンが捕まる可能性もあるな。」

ヨッシー「でもネスさんも子供のくせに黒属性ですから裏切り者かもしれません。」

全員「：：わかんないな。」

26話 上空からの敵（前書き）

裏切り者のアンケートとおまけ小説を作ってみました。

おまけ小説はネタが出来たらなんとなく増えるのでよければどうぞ
1。

両方とも目次、各話の下のところからいけて、アンケートに答えて
もらえると、おまけ小説のパスワードがわかります。

※おまけは現在1話（暇時更新予定）

26話 上空からの敵

残り時間60分。残り10人。

メンバーは、ネス、ガノン、トゥーン、オリマー、アイク。メタナイト、シーク、ピット、ピーチ、マルス。

オリマー「そろそろきつくなってきましたね…」

かなり弱気のオリマー。彼は今、森エリアの茂みに紛れている。

オリマー「でも自首はしたくないし…。よし、頑張っただけ長く生き残ります!!」

うん、頑張れ。

しょうたろう「そういえば僕達ってもう出番ないんですか？」

あゆみん「ここでこのまま牢獄トークするのも暇だしなんかないの
ー？」

玲羅「作者が脳無しだとつかれるねえー」

レッド「全くだ」

秋葉「あのー、コレ見てくださいー」

そういう秋葉の手には自由帳の様なノートがあつて、よくみるとそこに何か書いてある。

そこには『出番ないのもちよつとアレだし、奏音が容量の少ない脳をフル稼働して出番考えたよ』と書いてあつた。

スィーク「で、それってどういうものなのか書いてないんだけど…」

秋葉「あ、次のページにも書いてある」

ペラッと、ページをめくると、文章の続きがあつた。

今度は、『次のミッションのNPC的な？まず、各エリアに1人ずつで5人と、塗料屋っぱいのを1人ずつ3人。あと、両替屋で：残りの2人と、玲羅と秋葉』とあつた

ワグナー「塗料屋？両替屋？なんの意味があるんだろ」

ikki「とにかく誰がどれやるか決めましょう」

秋葉「待って、もう一枚」

最後の一枚……『あと、役割きめるなら叩いてかぶってじゃんけんポンか、あっち向いてほいで決めて☆』…。

ダピカ「…時間どれだけとらせるんだよ…。馬鹿かよ」

ペラッ

竜輝「最後の一枚じゃなかったのか!？」

秋葉「泣きの一枚、と言う事で」

『A H A H A ☆いくら馬鹿と言われようが叩いてかぶってじゃんけんポンはすでに決定事項! よって拒否権は無い!』

ペラッ

秋葉はその分を読むと即行で次のページをめくった。

秋葉「……今のは、忘れましょうか」

スイツクン「…無駄に偉そうだったー」

拓斗「あっち向いてほいの選択権はなし…か」

i k k i「まさかあっち向いてほいやりたかったんですか!？」

ワグナー「よし、じゃあ、じゃんけんで決めよう」

役割のじゃんけんをしてる為、秋葉と玲羅以外に気づいたものはいなかったが、秋葉のもっているノートの開いたページ、その空白の部分にいつのまにか文字が浮かび上がっていた。

『…そこは、やろうよ。叩いてかぶってじゃんけんポン…（泣）』

そのころ、エリアでは異変が起きていた。

ガノン「…なんだ、この音」

エリア中に、低いプロペラの音が響いていた。

シーク「あれは…ヘリコプター…？」

ピーチ「1…2台…。やっぱりミッションかしら？」

2台のヘリコプターは、それぞれが正反対の方向から、エリアの中心部に向かっていくようだ。

マルス「うん。あれはきっとハンター大量放出のミッションの前兆だね」

アイク「…何故わかる？」

マルス「あれ？知らなかった？僕、逃走中のテレビ放送、毎回見るんだよ」

初耳だよ、そんなプチ情報。

ピルルルル

メタナイト「む？メールか。また誰か捕まったか？」

ピーチ「裏ミッション5：ってまたくるの！？」

ピット「うう：ハンター怖いし、できればいきたくない：」

裏ミッション5

エリア上空に、ハンター10体をのせたヘリコプターAと、ハンター15体をのせたヘリコプターBが現れた。

Aは残り30分になると、Bは残り25分になると地上に到着、中のハンターが放出される。

止めたければ、塗料屋でペンキを手に入れ、各エリアに1つずつあ

る空き地までもっていき、ヘリを撃墜させろ。
塗料屋、空き地については地図で場所確認ができる。

メタナイト「裏切り者の通報に注意しないとやらんと言うのにミッ
ションとは…」

トゥーン「塗料屋…。あ、もしかしたらゲーム開始前に配られたこ
のコインを使えってことでしょうか」

ピーチ「ハンターがそんなにでるの嫌だし、がんばらないと！」

オリマー「やはり、少しは皆さんのために頑張らないと…」

ミッションに向かうピーチとオリマー。それぞれ3か所の内、現在地から一番近い塗料屋に向かった。
だが、勿論動けばハンター、裏切り者に見つかる危険も高まる。

？「…オリマー。森エリアの山小屋付近にいます」

動いたため、裏切り者に見つかり、通報された。

オリマーの位置情報は、即座にハンターに伝わり、彼に近い2体のハンターが確保に向かう。

オリマー「えーと、塗料屋はもう少し先か……」

通報されたことを知らずに塗料屋を探すオリマー。

背後には、通報を受けて彼を確保に向かうハンターが猛スピードで走ってくる。

オリマー「んー……ハンター！？」

ようやく気付いたが、すでに距離は随分と縮められており、走って

も、隠れる場所も、逃げられる足の速さもなく…

ポンッ

オリマー確保、残り9人。

オリマー「ああ…捕まってしまいました…」

ピルルルルー

シーク「確保メール……。また捕まったのか」

マルス「オリマーか。結構頑張った方だねー」

ネス「これで残りは9人……。余計ミッションが難しくなってきたなあ」

そして、裏切り者は、

？「ミッションクリアまで、後1人……。」

正体をいまだに誰にも知られずに、ミッションクリアのために目標の逃走者を探している。

残り時間55分。残り9人。

26話 上空からの敵（後書き）

牢獄DEトーク

サムス「なんか奏音がアンケートはじめたらしいわよ」

ポポ「おまけ小説なんて作る暇があったらこっちを更新して欲しいよねー」

秋葉「あい」

ノートには、『こっちは時間かかるし、メモ見ながらじゃないと書けないし…』と書いてある。

マリオ「なるほど。おまけ小説は気ままに書くネタ集みたいなやつというわけか」

リュカ「まだ1話しかないそうだし、見た人、きつとがっかりしますよ」

秋葉「うい」

ページをめくると、『それは、スマ@を読みに来てくれたときに更新してあるかチェックする、くらいのノリでいってもらえればOK。あくまでおまけだから』

リンク「なんか適当だなあ」

ナナ「仕方ないよ。どうあがいてもスマ@はあと少しで寿命なんだから。奏音はそれがなんか寂しくて無駄に色々やってるだけなんだから！」

フォックス「…それ、言わない方がいい感じのやつじゃないのか？」

サムス「ま、よければ、アンケート投票してみてね。名前を書いてくれれば、当たったときに記載するわよー」

スネーク「ここの感想から書くのは対象外だぞ」

サムス「……いちいち出しゃばらないで欲しいわね」

27話 奔走（前書き）

今回はいつになく適当な気がする…。

1ヶ月以上更新してない癖にこんなんでも本当申し訳ない…。

ついでに、スマ@完結後の進路が決まったので、少しゲスト出演と
いうか、キャラ募集というか、そんなのをしたいなど。

詳しくはあとがきで！。

27話 奔走

ただいまのこり時間50分、逃走者は残り9人…。

と、奏メモに書いてあるのだが、前回までの内容をほとんど忘れてしまっている奏音。正直のところ、今回の展開もどうするかを決めてない、つまり、毎回のことながら100%アドリブで書かれた小説になります。(西尾維新さんみたいw)

あらすじ(とかいいつつ実は奏音が話の運びを確認するためのもの)後半が始まり、残り少ない逃走者の中から裏切り者が現れた。さらに、裏切り者ミッションなるものが出たため、裏切り者は裏ミッション3でのチームの全滅のために逃走者をどんどん通報する…。そんななか、(奏音の無茶苦茶な思いつきから)エリア上空には2機のヘリが現れ、ハンター大量放出のミッションまで始まった。逃走者たちはミッションを無事クリアすることができなのか、そして、裏切り者は誰なのか…。

all「だから前置き長いんだよ!!」

マルス「大量放出となれば、全滅しかないだろうからねえ、やっぱ行くしかないのか」

アイク「…そう言いつつもお前に行く気がないように見えるのは俺の目の錯覚か？」

マルス「錯覚、錯覚。面倒だからアイクに全部任せようなんて1ミリも思っただけだよ」

アイク「…嘘つくのヘタだな」

弁解して逆に全てばらしてしまうというおきまりの会話をしでかした王子だった。

もしかしたら出番を増やすために狙ってやったのかもしれない。

トゥーン「ペンキ、ペンキ。」

こちらは裏切り者など警戒せずに普通に塗料屋を探すちびっこ。
やはり子供だから危機感が薄いのだろうか。

トゥーン「どこでしょうか…て、あの人は！」

誰かを見つけて駆け寄ったトゥーン。その相手は

ワグナー「やあ、どうしたの？」

両替屋なNPCことワグナーさん登場。

森エリアで放浪の次は都市エリアを散策中という、あくまでもマイ

ペースなゲストさんだ。

トゥーン「あ、えっと、この地図にある、塗料屋ってこの辺のはずなんですけど、見ませんでした？」

ワグナー「ああ、すぐそこだよ。でもあそこで塗料を買うには、メダルがいるよー」

コインもメダルも似たようなものじゃないか、と思ったそのあなたは放課後体育館裏な。ちょっと話し合おうか。

トゥーン「え、でも僕コインしか…」

ワグナー「それじゃあ両替してあげるよ。今の僕は両替屋のNPCでもあるからね」

そんなわけで、トゥーンがメダルゲット。

……だから、『メダルゲット☆』がダサい、とかしよぼそう、とか思ったそっちのあなたはスカイツリーのてっぺんから命綱なしでバンジーな。

え？まだ営業してなかったっけ？どうだっけ？まあいいや。もし営業してなかった場合はついでに不法侵入の現行犯で警察に連行されよう☆

大丈夫、君ならきっと無事に脱出して来れるさ☆

トゥーン「…いつにもまして地の文がウザいんですけど…いいことでもあったんですか？」

いや、その逆さ。いいことなんて何一つないのさ。学校なんて消えちまえ☆

トゥーン「☆をつけてるあたりでもう完全に冗談にしか見えませんか？」

ピット「あれ？こんなところにペンキが落ちてる。」

たしかに、道のど真ん中にペンキの缶がどん、と置いてある。

若干わざとらしい気もするが、そこに突っ込んでいたらこの小説は成り立たないので諦めよう。

ピット「…これも持ってっちゃっていいのかな？」

いいがらすでに持ち上げている。いいのか？泥棒になるかもよ。

ピット「泥棒だったって、エリア自体がこのゲームのために用意されたようなものでしょ？だったらあるものは全て有効活用でOKなはずだよ」

…さりげなくキメたな。

ピーチ「…貴方が塗料屋さん？」

ダピカ「…そうだけど何か問題あんのか？」

ちょうど現在地から塗料屋が近かったのでよったピーチ。
そこにいたのは、これまたゲストなNPC、ダピカさん。
なにやら「くなろう」から退会しただとかの情報が入っているが、
だからといって扱いを変える奏音ではないよ。
そもそも、事の詳細を全く知らないし、実質的に奏音が関与してたりするわけでもないのね。

ダピカ「で、奏音の独白はともかく、ルールとしては、コインをメダルに両替しないと塗料は渡せないぜ」

ピーチ「チッ、また奏音の理不尽な設定ね。一国の姫である私をこれ以上走らせようなんて、冗談じゃないわよ」

ああ、悪寒が。

どうやら反射的に精神が生命の危機を感じ取ったらしい…って、そんな冷静に解説できるほど余裕持ちじゃない…；

ピーチ「で、両替は何処で出来るのかしら」

ダピカ「あー、両替組は牢獄付近と城の中、後の2人は…放浪中だ」

ピーチ「…面倒ね。じゃあ、一応聞くけど、放浪中の両替組は、誰と誰かしら？」

いや、ちょ、それ言うとネタバレなんでもう少し待っ…

ピーチ「…一々人の上げ足ばかりとって…少しは黙ってなさい！」

いやでも、地の文がない小説って、読む気失せるよ？

ピーチ「なら黙って地の文としての職務のみ全うしなさい」

ダピカ「オーラがどす黒いな…。とにかく、そこに1人いるぜ」

そう、塗料屋のすぐ近くのベンチでぐったりしている両替屋のNP
Cがそこに1人いた。

ぐったりというか、酔っ払いのごとくだらけている。

ピーチ「…て、この流れからしてまたゲストキャラって展開じゃないわけ…？」

玲羅「どうも…大腸菌O111に感染してしまった食中毒…いや、毒の玲羅ちゃんですよー」

ピーチ「食中毒を毒に訂正する意味はないと思うわ。というか、この小説無駄に時代に敏感ね」

というか、亀更新のくせに時事ネタなんてでしたら、1話ごとに更新にどのくらい間が空いたかわかってしまうね、はい、自覚済みです。

ちなみに今回の更新までに1ヶ月半程度かかっている。最早自慢する以外できないね（ry

玲羅「いやはや…昨日の夜作り置きしてあった弁当を包むときにだね…保冷剤をいれ忘れて…半日くらいなら大丈夫だと思って食べた結果がこれさ…。私は…夏の暑さを少しなめていたらしい…。一生の不覚…」

ピーチ「いや、一生の不覚、じゃないわよ。それ普通に腐ってただけじゃない」

シーク「そもそもユツケも食べてないのにO111に感染なんてありえない。時事ネタ出そうと思っててもから回りでは意味がないと思う」

ありや、いつのまに。やっぱしシークさん神出鬼没だねえ…。

シーク「それより、時間がない。早く塗料を持っていけないと」

ピーチ「ああ、そうね。急ぎましょ」

2人はだらけた玲羅の懷からメダルを奪い取って…シークだけは律儀にコインを置いていった。
そして玲羅はというと、

玲羅「あはは…これ、O111じゃないのかあ…。死にそうなくらいヤバいんだけどなあ。そっか、違うのか、ちょっと悲しいなあー」

いや、そこで悲しむな。死ぬよりやましだが。

ピット「あ、あつたー！空地！」

あゆみん「あ、早いね。はい、塗料もらうよー」

ピットが早くも海エリアの空地に到着。

魔法陣組1なNPCあゆみんさんは塗料を貰うとすぐ、周りの地面に何かを書き始めた。

ピット「…あ、落書き？」

あゆみん「違うっ！」

ほとんど適当ながら書き終えて、2人がその場から少し離れると、塗料で書いた部分が発光しだして、その光は空に向けて放射された。そして、光は薄くなりながらも、遠くから見てもよくわかるように光っている。

ピット「わーすごい」

海エリア（ヘリA対応） ミッションクリア

残り時間50分。残りあと9人。

追記）最初にも50分とあったので訂正して残り45分…（たぶん

27話 奔走（後書き）

ポポ「ねえねえ、なんか立て札があるよ」

サムス「あら、本当ね。というか、今回牢獄DEトークのテロップがないのはどうしてかしら」

カービィ「それはー、今回牢獄DEトークがないからだよー」

all「何故!？」

カービィ「だって奏音が、もうすぐ作る予定の新小説のキャラ募集の宣伝するから、だって言ってたよ」

all「番宣……」

奏音の新しい小説のキャラ募集をしたいと思います。

新しい小説のテーマは「アドベンチャー連載物」

内容としては、『オリジナル設定だらけの、オリジナル率80%、本気な妄想で書かれた小説です』と言う感じですよ。
そんなのでよければ是非応募してやってください。

書いて欲しい内容は、

・出して欲しいキャラの名前

・性別

・性格、個性

・武器

・その他設定あれば

です。

一人につき2人まで応募可能としておきます。

と、今回、決めている役があるのですが、そこにあてはめるので、決定基準はキャラです。

奏音が見て、いいと思った奴だけ採用していきます。

なので、応募したのが出せない場合もありますし、2人応募して、両方採用の場合もあります。はい、えこひいきです。

おまけに出演のキャラの中には、敵キャラ、死にオチなキャラもありますので、それでもいいよ、って人だけどうぞ。

それで、設定も、こっちのストーリーの都合によって、性格とか武器とか、書きやすいように変わってしまう可能性が大きいので、それでもいい方のみ応募して下さい。

（注意多いけど、本当に後で苦情言わない方だけお願いします。ちなみに今のところ8人ほどの予定ですが人数ない場合でも応募してくれた方全員出演はありません。枠が縮まるだけです。多かった場合に枠を広げる、といったこともあります。）

では、応募は下の『キャラ募集☆』のどこ、またはユーザメッセージ（だっけ？）からお願います。

この小説の感想には書かないでください＞＜

サムス「無駄に長いわね。それに注意事項多いしね」

マリオ「おかげにただでさえ貴重な出番がなくなっただしよー」

ナナ「でも、応募とかないと、奏音は泣きながら新小説をちまちま書くことになるから、注意事項見てもOKて人、是非応募してね。」

リュカ「ユーザの人でも、ユーザじゃない人でも、誰でも応募OKですよー」

28話 裏切り者は君だ（前書き）

お久しぶりですー奏音ですー。

スマ@が完結後に新しい小説を書く予定だったんですが、先にもう1話目書いちゃいましたー。

よければキャラ募集の方もお願いします。

採用できなかった方はホントすいません、マジですいません＞＜

つとと、今回は微妙に謎解き編です。

タイトルを見る限りだと、ラストでちょいとかっかりするかもしれませんが；；

28話 裏切り者は君だ

残り時間45分。残り逃走者9人。

奏音「…そろそろ捕まえさせるか」

all「いっぺん死んでこい！」

今メダルを持ってるのはトゥーン。

ペンキはピーチとシーク。

クリアしたエリアは海エリア（ヘリA対応）…だったはず。

トゥーン「曖昧ですか!？」

Q1、ガノンさんはミッションに行かないんですか？

ガノン 「俺が行くわけないだろ、面倒だ」

Q2、そんな態度だと裏切り者だと思われちゃうんですがそこん
とこどうですか？

ガノン 「俺の知ったことじゃないな」

Q3、そういうクールっぽい物言いをしているのは自分のかつこよ
さを演出S…

ガノン 「いっぺん死んでこい!!」

海エリアの一角で繰り広げられた質問攻め…。

最後のはさっきも聞いた気がするのは気のせいだろうか。

マルス「あれ？ピット君？」

海エリアを歩くピットは、おなじみ青剣士コンビと遭遇した。

ピット「あり、マルスにアイク。2人とも一緒に行動してるの？」

アイク「…ああ。だから安心しろ。俺たちはどっちも裏切り者じゃない」

マルス「ピット君、ちょっと聞いてよ。アイクったら皆は絶対僕を裏切り者だと思ってるだろうなんて言うんだよー」

ピット「…確かに皆思ってると思うよ」

マルス「全くピット君まで……。アイクなんて俺の目を盗んで通報するのお前なら出来そうだなって言って勝手に着信履歴見たんだよ。まあ、ゼロだから見られても困らなかったんだけどさ。人の携帯の履歴見るなんて、嫌われる彼女の典型パターンだよ」

ちなみに、腹黒もマシンガン Took もあまり好まれないと思う。

アイク「俺は誰の彼女でもないから大丈夫だ」

マルス「確かに君は僕と違ってモテなさそうだしねー」

ピット「いや、そういう問題じゃなくてアイクは誰の彼女にもなれないからね」

マルス「……。それより、僕達ミッション行くからそろそろ行くよー」

ピットが歩いて来た方向に歩きはじめながら顔の横で手を振るマルス。

そういえば思い出したのでピットはその背中に言ってやる。

ピット「あ、海エリアのミッションはもう僕がやっちゃったよー」

マルス「な!?!」

アイク「……よし、なら移動するか」

マルス「ちょ、まっ、それじゃあ僕たちがこっちに来た意味ないじゃないか！」

ピット「ドンマイ☆」

マルス「∴人の事腹黒とか言うけど、ピット君も相当の腹黒だと思うよ」

まあ、そうかもしれないね。

ネス「…あれ？こんなところに何か落ちてる…。…これは、メダル？
何でこんなところに…」

こちらは城エリアにいるネス。足元にメダルを見つけた。
…落し物だろうか？

スリーナ「あー、ちょうどいいところに。この辺にメダル転がってこ
なかった？」

ネス「転がって…？いや、普通に落ちてるのならあったけど」

スリーナ「そうかー。どこいっちゃったんだろ、私のメダルー」

ネス「え、ちょ、これだと思っただけど…」

スリーナ「えー、だって落ちてたんでしょ？だから違うよー。」

なんだか話がかみ合っていない気がする。

スリーナ「ま、とにかくそれはもらっとけばいいんじゃない？私は自分
の探しとくし」

そう言ってスリーナさんは来た方にまた戻って行った。

しかも、ダッシュで（特に意味はない。

ネス「…まあ、メダルもらえたし、いいという事にしよう」

後に残ったのはなんとも複雑な心境のネスさんでしたw

?3 「ね、裏ミッションって後1個なにやるんでしゅか？」

?5 「は？」

エリア内のどこかの謎な場所で、?3が突如そんなことを言いだした。

?3 「だって、奏メモにあと1つって書いて…あれ？」

?4 「5つやったからもう終わりなんじゃないか？」

?1 「7人中3人除外だからな」

?3 「あれ？4人なのに5つでしゅか？」

?5 「いや、ちょっと待て。確か赤髪サークレットがミッション出した後に逝ったから5つだろ」

?1 「そんなこともあったな。…今の今まで忘れていた」

?3 「同じでしゅ」

?5 「まあ、ロイだし、仕方ないだろ」

本人が聞いたら暴走しそうな酷い会話。

：というか、裏ミッション出してる張本人があと何個か忘れるってダメだろうが。

？5 「いや、忘れてたのお前だろ」

ハイ、ソウデスケド何カ問題デモ？

？1 「問題ならあるとおもうぞ」

ああ、さいでつか。

ワーグナー「あ、はい。これがメダルだよー。」

メタナイト「有り難い。これでミッションに行ける。ここから近い塗料屋はどこだろうか」

久しぶり、メタナイト。そういえば早く君を出してなかった気がするよ。気のせいかな？

ワグナー「一番近いのはー…そこかな？ほら、真後ろ」

i k k i「どーもー。重い改造自転車のははこの暑い中塗料屋なんてやって、熱射病で逝きそうな塗料屋のNPCなi k k iですー。」

メタナイト「これまた随分とグダグダだな…」

ワグナー「そりゃ今年の暑さはヤバいからね。僕も放浪なんてしてるけど、正直言くと城の中で突っ立ってる方が良かったなー」

…まあ、その城の中の両替屋NPCことスイーナさんは何やら外出してましたケド…。

メタナイト「…ゲストも色々大変なんだな。はい、メダル」

i k k i「どうもですー。はい、ペンキ」

ワグナー「ミッション頑張ってねー」

終始暑さでg d g dだけど役目はきっちり全うしたゲストの2人でしたー。

出番はあと何回あるのやら（え

？「…ちょうどいいところに」

裏切り者の目の前にはガノンがいた。

実は、元々はガノンを生かしておけば自分は疑われないと思っていたのだが、裏切り者投票でガノンより自分の方が票が圧倒的に高かったため、生かしておいても何も利益はないと判断。
なので、裏切り者ミッシヨンのクリアのため、ガノンを通報して、賞金を増やそうということだ。

？「ネスとガノンじゃネスの方がミッシヨンやりそうだし、ガノンを通報した方が生存率も高いってことで、通報っ」と

ピルルルルー

電話だ。

？「はい、もしもし」

『もしもしー、僕だよ。わかる？』

？「わかるよ。で、何の用？」

『いや、大した用事じゃないんだよ。ちょっと僕の話聞いて欲しいだけ』

？「…、後じゃダメかな」

『当たり前だよ。てか、僕が何を言いたいのか、勘がいい君ならわかってるよね？』

？「…いや、全く」

『思えば君は、最初から怪しかった。まず、君のチームは緑。緑はすでに2人捕まっているから、裏切り者に狙われる可能性も少なくなかったはず。なのに、赤、青、黄と、最低でも1人は通報されているのに、緑だけは通報による確保者がいない』

？「偶然じゃない？それなら、怪しいのは君だって同じだよ」

『まあ、そうなんだけどね。でもさ、君ってミッション頑張ってるよね。君が走り回ってるの、実は何回か見かけたんだ』

？「ああ、ボックスの時とか？見てたんなら声かけてくれればよかったのに」

『まあ…それも違うくはないんだけど、もっと後だよ。ほら、裏切り者のミッションが始まったところ』

？「ああ、あの時か。なんかハンターが近くにいたから少しでも遠くにいた方がいいかと思ったんだよ」

『へー、それにしてはちょっと頻度が高い気がするんだけど、今日の運勢は最悪なのかい？』

？「生憎、星座占いでは3位、血液型占いでは1位だったよ」

『…そっち方向に話を展開しないでよ。実はさ、通報があってハンターが走っていった後、近くからそちに走っていく君を見たんだ。ハンターに狙われてたわけでもない。ましてや、あのあたりの位置

では、ハンターが通ったのが見えるわけない』

？「…その時の事はよく覚えてないけど、たぶん、その逃走者の声が聞こえたから逃げたんだと思うよ」

『いや、違うよ。君は、その逃走者がハンターに気づく前に飛び出してきた。ハンターが通り過ぎてすぐ。もしも足音が聞こえて逃げたんなら、それはハンターじゃなく、追われる逃走者の足音だったかもしれない。もしそうなら、足音と逆の方に逃げないと、後から来たハンターに見つかる。でも、そうしなくて足音の方に逃げたのはなんでかな？』

？「きつとパニックってたんだよ。あまり深い理由はないと思うよ」

『僕がその理由に気づいてないって思ってるの？あのあたりでハンターが走って行った方向は、エリアとエリアの境目、そしてエリアの隅っこだ。だから、もし君が逆の方に逃げてたなら、ハンターとの鉢合わせもあり得る。だから、ハンターが走ってくるのを知っている君は、通り過ぎるのを待って、その後ハンターが来た方に逃げた。そうすれば、少なくとも巻き添えになって確保される確率はまٰずないだろうからね』

？「ハンターが来るのを知ってた？…つまり君は、僕が裏切り者だと言って言いたいのかな？」

『そうだよ。裏切り者は君だ、*****』

28話 裏切り者は君だ（後書き）

牢獄DEトーク

サマス「そういえば今回確保者でなかったわね」

ヨッシー「このまま全員残ってくれるといいんですが…」

リンク「でも裏切り者は捕まって欲しいぜ」

ゼルダ「ですねー」

カービィ「あー、裏切り者の所為でゼル伝メンバー一気に減ったしね」

マリオ「ゼル伝はまだいいだろ。俺たちなんてピーチにかけるしかねーんだぞ！」

ポポ「それより、そろそろ裏切り者わかるころじゃない？」

フォックス「だな。ちなみに今の投票数は55票でピットがダントツ。で、2位がマルスで22票その下はメタナイトが9票、ピーチが7票、と10票以下ばっかだな」

レッド「トップ2両方ともそろ目だねー。なんかいつそ清々しいよ」
ピカチュウ「てか、マルスはわかるけどピットがこんな票ってどうよ？」

リユカ「まあ、2票以上入れてる人もいますらしいですからね」

サマス「おかげで票数は見ての通りだけど何人かはわからないのよねー」

ポポ「…とまあ、もう少しで正解発表だけど、まだ裏切り者投票は受け付けてるよ！あと、新しい小説「スマブラRP」のキャラ募集も、採用されるかは謎だけど受け付けてるからよろしく！」

ナナ「よろしく」

29話 逆転の一手（前書き）

前話でなんと、10万文字突破しました！

いやー、28話にして10万字…。

平均1話につき約3571，4文字…。

キャラ紹介等も含めれば平均3125。

あ、それと、もうすぐこのサイトで小説を書き始めて1年になりますー。

祝って祝って！。

それと、ついでにスマRPの方も読んでみてね！。

29話 逆転の一手

現在残り時間40分、残り9人。

メタナイト「よし、ついたぞ。ここが空き地だな…」

スイツクン「お、なかなか早いねー。はい、ペンキちょうだい」

メタナイトが住宅街エリアの空き地に到着。
そこにいたNPCはスイツクンさん。

スイツクン「よし、魔法陣できた」

メタナイト「…落書きでは、ないのか？」

スィックン「失敬な！ こういうデザインなんだから仕方ないでしようが！」

魔法陣は書き終わったのだが、メタナイトもピットと同じことを言っ

った。

どうやらやはり落書きに見えるらしい。

こんなデザイン、一体誰が考えたのだろうか。

メタナイト「……（あんたじゃないのか？）」

え……。

スィックン「そ、それより、いきますよ」

2人がその場から少し離れると、塗料で書いた部分が発光しだして、その光は空に向けて放射された。

そして、光は薄くなりながらも、遠くから見てもよくわかるように光っている。

メタナイト「ほう、なかなかすごいな……」

住宅街エリア（ヘリB対応）クリア

アイク「ぬうん。あれは…」

マルス「どうやらまた先を越されたみたいだね。このままじゃ僕の活躍するところがなくなるじゃないか」

出番ばかり気にする王子。

アイク「…まだ3つあるだろ。…で、とりあえず森エリアにでも行くか？」

マルス「…確かに一番近いけどまだ僕等ペンキないよ？」

アイク「…ぬうん」

マルス「…え？…アレ？」

状況説明。さっきまで手ぶらだったアイクがいつのまにかペンキを
持ってた↑

マルス「ねえ、ちょっとそれ、どうしたのさ」

アイク「あそこに落ちていた」

マルスがアイクの指さす方向を見ると、そこにはペンキの山が。
実はここ、ピットがペンキを拾ったのと同じ場所。

ピットは偶然この山から少し離れたところに転がっていたペンキを
拾っていたのだー。

マルス「…なるほど。あまり納得はできないけど時間もないし行こ
うか…」

アイク、ペンキゲットー。

トゥーン「あー、ペンキってどこでもらえるんでしたっけー」

塗料屋じゃね？

というかこの猫目、暑さの所為でだいぶ疲れてるらしい。

トゥーン「塗料屋ー……そんなもんどこにもな……あった……？」

トゥーンが周りを1周見渡して、何もないと思った矢先、今まさに目の前に太陽の日差しをガンガン浴び続けている灼熱地獄もとい冷房無しの塗料屋発見…。

心なしか店員さんが死んでるようにもみえるのは気のせいだろうか。

トゥーン「あのー、すいませーん」

『返事がない、ただの屍のようだ▼』

トゥーン「やっぱり屍ですかー…。どうしますk」

ダピカ「いやいや、生きてんだけど」

トゥーン「え、マジですか!？」

ダピカ「マジですか!？じゃねーよ。何本気で驚いてんだよ悪ふざけとかじゃなかったのかよお前」

トゥーン「…え、マジですか!？」

ダピカ「2回も言うなうっとおしい…。ただでさえ暑いのに面倒増やすなよ…」

トゥーン「大切なことなので2回言いました」

ダピカ「…大切じゃないだろ」

トゥーン「…あ、それよりペンキください。はい、メダル」

ダピカ「ん？ああ、塗料屋NPCの役割のほうか。ほら、好きな色持っ
け」

トゥーン「ありがとうございますー。よし、じゃあ透明の持っ

ますねー」

ダピカ「ああ…ってそれは空の入れものだ！お前バカだろ…」

トゥーン「馬鹿じゃないです！それじゃこの茶色の…」

ダピカ「それは水分補給用の麦茶だ。というかペットボトルなのに
気付かず持っていこうとするな…」

トゥーン「じゃあこのオレンジジュース」

ダピカ「最早狙ってるだろ！さっきから飲み物狙いじゃねーか！」

トゥーン「いやあ、飲めるペンキもあるのかと思ひまして」

ダピカ「そんな液体はペンキと呼ばない」

ここからなんやかんやあって結局赤色のペンキを持っていくことで
決着がついた。

トゥーン、ペンキゲット

玲羅「そして私には気づいてくれないのな」

そして、ダピカさんの塗料屋の近くでまだだらけていた玲羅。
残念ながら君に出番はないさー。

ガノン「……俺、なかなか頑張ってるよな？」

ただ今ハンターを発見して、偶然近くにあった荷物の中に紛れている魔王。

なんかすごい格好がつかないけどまあ、面倒なので良しとする。
頑張ってるというか、ただ必死なだけのように見える。

ガノン「…それより、何故か最近裏切り者の投票で俺の票が急激に上がってるんだがどういう事だ？」

もしかして前回の質問がいけなかったのかな？
珍しく出番増えたから怪しいと思ったとか。

ガノン「出番はもとからあるぞ、元から」

…え？聞こえなかった、もう1回。

ガノン「つと、…それはともかくだな。このまま読者に裏切り者だと思われてるのも癪だしな。そろそろミッションにでも行ってやろう」

あ、マジで？捕まるフラグだったかなー？

ガノン「黙れ、逃げ切るフラグだ」

ピーチ「そういえば、さっきあっちの方からも何か打ち上がったわよね」

こちらは2話前で一気にペンキを入手した2人。
ミッシェンの行き先がかぶらないようにとりあえず一緒に話しあいながら移動している。

シーク「たしか住宅街エリアだ。その前のはたぶん海エリアだと思う」

ピーチ「じゃあ、ここからは2つに分かれましょう」

シーク「わかった。僕は城エリアに行く。」

ピーチ「じゃあ私は都市エリアでいいかしら？」

シーク「ああ、捕まらないように気をつけて」

ピーチ「シークも気をつけなさいよー」

これで、まだクリアしていない3つのエリアは、森エリアアイク&マ
ルス、城エリアシーク、都市エリアピーチ、が向かう事になった。

逃走者に忍び寄る、エリア内の4つの影…。

（最近奏音が存在を忘れかけていた）ハンターだ。

そして、もう1つ、エリア内に新しく黒い影が現れた。

これはどうゲームに影響してくるのか！？（今更ー

メタナイト「なんとかミッションをクリア出来た…。他の皆もやっ
てくれているといいのだが…」

先ほど頑張ってミッションに貢献してきたメタナイト。
だいぶ疲れてるようだ。

メタナイト「もしここでハンターが来たら逃げ切れる自信がない……しまった！」

疲れて注意力が散漫になっていたせいか、無防備に大通りに出た瞬間遠くに居たハンターに見つかった。

メタナイト「くそ、なんとか巻き切れるか……」

幸い、メタナイトが出て来たところは路地裏のため、来た道に戻って何度も角を曲がる。

メタナイト「……逃げ切れたようだな」

先ほどより、さらに疲れたがなんとか逃げ切れた様子。
そのまま今度は注意深く、ハンターとの距離を離すために進む。

メタナイト「ハンターはきつとあっちにいったはず……。こっちに行けばだいぶ距離も離れるだろう」

さらに何度目かの距離を曲がろうとする…が、すこし遠くにハンター¹。

メタナイト「危ない…またさっきのようになる所だった」

ほっと胸をなでおろしたのもつかの間、来た方向にもう一度戻ろうとした瞬間、ちょうど道の交差点にハンターが現れた。
どうやら進行方向がこっちの方だったらしい。

メタナイト「しまった。どうして急いで逃げなかったんだ…」

どうやらやっぱり注意力というか用心深さが暑さの所為で減っていたらしい。

すぐに走り出すがハンターもメタナイトに気づき、すぐに後を追いはじめた。

さっきも走ったため、いまいち速度が上がらず、ハンターとの距離は縮まる一方…。

メタナイト「くっ、万事休すか」

ポンッ

メタナイト確保残り8人

ピルルルルー

ネス「うわっ、ビックリしたー。えっと、確保メール!？」

アイク「…まさかまた裏切り者か？」

トゥーン「住宅街エリアの商店街近くでメタナイト確保、ですか…結構近いです」

ピット「ありゃーこれで残り8人かー」

マルス「あの仮面一頭身また捕まっただねー。無様だねー」

アイク「…お前、メタナイトにだけ酷くないか？」

マルス「酷くないよ。僕以外の剣士が残ってたら僕が目立てないじゃないか☆」

アイク「…最悪だな」

マルス「でもこれで剣士は僕1人。よし、ここから目立てる！」

アイク「…ぬうん」

マルス「……？……あ」

アイク「俺が捕まる時はお前も道連れだな」

マルス「あ、あははー。冗談だってばー。まさか本気にしちゃったのかな、アイク青年」

アイク「…棒読みだな」

新しくエリアに現れた黒い影…。

それはこの暑い日差しの中、誰にも気づかれずに、静かに逃走者を探している。

ネス「塗料屋、塗料屋…んー、どっちだろー」

そして、その黒い影の存在に気づかずに歩いてくるネス。

黒い影との距離は約50mほどで、人通りも大してないのに、全く気付いていないようだ。

ネス「時間もないし、早くペンキ持っていきたいんだけどなー」

どんどん近づいてくるネスを、静かに待ちかまえる黒い影。

お互いの距離はどんどん近くなり、ただ今30m。

ネス「でもハンター4人もいるし、あんまり動きたくないってのが本音だけど…空き地は近くにあるんだけどな…ペンキ…」

距離、数m。

歩いていたネスは、前方にある黒い影の存在にようやく気付いたようだ。

ネス「…え？なんだろうコレ…？」

怪しみながら目の前に置いている（いや、落ちている？）それを凝視しはじめたネスは、メモがはさんでいるのを見つけて、手に取ってみた。

ネス「えっと何々…『貴方が今困っているのならこの“逆転の一手”を使え』……え？」

29話 逆転の一手（後書き）

牢獄DEトーク

サムス「はい、いらっしやーい」

メタナイト「また捕まってしまうとは：無念だ」

ヨッシー「いやいや、メタナイトさんはよく頑張ったと思いますよ」
リンク「でもよく考えると、復活メンバーまだ2人も残ってるよな」
マリオ「姫ー！捕まっても八つ当たりだけはしないd（ry）」

デデデ「なんか最早負け組になってるゾイ」

ポポ「あ、そういえばさ、メタナイトって裏切り者の通報じゃないよね？」

メタナイト「そういえばそうだったな」

ナナ「なんか最近は通報少ないねー」

フォックス「人数も少ないからな。あまりむやみに動けないんじゃないか？」

ピカチュウ「それか、もう残ってる人達には正体ばれてて、警戒されてるとか？」

レッド「さすがにそれは無理だろー。俺たちだってわからないのに」
オリマー「裏切り者と言えば、投票の方、これで31票のメタナイトさんの線は消えましたね」

ファルコン「3位がいきなり消えるなんて、予想外だったよなー」
リュカ「まあ、僕はそろそろ上の方が一人消えると思いましたが」
メタナイト「そんな予想しないでくれよ！」

ルイーザ「でもさ、前までピットとマルスが高かったけど、いつのまにかガノンの票が上がってるよ」

カービィ「やっぱり悪人面だからじゃない？」

ポポ「一応奏音は『ありきたりパターンはきつとない！』って言うってたのにね」

ファルコ「その発言を上回るほど怪しいってか？確かにあいつ出番

は少ないが…」

all「……………」

ファルコ「なんだよ。その冷たい眼は」

サムス「別に。あんたはそのガノン以下の扱い受けてるのによくそんな事言えると思って」

フォックス「黙れよ鳥。素麺食ってろよ」

スネーク「俺のマイホーム《ダンボール》に入ってこい！同じ扱いの酷いもの同士、慰め合おう！」

all「お前は黙れ」 (総攻撃)

スネーク「ぎゃあああっ！ちよ、皆、そんなにスキップされると照れ：おい、マジでコレやばいってt(r y」

サムス「…み、見苦しくなってきたので今回はこの辺で終わるわよっ！じゃ、また次回！！」

30話 異常事態？（前書き）

ども、一部の人はもう知っているかもしれませんが、色々あって引退を考えていたんですが、戻ってまいりましたー。

実は今まで建前では奏音一人だったんですが、実際は裏でイラスト書く人と、アイデア考えてくれる人がいて、3人で一人としてやっていて、直接このサイトにでてくるのは奏音だけだったんですが、それだとまた奏音がつらくなるだろうということで、今後は3人ももサイトに出てくることになりました。

詳しくは活動報告を見ていただけるとありがたいです。

で、3人になったのでユザネを桜坂電波塔に変更。

イラストと、ごく稀に小説を書く（恋愛のみ）の天音と、

ユーモアあるアイデアをいつも考えてくれる要^{かなめ}、

そして今まで通り小説をちまちま書く奏音の3人を改めてよろしくですー。

スマ@は奏音と要で書いてるんで、感想などで呼んで頂ける場合は、今まで通り奏音、または要を呼んでください。

呼んでくれた場合は必ずそっちで返事は書きますのでー。

30話 異常事態？

残り時間35分、残り8人

ヘリAがエリアに到着するまであと5分。

ヘリBはあと10分…。

ピーチ「いい、急がないと！ハンター10体放出はなんとしても阻止しないと！！」

ただいま都市エリアの空き地に向かうピーチ。

距離はたいして遠くはないが、疲れが見え始めたせいか、なかなか空き地にたどりつけない。

ピット「あと5分と10分かー。皆ミッション行ってくれてるのかなー」

こちらはすでにミッションを終えたピット。
さすがに2カ所も行く余裕はないらしい。

ガノン「ん？ピットじゃないか」

と、そこにミッションのために塗料屋を探すガノンと鉢合わせ。

ピット「あ、ガノン。どうしたの、そんなに走り回って」

ガノン「ミッションに決まってるだろう。お前は行く気ないのか？」

ピット「ああ、僕もう一か所やったからもうそんなに走れなくて…」

ガノン「何！もうやったのか。なかなかやるじゃないか。羽が無いくせに」

ピット「…それ、馬鹿にしてるんですか、鈍足魔王」

急に冷やかな目で敬語を発する天使。

どっちかっていうと墮天使？

ガノン「あ、ちよ、もうミッション行かないと…；；じゃ、じゃあな」

ピット「…あ、そうだ。ちよつと待って」

ガノン「ん？どうしたんだ…；」

ピット「裏切り者の正体、誰だか教えようか？僕、わかつちやったんだ」

マルス「にしても僕等こうして走ってるけど、裏切り者にしてみたら格好の獲物だよね」

アイク「…ぬうん。だがミッションに失敗したら全滅はほぼ確実だからな。やむをえん」

こちら森エリアの空き地に向かうアイクと、それについているマルス。

マルス「失敬な！僕がついてきてるんじゃないく、アイクがついてきてるの！」

まあ、どっちでもいいが、皆さん覚えているだろうか。

森エリアといえば、前半戦でほとんど危険にもさらされずひょうひょうと生き抜いた2人を。

アイク「…実はあの時不自然に木が切られている空き地を見つけてな。気になっていたから場所はよく覚えていてる」

マルス「君に記憶力があるなんて意外すぎるけどね」

アイク「……」

バンっ（注、背中への一撃

マルス「い、痛いじゃないかっ！僕のこの美しい顔（いえ、背中ですが）に傷でもついたらどうs」

はい、強制終了

レッド「お、やっと来たな。待ちくたびれたぞ」

注意、ポケトレではなくプリムの方。
ゲストさんの方ですよ、わかつてると思うけど。

シーク「よかった…。間に合ったみたいだね」

レッド「んじゃ、それくれよ」

シークからペンキをうけとったレッドは地面に魔法陣を描いていく。

しかしこれはどう見ても：

シーク「…本当にそれが魔法陣なのかな？」

レッド「言うな…。俺だってそれは気にしてるんだ…！」

やっぱり子供の落書きにしか見えない魔法陣。
誰がこんな模様考えたんだろうねー。

レッド「お前だろ」

フフツ、いくらなんでもこれだけは違うぞ。

このデザインを考えたのはスマ@のアイデア、ネタ担当の要だ！
かなめ

あいつ、小学生もビックリな絵を描くからね。

でも効果のほどはこの奏音がバッチリ保証いたします。

シーク「…新事実発覚だね」

レッド「…ああ、そ、それよりそろそろだ。離れるぞ」

2人がその場から少し離れると、塗料で書いた部分が発光しだして、その光は空に向けて放射された。
そして、光は薄くなりながらも、遠くから見てもよくわかるように光っている。

シーク「ほ、本当にあれで効果でるんだ…」

レッド「作者の力の乱用だよな…」

城エリア（ヘリA対応）クリア

城エリアと海エリアで魔法が発動したため、ハンター10体をのせたへりAはエリアから去って行った。
これで残りはハンター15体をのせたへりBのみとなった。

ピルルルルー

トゥーン「うわわ、メール！？…ミッション途中経過？」

ピーチ「海エリアと城エリアの魔法が発動し、ヘリAのエリア内に到着は免れた。わ、やるじゃない」

アイク「…よし、急ぐぞマルス！」

マルス「仕方ないね。絶対間に合わせるよ！」

現在ペンキを持っているのはこの3組。

残るエリアは森エリアと都市エリア。

残り時間25分までに両エリアともクリアできるのだろうか。

マスター「うわわー！クレイジー、大変だよーっ！」

クレイジー「またあのアホか。ドクター、このドアにボム兵1000個設置してくれ」

ドクター「悪いな。今普通のボム兵を切らしてるんだ。中の火薬を3割増しに改造したものならまだたくさんあるが…」

クレイジー「余計に好都合だ」

マスター「よし、開け…いや、これはきつと開けたらダメな感じだ。開けたら二度とこの世には戻って来れない気がする」

あらら、最近勘がよくなりました？
そういう勘ばかりよくなるのも逆に悲しいと思うのだが…。

マスター「んー、やっぱアレで行こう。ていっ☆」

シュピーン☆

マスター「ちよわっ☆」

クレイジー「うはっ!?!」

ドクター「……」

マスター「あれ？ドクター。クレイジーは？ここにいる感じがしたのになー。あ、もしかして逃げられちゃった？」

ドクター「あー、いや、別に逃げてはないが…（もっと駄目なことはしようとしたが）」

クレイジー「貴様…いい加減にどきやがれ!!」

ズバババババb…

マスター「ちょ、ゴメ、いきなり上から現れてクレイジー下敷きにしてたのは悪かったから!! スーパースコープは危ないから人に向
けちゃ駄目でしょ! ねえ、ちょ、聞ってるー!」

わざわざ状況説明ありがとよ。

どんな窮地に陥ろうと、不屈の心を持ち続ける人型なマスターでした。

ていうか手になればいいのに。

スカカカカカ…

クレイジー「チッ、弾切れか。で、何の用だ? 無駄な事だった場合
後でどせいさん投げるぞ」

マスター「いやあああっ! どせいさんだけは無理、ホント無理い!
本気で…!」

全く意味のない悪乗り。

ちなみにどれだけ高速でどせいさんをなげても大して痛くありません。

所詮車にはね飛ばされる程度です。

クレイジー「早く用件を言わんか」

マスター「あ、うん……。じ、実は……逃走者の皆が腕にはめてる時計（賞金とか残り時間が出る奴）さ、あれにGPS入れてあって、それで管理モニターから居場所と、状況とかも見れるようになってるんだよね」

クレイジー「お前がそこまで細かく仕事したのは正直驚いたが、それがどうした？」

マスター「えっとね、さっき管理モニターで皆が何処にいるか見てたらね……突然ネスの反応がなくなったんだよ！捕まってもいないのに管理モニターとの通信が遮断されてるんだよ！」

クレイジー「はあ……ったく、どうせお前の見間違いだろ」

マスター「違うもん！ちゃんとシステム作成の時に手伝ってくれた要くんにも見ってもらったもん」

要「いきなりふるなよ……。っと、PCの前の皆はじめまして、俺はスマ@のストーリー担当の桜坂電波塔の要だ」

いきなり乱入しておきながらも自己紹介は忘れないちゃっかりしていた要でした。

補足、こいつは小説はそこそこ書けるが絵は下手だ。
小学生もドン引きするよ。

クレイジー「：どのみちその異常が本当だとしてもお前の仕業だろ？
ストーリー担当」

要「は？……あ」

マスター「要くん！？まさか君が主犯だったなんて：」

要「ちょ、ちょっと待てよ！主犯はないだろ！俺はただそろそろ奏音の書くパターンも単調になってきたし、新しいなにかをいれた方がいいんじゃないかーって言ったただけだ！」

クレイジー「全く、とにかくネスを探して来い。お前等2人で」

要「ふっ、残念だったな。作者陣である俺はそこまで深くストーリーに介入できないんだ」

ドクター「ちなみにその設定は：」

要「勿論俺が決めた（奏音とか思い切り介入してるしな）」

マスター「それじゃ、クレイジーも探しに行くよ！早く！」

クレイジー「おいっ、待て。俺は行くなんて一言も：」

ネス「…あれ？賞金のメーターが動いてない！？しかもなんか変な画面になってる…」

残り時間30分。賞金合計324万円

30話 異常事態？（後書き）

マリオ「牢獄DEトーク、はっじめっるよー☆」

サムス「出だし奪われた！」

牢獄DEトーク

マリオ「いやー、にしても本当危なっかしいなー」

ピカチュウ「ハンター10体放出しちゃうと思ったよー」

リンク「あ、そうそう。そういえば作者が奏音から桜坂電波塔になったけど何か変わったことあるのか？」

ポポ「特にないねー」

サムス「そもそも、このスタイルはユザネ変える前と一緒らしいからね」

奏音「そうそう。もし呼ぶ時に桜坂電波塔って呼ばれたら泣くよ」

要「まあ、初めてで仕様が分からない人なら構わないけどな」

奏音「さすがに何回も見たことがある人だと嫌だねー」

フォックス「…って、俺たちの唯一の出番が作者のつぶやきと化してるぞ！」

ルイージ「ネガティブゾーン！」

奏音「うはっ！」

要「…！？どうした、バ奏音！」

奏音「ど、どうせ奏音なんて…奏音なんて…」

要「奏音の卑屈なハートに火がついた！？」

デデデ「ワドルディ軍団行くゾイ！」

要「なっ！？ちょ、待てってコラ！（強制退場）」

………

ナナ「さ…作者に勝った…？」

ファルコ「よし、ようやく牢獄DEトークに平和が戻ったぜ！」

サムス「はい、鳥はあつちで素麺でも食べてな」

30天後話 天音と休憩と10万打記念☆(前書き)

あてんしょん♪

今回はいつものような真面目に見せかけたギャグ小説は展開しませ
ん。

読まなくてもストーリーには一切支障ありません。

見てからガツカリされると私が結構傷つきます。

そもそも奏音が今書いてるわけじゃありません。

天音さんだよ！。

ていうか、まずこれは小説ではない。

A r e Y o u O K ?

30天後話 天音と休憩と10万打記念☆

時を止める少女☆なのですー。

(スマ@内の時間が停止しました)

こんにちは、天音さんです☆

え、奏音はどこいったのかって？何のことかな？

タイトルをよく見てごらんよ、ちゃんと30天後話になってるでしょ。

…意味不明って？しょうがない、説明しよう。

30天後話↓30てんごわ↓30, 5話

つまり、30と31の間の、幕間、間話、断章、裏話とかそういうところだね。

あと、後が30の後、天が天音のことを表してるんだけど、結構よくできてると思わない、かな？

そんなことより、今回出て来たのはただ雑談するためじゃあないよ。でも読まなくてもストーリーに一切かわり無いから、面倒な人は飛ばしてね。

はい、じゃあ残った人はありがとう。さっそく次に進もう！

えーと、スマ@に直接のかかわりが特にない私が言うのもなんだけど、実はつい先日、スマ@が連載1年にして10万アクセスを突破しましたー♪はい、拍手ー。

(さらに私が言うのもなんだけど) こんな拙つたない小説を毎回読みに来てくれるなんてすごいと思うよ。

でも、ただでさえ更新遅いの、他の人と同じように書いてたらつまんなくない？

…つまんない…よね？

てなわけで、私にできることってことで、この天音さんが記念に絵をかいてやったのでしたー。

挿絵つきって私（いや、私達か）がお気に入りにいれてる小説にはほとんどないからね。

新鮮でしょ？絵もアナログなりには多少うまいし。…うまくなくてもうまいつてことだね。

はい、じゃあさっそく公開！

>i31875—1631<

本当は残ってる逃走者全員書きたかったんだけどね。

魔王書けないからさ。

一番簡単な王子を書いてみたよ。

…しかし、王子が嫌いな奴もいるだろう、うん。

ナルシだしね、玉子だしね。

てなわけで、はい次。

>i31876—1631<

王子が嫌いな人のためのネスさん☆
でもこっちが本命だったりする。

で、この絵達。10万打記念なんで、HPでもやらかすけど、フリー配布しちゃうよー。

PCにデータ保存でも、プリントアウトでもなんでもこいやー。

あ、でも二次配布はダメだよ。潰すよ。

あ、二次配布ってのは、天音の絵を、ブログとかに勝手に乗っけて、ご自由にどうぞ的な感じに配布することね。

そのかわり、URLはって誘導するのはOKの方向で。

その他あるわけないと思うけど二次使用的なのでなんかあったら、報告さえしてくれれば使ってもいいよ。あるわけないと思うけど（大切なことなので2回言いました）

はい、普通の人はここでさよなら。

まだ物足りない人は仕方ない、先に進もう。

えっと、少し前（？）に感想でリアルルイージさんに、右手擬人化のイラスト依頼されちって☆

スマ@は両手禁忌が擬人化で話が進んでるからね。知らなかった人は今覚えよう。私が決めたことだから。

まあ、左は以前にのつけたけど、設定が破滅的で矛盾だらけだから、忘れよう。

そのかわりニューバージョンもってきたから。

前のあのビジュアルは奏音のオリキャラに転用してるから。

興味あったら夜桜読めばそのうちでてくるからー。名前見れば一目でわかるからー。

知らない人は知らぬが仏だから聞かないでね（↑

と、いうわけで、はい。

>i31877—1631<

言うまでもなく左目隠れてる青目の白青が右手で、右目隠れてる赤目の黒赤が左手ね。

まあ、見た目以前にスマ@での喋り方とか性格見てたらわかるとおもうけどねー（b y 奏音）

あと、これシチュエーション的には、前話のマスターに強制連行されてるクレイジーの図ね。

いやー、書こうと思ったならあれしか残らなかったから。

てなわけで、リアルルイーダさん、こんな感じです。

一応こいつもフリー配布（？）というわけで。

どうかな。下手なりに時間かけて（ていっても1つに20分程度）頑張ってたんだけど…。

また何か記念になりそうなことあったら書くつもりだからよろしくねー。

そして時は動き出す☆なのですよー。

（スマ@内の時が再び動き出しました）

30天後話 天音と休憩と10万打記念☆（後書き）

…最初と最後のひぐらしネタ、分かる人はどれくらいいるのかな？

つとと、ここまでたどり着いてくれた人ありがとうございます。

きつと「ようやく更新したと思ってみてみたら前回の続きじゃないのかよ、ふざけんな！」って人もいるよね。

あ、声にださないで、心にそっとしまっというて、じゃないと私が泣いちゃう（↑

一応予定として、前活動報告で要が言ってた記念小説を、なんか書くことになったらしくて、スマ@の更新が遅くなるかもしれないし、ならないかもしれない。

でもこれだけは言える…。

2人とも最近バカテスにはまったから記念小説はスマブラとバカテスのクロスオーバーになるだろう…。

では、次こそ、本当の31話をどうぞ！。

…て、いつになるんだろ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6485n/>

スマブラ@逃走中　－謎解きサバイバル!？－

2011年10月7日19時31分発行